

注3

大学番号：031

[平成28年度設置]

計画の区分：研究科の専攻の設置

注1

事前伺い

電気通信大学大学院 情報理工学研究科
情報学専攻（博士前期課程）

注2

【事前伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 電気通信大学
平成29年5月1日現在

作成担当者	
担当部局（課）名	総務課
職名・氏名	係長 <small>ハンドウ</small> 飯銅 <small>ジュンジ</small> 純二
電話番号	042-443-5050
（夜間）	042-443-5050
F A X	042-443-5010
e-mail	kchosa-k@office.uec.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

情報理工学研究科

<情報学専攻(博士前期課程)>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	14
6. 留意事項等に対する履行状況等	28
7. その他全般的事項	29

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 電気通信大学

(2) 大学名

電気通信大学

(3) 大学の位置

〒182-8585
東京都調布市調布ヶ丘1丁目5番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	フクダ タカシ 福田 喬 (平成26年4月1日)		
研究科長	タノ シュンイチ 田野 俊一 (平成29年4月1日)		
専攻長	ヨシウラ ヒロシ 吉浦 裕 (平成29年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成27年度開設の博士後期課程の場合(平成29年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
情報理工学研究科 情報学専攻 (博士前期課程) 修士(工学)(理学)(学術)	工学関係 理学関係	2年	110人	220人	基礎となる学部等 情報理工学域

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平均入学定員超過率		備考
	平成28年度	平成29年度	超過率		
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
A 入学定員	人 110 (-) [-]	人 110 (-) [-]	1.19倍		
志願者数	271 (-) [21]	- (-) [-]	155 (1) [17]	() []	
受験者数	262 (-) [19]	- (-) [-]	152 (1) [17]	() []	
合格者数	234 (-) [9]	- (-) [-]	133 (1) [12]	() []	
B 入学者数	138 (-) [6]	- (-) [-]	124 (1) [12]	() []	
入学定員超過率 B/A	1.25		1.12		

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	平成28年度		平成29年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	138 [6] (-)	— (-)	124 [12] (-)	[] ()	
2年次	/		138 [6] (-)	[] ()	
計	138 [6] (-)		262 [18] (-)		

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成28年度 入学者	138 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人		0.00 %
			平成29年度	0 人	0 人		
平成29年度 入学者	124 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
合 計	262 人	0 人					0.00 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<情報理工学研究科 情報学専攻（博士前期課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院基礎教育科目	大学院総合コミュニケーション科学	1・2前		2		1						兼任教員の負担軽減のため、兼任教員0名に変更。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員1名で対応(28)	
	幾何学基礎論	1・2前		2		1						バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講に変更(28)	
	解析学基礎論	1・2前		2			1						
	代数学基礎論	1・2前		2			1					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講に変更(28)	
	技術者と安全・環境・倫理	1・2前		2								兼1	
	国際社会の政治・経済	1・2前		2		1						兼1	
	日本とアジアの近代史	1・2後		2								兼1	
	科学技術の歴史	1・2後		2			1						
	現代社会と倫理	1・2後		2		+						兼1	専任教授が平成29年度に転出のため、兼任教員1名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29)
	環太平洋圏の社会と文化	1・2後		2		1						兼15	教育内容充実のため、専任教授1名、兼任15名で対応(28)
	幾何学特論	1・2後		2		1							
	解析学特論	1・2後 (隔年開講) 1・2後		2		1		+					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講に変更(28)
代数学特論	1・2後 (隔年開講) 1・2後		2			1						バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講に変更(28)	
教育学特論	1・2後		2		1								
大学院輪講	大学院輪講第一（Ⅰ）	1・2前	1			26 28 27	36 32 23		2	5 8 11		大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)	
	大学院輪講第一（Ⅱ）	1・2後	1			26 28 27	36 32 23		2	5 8 11		大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)	
	大学院輪講第一（Ⅲ）	1・2前	1			26 28 27	36 32 23		2	5 8 11		大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)	
	大学院輪講第一（Ⅳ）	1・2後	1			26 28 27	36 32 23		2	5 8 11		大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)	
大学院技術英語	大学院技術英語	1・2前	2			1	3				兼1		
大学院実践教育科目	ベンチャービジネス特論	1・2前		2		1	+					兼4 兼6	兼任教員の負担軽減のため、兼任教員は4名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29) より教育内容に即した担当教員への変更すると共に兼任教員6名を追加(28)
	知的財産権特論	1・2後		2		1						兼7 兼8	兼任教員の負担軽減のため、兼任教員7名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員8名で対応(28)
	先端技術開発特論	1・2後		2		1						兼15	教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員15名で対応(28)
	ETL(Elementary Teaching Laboratory)	1・2通		2		2	2						
	大学院国際プロジェクト	1・2前		2		2 4 2	2 + 2						専任教員の負担軽減のため、専任教授2名、専任准教授2名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授4名、専任准教授1名で対応(28)
	危機・限界体験特別実験	1・2通		2		2	2						
	国際科学技術コミュニケーション論	1・2前		2		1						兼3	教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員3名で対応(28)
	経営実践特論	1・2前		1					1			兼2	教育内容充実のため、専任助教1名、兼任教員2名で対応(28)
	I T最前線	1・2後		2		1						兼1	教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員1名で対応(28)
	実システム創造	1・2後		2		1	4					兼1	教育内容充実のため、専任教授1名、専任准教授4名、兼任教員1名で対応(28)
データサイエンティスト特論	1・2後		2		1							教育内容充実のため、科目を追加(29)	
データアントレプレナー実践論	1・2後		2		1							教育内容充実のため、科目を追加(29)	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考												
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手													
	オープンイノベーションスクールⅠ	1・2前		1		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)											
	オープンイノベーションスクールⅡ	1・2前		1		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)											
	大学院インターンシップ	1・2前		2		+	1					より教育内容に即した担当教員への変更(29)											
	大学院インターンシップ(海外)	1・2前		2		+	1					より教育内容に即した担当教員への変更(29)											
	大学院インターンシップ(長期)	1・2前		4		+	1					より教育内容に即した担当教員への変更(29)											
	大学院インターンシップ(海外・長期)	1・2前		4		+	1					より教育内容に即した担当教員への変更(29)											
	大学院海外語学研修Ⅰ	1・2前		1			1					教育内容充実のため、科目を追加(29)											
	大学院海外語学研修Ⅱ	1・2前		2			1					教育内容充実のため、科目を追加(29)											
大学院専門教育科目	①メディア情報学プログラム	大学院実践演習(Ⅰ)	1・2前	1			26	36	2		5	大学院担当資格取得等のための変更(29)											
							28	32															
							26	36															
							28	32															
							26	36															
							28	32															
		大学院実践演習(Ⅱ)	1・2後	1				26	36														
								28	32														
		大学院実践演習(Ⅲ)	1・2前	1				26	36														
								28	32														
		大学院実践演習(Ⅳ)	1・2後	1				26	36														
								28	32														
		大学院実践演習	1・2通	4				26	36			5											
								28	32			8											
							26	36			5												
							28	32			8												
							27	23			11												
		メディアアート論	1・2前		2			1															
		知的学習システム	1・2前		2		1																
		コンピュータグラフィックス応用	1・2前		2			1															
		データマイニング	1・2前		2				1														
		音声音響情報処理	1・2前		2		1																
		実践ソフトウェア開発基礎論	1・2前		2		1																
		情報理論基礎	1・2後		2			1															
		数理統計学基礎	1・2後		2		+	1					より教育内容に即した担当教員への変更(28)										
		実践ソフトウェア開発概論Ⅱ	1・2前		2							兼1											
		実践ソフトウェア開発概論Ⅲ	1・2後		2		1					兼1	より教育内容に即した担当教員への変更(29)										
	現代代数学	1・2後 (隔年開講)		2			1					教育内容充実のため、科目を追加(28)											
	数理解析学	1・2後 (隔年開講)		2			1					教育内容充実のため、科目を追加(28)											
	②メディア情報学プログラム	専門科目Ⅱ										兼1											
													メディア論特論	1・2前		2		1					
													認知科学特論	1・2前		2			1				
													画像認識システム特論	1・2後		2		1					
													学習工学特論	1・2前		2		1					
													認知プロセス論特論	1・2前		2		1					
													視覚情報処理特論	1・2後		2			1				
													コミュニケーション論特論	1・2後		2			1				
													計算機科学特論	1・2後		2		1					
													インタラクティブシステム特論	1・2前		2			1				
													マルチメディアコンピューティング特論	1・2後		2							
													マルチエージェントシステム特論	1・2前		2		1					
													リアルタイム制御系設計基礎論	1・2前		4		1					
	制御系設計応用	1・2後		4			1																
	創造的情報メディア論	1・2前		2		1																	
	インテリジェントシステム特論	1・2後		2			1																
	対話型システム特論	1・2後		2		1																	
	ヒューマンインタフェース特論	1・2前		2			1																
	ロボットソフトウェア特論	1・2前		2		1																	
	知能ロボティクス特論	1・2後		2			1																
	システム設計特論1	1・2後		2		1																	
	システム設計特論2	1・2前		2			1																
大学院専門教育科目	②経営・社会情報学プログラム	大学院実践演習(Ⅰ)	1・2前	1			26	36	2		5	大学院担当資格取得等のための変更(29)											
							28	32															
							26	36															
							28	32															
							26	36															
							28	32															
		大学院実践演習(Ⅱ)	1・2後	1				26	36														
								28	32														
		大学院実践演習(Ⅲ)	1・2前	1				26	36														
								28	32														
		大学院実践演習(Ⅳ)	1・2後	1				26	36														
								28	32														
		大学院実践演習	1・2通	4				26	36			5											
								28	32			8											
						27	23			11													
	データマイニング	1・2前		2				1															
	実践ソフトウェア開発基礎論	1・2前		2		1																	
	情報理論基礎	1・2後		2			1																
	数理統計学基礎	1・2後		2		+	1					より教育内容に即した担当教員への変更(28)											
	会計情報システム	1・2前		2							兼1												
	経営情報システム	1・2前		2			1																
	経営計画	1・2前		2							兼1												
	ソフトウェア品質学	1・2後		2				1															
	実践ソフトウェア開発概論Ⅱ	1・2前		2							兼1												
	実践ソフトウェア開発概論Ⅲ	1・2後		2		1					兼1	より教育内容に即した担当教員への変更(29)											
	現代代数学	1・2後 (隔年開講)		2			1					教育内容充実のため、科目を追加(28)											
	数理解析学	1・2後 (隔年開講)		2			1					教育内容充実のため、科目を追加(28)											

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
科目 8	科目 109	科目 0	科目 117	科目 17 [9]	科目 119 [10]	科目 0 [0]	科目 136 [19]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	解析学特論	2	1・2後	一般	選択	バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講とし、平成30年度に開講する。
2	現代代数学	2	1・2後	専門	選択	バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講とし、平成30年度に開講する。
3						

(注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2	該当なし					
3	該当なし					

(注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{2}{117} = \quad = \quad = \quad \boxed{1.7} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎敷地と別地 (校舎より2km)			
	校 舎 敷 地	115,433 m ²	0 m ²	0 m ²	115,433 m ²				
	運 動 場 用 地	38,187 m ²	0 m ²	0 m ²	38,187 m ²				
	小 計	153,620 m ²	0 m ²	0 m ²	153,620 m ²				
	そ の 他	34,685 m ²	0 m ²	0 m ²	34,685 m ²				
	合 計	188,305 m ²	0 m ²	0 m ²	188,305 m ²				
(2) 校 舎	専 用	90,163 m ²	0 m ²	0 m ²	90,163 m ²				
	(90,163 m ²)	(0m ²)	(0m ²)	(90,163 m ²)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	0室	25室	35室	4室 (補助職員 人)	0室 (補助職員 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	情報理工学研究科 情報学専攻 (博士前期課程)			74 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機 械 ・ 器 具	標 本	大学全体	
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル					
	冊	種	[うち外国書]	点	点	点			
	情報理工学研究科 情報学専攻 (博士前期課程)	315,018 [109,394] (315,018 [109,394])	8,887 [6,091] (8,887 [6,091])	3,899 [3,889] (3,899 [3,889])	2,896 (2,896)	0 (0)	0 (0)		
計	315,018 [109,394] (315,018 [109,394])	8,887 [6,091] (8,887 [6,091])	3,899 [3,889] (3,899 [3,889])	2,896 (2,896)	0 (0)	0 (0)			
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		大学全体		
	7,323m ²		621		368,000				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体	
	3,077 m ²		多摩川運動場 (陸上競技場、サッカー・ラグビー場、テニスコート4面、アーチェリー場)、プール、屋外競技場 (弓道場、テニスコート7面)						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当たり研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	電気通信大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入定 学員	編入学 定員	収定 容員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
情報理工学域									
Ⅰ類（情報系）	4	210	3年次 9	858	学士 （工学）	1.04	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	一般入試（前期日程）では学域全体の 大括り入試を採用しており、入学 定員超過率は類別の状況を集計する ことができないため、Ⅰ類、Ⅱ類、 Ⅲ類をまとめ上げた状況を記載して いる。
Ⅱ類（融合系）	4	245	3年次 10	1000	学士 （工学）	1.04	平成28年度	同上	
Ⅲ類（理工系）	4	235	3年次 10	960	学士 （工学）	1.04	平成28年度	同上	
先端工学基礎課程 （夜間主）	4	30	3年次 3	126	学士 （工学）	1.00	平成28年度	同上	
情報理工学部									
総合情報学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先端工学基礎課程 （夜間主）	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報理工学研究科 （博士前期課程）									
情報学専攻	2	110	-	220	修士 （工学）（理学） （学術）	1.19	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	
情報・ネットワーク 工学専攻	2	150	-	300	修士 （工学）（理学） （学術）	1.13	平成28年度	同上	
機械知能システム 学専攻	2	105	-	210	修士 （工学）（理学） （学術）	1.02	平成28年度	同上	
基盤理工学専攻	2	135	-	270	修士 （工学）（理学） （学術）	0.94	平成28年度	同上	
総合情報学専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学 専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止

情報理工学研究科 (博士後期課程)									
情報学専攻	3	13	-	39	博士 (工学)(理学) (学術)	1.23	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	
情報・ネットワーク 工学専攻	3	18	-	54	博士 (工学)(理学) (学術)	0.66	平成28年度	同上	
機械知能システム 学専攻	3	12	-	36	博士 (工学)(理学) (学術)	0.95	平成28年度	同上	
基盤理工学専攻	3	16	-	48	博士 (工学)(理学) (学術)	0.71	平成28年度	同上	
総合情報学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士前期課程)									
情報メディアシステム学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士後期課程)									
情報メディアシステム学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<情報理工学研究科 情報学専攻（博士前期課程）>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	由良 憲二 (61)	平成29年4月	<small>大学院総合コミュニケーション科学</small> 生産システム特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	西野 哲朗 (58)	平成29年4月	<small>国際科学技術コミュニケーション論</small> 実践ソフトウェア開発基礎論 実践ソフトウェア開発概論II 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV) 計算機科学特論						
専	教授	田野 俊一 (58)	平成29年4月	IT最前線 実システム創造 創造的情報メディア論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	庄野 逸 (48)	平成29年4月	知的学習システム 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	羽田 陽一 (52)	平成29年4月	音声音響情報処理 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	兼子 正勝 (63)	平成29年4月	メディア論特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	柳井 啓司 (45)	平成29年4月	画像認識システム特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						

専	教授	柏原 昭博 (52)	平成29年4月	学習工学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	坂本 真樹 (47)	平成29年4月	認知プロセス論特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	高玉 圭樹 (47)	平成29年4月	マルチエージェントシステム特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	広田 光一 (52)	平成29年4月	対話型システム特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	末廣 尚士 (61)	平成29年4月	ロボットソフトウェア特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	大須賀 昭彦 (58)	平成29年4月	システム設計特論Ⅰ 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	椿 美智子 (56)	平成29年4月	サービス・サイエンス特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	板倉 直明 (55)	平成29年4月	生体システム工学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	内海 彰 (51)	平成29年4月	言語認知システム特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						

専	教授	田中 健次 (60)	平成29年4月	システム信頼性特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	栗原 聡 (51)	平成29年4月	人工知能と複雑ネットワーク 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	崎山 一男 (45)	平成29年4月	セキュリティ基礎 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	吉浦 裕 (60)	平成29年4月	コンテンツセキュリティ特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	太田 和夫 (62)	平成29年4月	暗号理論特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	加藤 聰彦 (61)	平成29年4月	ネットワークアーキテクチャ特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	山田 裕一 (48)	平成29年4月	幾何学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	梶本 裕之 (41)	平成29年4月	大学院技術英語 インタラクティブシステム特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	金 路 (39)	平成29年4月	大学院技術英語 リスクマネジメント論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						

専	准教授	松本 光春 (39)	平成29年4月	大学院技術英語 大学院国際プロジェクト 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	橋山 智訓 (49)	平成29年4月	実システム創造 インテリジェントシステム特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	田原 康之 (50)	平成29年4月	実システム創造 システム設計特論2 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	山口 和彦 (55)	平成29年4月	大学院インターンシップ 大学院インターンシップ (海外) 大学院インターンシップ (長期) 大学院インターンシップ (短期・長期) 情報理論基礎 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	兒玉 幸子 (46)	平成29年4月	メディアアート論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	橋本 直己 (44)	平成29年4月	コンピュータグラフィックス応用 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	高橋 裕樹 (50)	平成29年4月	視覚情報処理特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	野嶋 琢也 (41)	平成29年4月	ヒューマンインタフェース特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						

専	准教授	工藤 俊亮 (39)	平成29年4月	知能ロボティクス特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	山田 哲男 (43)	平成29年4月	経営情報システム 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	水戸 和幸 (42)	平成29年4月	人間工学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	山本 佳世子 (48)	平成29年4月	時空間情報科学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	岩崎 敦 (43)	平成29年4月	ゲーム理論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	高田 哲司 (46)	平成29年4月	ネットワークセキュリティ特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	石上 嘉康 (50)	平成29年4月	離散情報構造特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	市野 将嗣 (37)	平成29年4月	ソフトウェアセキュリティ特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	大坐島 智 (42)	平成29年4月	コンピュータネットワーク特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						

専	准教授	岩本 貢 (40)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	佐藤 寛之 (36)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	水野 統太 (41)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	大野 真裕 (51)	平成29年4月	代数学基礎論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	榎本 直也 (36)	平成29年4月	代数学特論 現代代数学 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	天野 友之 (38)	平成29年4月	数理統計学基礎 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	久野 雅樹 (52)	平成29年4月	認知科学特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	大河原 一憲 (41)	平成29年4月	コミュニケーション論特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	江木 啓訓 (39)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						

専	准教授	横川 慎二 (47)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	講師	山本 涉 (48)	平成29年4月	データマイニング 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	講師	西 康晴 (46)	平成29年4月	ソフトウェア品質学 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	助教	川喜田 佑介 (39)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	助教	小泉 直也 (35)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	助教	清 雄一 (35)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	助教	松吉 俊 (36)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	助教	若月 光夫 (51)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
兼担	教授	山口 耕平 (62)	平成29年4月	幾何学基礎論						
兼担	教授	梶浦 篤 (56)	平成29年4月	国際社会の政治・経済						
兼担	教授	阿部 浩二 (60)	平成29年4月	現代社会と倫理						
兼担	教授	久藤 衡介 (44)	平成29年4月	解析学特論						

兼担	教授	佐々木 啓子 (62)	平成29年4月	教育学特論						
兼担	教授	史 杰 (54)	平成29年4月	大学院技術英語						
兼担	教授	安部 博文 (63)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼担	教授	本間 高弘 (52)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼担	教授	渡邊 昌良 (61)	平成29年4月	先端技術開発特論						
兼担	教授	米田 仁紀 (56)	平成29年4月	ETL(Elementary Teaching Laboratory) 危機・限界体験特別実験 オープンイノベーションスクールⅠ オープンイノベーションスクールⅡ						
兼担	教授	鈴木 勝 (57)	平成29年4月	ETL(Elementary Teaching Laboratory) 危機・限界体験特別実験						
兼担	教授	肖 鳳超 (51)	平成29年4月	大学院国際プロジェクト						
兼担	教授	藤井 威生 (42)	平成29年4月	大学院国際プロジェクト						
兼担	教授	田村 元紀 (61)	平成29年4月	データサイエンティスト特論 データアントレプレナー実践論						
兼担	教授	桂川 真幸 (54)	平成29年4月	オープンイノベーションスクールⅠ オープンイノベーションスクールⅡ						
兼担	教授	新 誠一 (62)	平成29年4月	リアルタイム制御系設計基礎論						
兼担	准教授	石田 晴久 (48)	平成29年4月	解析学基礎論 数理解析学						
兼担	准教授	佐藤 賢一 (49)	平成29年4月	科学技術の歴史						
兼担	准教授	島田 宏 (55)	平成29年4月	ETL(Elementary Teaching Laboratory) 危機・限界体験特別実験						
兼担	准教授	宮本 洋子 (50)	平成29年4月	ETL(Elementary Teaching Laboratory) 危機・限界体験特別実験						
兼担	准教授	安達 宏一 (34)	平成29年4月	大学院国際プロジェクト						
兼担	准教授	笠井 裕之 (45)	平成29年4月	実システム創造						
兼担	准教授	小宮 常康 (48)	平成29年4月	実システム創造						
兼担	准教授	古川 裕介 (41)	平成29年4月	オープンイノベーションスクールⅠ オープンイノベーションスクールⅡ						
兼担	准教授	CHOO Cheow Keong (48)	平成29年4月	大学院海外語学研修Ⅰ 大学院海外語学研修Ⅱ						
兼担	准教授	小木曾 公尚 (41)	平成29年4月	制御系設計応用						
兼担	准教授	伊東 裕也 (57)	平成29年4月	数理解析学						

兼任	助教	牧 昌次郎 (50)	平成29年4月	経営実践特論								
兼任	講師	岡田 和則 (55)	平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)								
兼任	講師	折原 良平 (54)	平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)								
兼任	講師	山川 宏 (52)	平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)								
兼任	講師	石川 冬樹 (37)	平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)								
兼任	講師	川村 隆浩 (47)	平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)								
兼任	講師	栗原 恒弥 (58)	平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)								
兼任	講師	布施 哲治 (46)	平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)								
兼任	講師	Ved Prasad Kafle (46)	平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)								
兼任	講師	松林 達史 (41)	平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)								

兼任	講師	山田 隆亮 (51)	平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)							
兼任	講師	高野倉 雅人 (43)	平成29年4月	技術者と安全・環境・倫理							
兼任	講師	木元 麻里 (44)	平成29年4月	現代社会と倫理							
兼任	講師	澤田 ゆかり (56)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化							
兼任	講師	丹羽 泉 (60)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化							
兼任	講師	長谷部 美佳 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化							
兼任	講師	John Porter (36)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化							
兼任	講師	野平 宗弘 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化							
兼任	講師	左右田 直規 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化							
兼任	講師	倉田 明子 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化							
兼任	講師	田島 陽一 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化							
兼任	講師	岡田 知子 (51)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化							
兼任	講師	降幡 正志 (50)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化							
兼任	講師	小川 英文 (61)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化							
兼任	講師	宮田 敏之 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化							
兼任	講師	山内 由理子 (44)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化							
兼任	講師	李 孝徳 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化							
兼任	講師	佐々木 孝弘 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化							
兼任	講師	Derr, Jonathan (52)	平成29年4月	大学院技術英語							
兼任	講師	赤羽 雄二 (62)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論							
兼任	講師	村井 雄司 (52)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論							

兼任	講師	安藤 晴彦 (55)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	講師	村口 和孝 (58)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	講師	尾原 和貴 (46)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	木村 友久 (61)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	加藤 浩一郎 (51)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	岡村 信一 (58)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	劉 昕 (50)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	香島 拓也 (49)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	戸田 恒夫 (65)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	山田 節夫 (50)	平成29年4月	実践ソフトウェア開発概論Ⅱ						
兼任	講師	尾内 理紀夫 (67)	平成29年4月	マルチメディアコンピューティング概論						
兼任	講師	北田 皓嗣 (34)	平成29年4月	会計情報システム						
兼任	講師	山田 哲弘 (33)	平成29年4月	経営計画						
兼任	講師	山田 俊皓 (33)	平成29年4月	金融工学特論						
兼任	講師	藤川 裕晃 (63)	平成29年4月	経営システム工学特論						

- (注) ・ 設置時の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
20	14	3
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)
23	23	2	12	60	23	29	2	5	59	23	29	2	5	59
(23)	(29)	(2)	(5)	(59)						[0]	[6]	[0]	[Δ7]	[Δ1]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
55	5	0			59	0	0			59	0	0		
(59)	0	0								[4]	[Δ5]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記（A））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（B））の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1	教授	◎◎ ◎◎	必修	○○概論	①	……………のため就任辞退（27）	
			選択	◆◆基礎	②		
			必修	☆☆演習	③		
2	准教授	△△	該当なし			……………のため就任辞退（29）	
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
○○	人	必修	○○	科目	必修	○○	科目
		選択	○○	科目	選択	○○	科目
		自由	○○	科目	自由	○○	科目
		計	○○	科目	計	○○	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1	教授	◎◎ ◎◎	必修	○○概論	①	……………のため辞任（27）	
			選択	◆◆基礎	②		
			必修	☆☆演習	③		
2	准教授	△△	該当なし			……………のため辞任（29）	
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
○○	人	必修	○○	科目	必修	○○	科目
		選択	○○	科目	選択	○○	科目
		自由	○○	科目	自由	○○	科目
		計	○○	科目	計	○○	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (A) + (C)		後任補充状況の集計 (B) + (D)				
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)		
○○	該当なし				○○	科目
	該当なし				○○	科目
	該当なし				○○	科目
	計				○○	科目

- (注) ・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (〇〇年〇〇月)		〇〇意見	
設置計画 調 査 (△△年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年2月)		改善意見	
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年2月)	・同一設置者が設置する既設学部等(〇〇学科、●●学科)の～すること。	〇〇意見	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

7 その他全般的事項

<情報理工学研究科 情報学専攻（博士前期課程）>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
記入例) ① 修了要件単位 1 2 4 単位 ② 施設・設備 a 講義室〇室 b 自習室〇室(〇m) c 図書〇〇冊	科目(1科 象表)参照) 室, 自習室を , 図書も〇〇冊 増書した。
<h1 style="font-size: 2em;">該当なし</h1>	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 大学教育センター教育推進部門が中心となり、教育の質の改善・向上に向けた取組を実施している。</p> <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む) 教育推進部門会議(平成28年度) 第42回(6月13日:参加者8名) 第43回(9月28日:参加者9名) 第44回(11月21日:参加者5名) 第45回(1月30日:参加者7名) 第46回(3月2日:参加者9名)</p> <p>c 委員会の審議事項等 (1) ファカルティ・ディベロップメントの実施に関すること (2) 学生授業評価の実施に関すること (3) シラバス及び成績評価に関すること (4) 教育環境の整備に関すること (5) その他、教育に関わる調査の実施に関すること</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容 ・第1回TA講習会(4月6日) ・FD数学、物理、情報、基礎学力検討会(4月13日) ・学院院新任教育系職員研修会(4月21日) ・第1回ハラスメント防止研修(7月5日) ・実験実習研究会(8月30日) ・第2回TA講習会(9月23日) ・教育研究技師部職員研修(9月26日) ・英語FDワークショップ(10月11日) ・第1回大学の教育力向上FD講演会「学生による授業評価アンケート、卒業生調査の活用を中心として」(11月29日) ・第2回ハラスメント防止研修(12月16日) ・第2回大学の教育力向上FD講演会「今、なぜアクティブラーニングか」(12月19日) ・公開授業:ソフトウェア工学(12月22日) ・第3回大学の教育力向上FD講演会「欧州大学の苦悩と挑戦-大学としての共通性と多様性をどう両立させるか-」(2月24日)</p> <p>b 実施方法 大学教育センター教育推進部門を中心として、全学的なファカルティ・ディベロップメント講演会、公開授業の参観、授業評価アンケートに関するワークショップ等に取り組んでいる。</p>
--

c 開催状況（教員の参加状況含む）

4月6日：参加者287名【学生274名、教員13名】
4月13日：参加者39名
4月21日：参加者23名
7月5日：参加者111名
8月30日：参加者37名
9月23日：参加者68名【学生56名、教員12名】
9月26日：参加者19名
10月11日：参加者20名
11月29日：参加者63名
12月16日：参加者60名
12月19日：参加者57名
12月22日：参加者15名
2月24日：参加者39名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教育改善調査の実施及び各種研修プログラムの提供について、第3期中期目標・中期計画を踏まえた道筋の検討を進めた。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前学期及び後学期終了時に実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果を教員にフィードバックすることにより、自主的な授業の改善を促しているほか、他の教員の参考となるように、アンケートの総合評価が高かった科目の中で、科目区分（講義、実験、体育、大学院）別に上位10%のものについて、大学教育センターの学内専用ウェブサイトで公開している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画に基づき、平成28年4月1日に開設した。「広い視野と倫理観を持ち、グローバル社会で活躍できる確かな専門知識と実践的な応用力を持ち、リーダーとして企画・開発をも担える高度専門技術者を育成する」という設置の趣旨・目的に沿った教育・研究体制のもと、現在まで順調に進んでいる。引き続き、当該趣旨・目的に沿った教育・研究活動を計画どおり実施していきたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

平成29年7月公開予定

b 公表方法

「自己点検・評価報告書（年度計画の実施状況）」を作成し、大学ホームページにて公表する。

③ 認証評価を受ける計画

平成33年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成29年 6月 30日)

注3

大学番号：031

[平成28年度設置]

計画の区分：研究科の専攻の設置

注1

事前伺い

電気通信大学大学院 情報理工学研究科
情報・ネットワーク工学専攻（博士前期課程）

注2

【事前伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 電気通信大学
平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 総務課

職名・氏名 係長 ハンドウ飯銅 ジュンジ純二

電話番号 042-443-5050

（夜間） 042-443-5050

F A X 042-443-5010

e-mail kchosa-k@office.uec.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

情報理工学研究科

<情報・ネットワーク工学専攻(博士前期課程)>		ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	15
6. 留意事項等に対する履行状況等	32
7. その他全般的事項	33

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 電気通信大学

(2) 大学名

電気通信大学

(3) 大学の位置

〒182-8585
東京都調布市調布ヶ丘1丁目5番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	フクダ タカシ 福田 喬 (平成26年4月1日)		
研究科長	タノ シュンイチ 田野 俊一 (平成29年4月1日)		
専攻長	チョウ キ 張 熙 (平成29年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成27年度開設の博士後期課程の場合(平成29年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
情報理工学研究科 情報・ネットワーク工学専攻 (博士前期課程) 修士(工学)(理学)(学術)	工学関係 理学関係	2年	150人	300人	基礎となる学部等 情報理工学域

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平均入学定員超過率		備考
	平成28年度	平成29年度	超過率		
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
A 入学定員	人 150 (-) [-]	人 150 (-) [-]	1.13倍		
志願者数	269 (2) (-) [30] [-]	235 (2) () [35] []			
受験者数	251 (2) (-) [26] [-]	223 (2) () [33] []			
合格者数	223 (1) (-) [16] [-]	186 (2) () [20] []			
B 入学者数	171 (1) (-) [13] [-]	169 (2) () [16] []			
入学定員超過率 B/A	1.14		1.12		

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	平成28年度		平成29年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	171 [13] (-)	- (-)	169 [16] (-)	[] ()	
2年次	/		170 [12] (-)	[] ()	
計	171 [13] (-)		339 [28] (-)		

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成28年度 入学者	171 人	1 人	平成28年度	1 人	0 人	・就職(1人)	0.58 %
			平成29年度	0 人	0 人		
平成29年度 入学者	169 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
合 計	340 人	1 人					0.29 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<情報理工学研究科 情報・ネットワーク工学専攻（博士前期課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院基礎教育科目	大学院総合コミュニケーション科学	1・2前		2		1						兼1 兼任教員の負担軽減のため、兼任教員0名に変更。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員1名で対応(28)
	幾何学基礎論	1・2前		2		1						
	解析学基礎論	1・2前		2			1					
	代数学基礎論	1・2前		2			1					
	技術者と安全・環境・倫理	1・2前		2								兼1
	国際社会の政治・経済	1・2前		2		1						
	日本とアジアの近代史	1・2後		2								兼1
	科学技術の歴史	1・2後		2			1					
	現代社会と倫理	1・2後		2		1						兼1 専任教授が平成29年度に転出のため、兼任教員1名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29)
	環太平洋圏の社会と文化	1・2後		2		1						兼15 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任15名で対応(28)
	幾何学特論	1・2後		2		1						
	解析学特論	1・2後 (隔年開講) 1・2後		2		1	1					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講に変更(28)
	代数学特論	1・2後 (隔年開講) 1・2後		2			1					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講に変更(28)
教育学特論	1・2後		2		1							
大学院輪講	大学院輪講第一 (I)	1・2前	1			42 41 36	42 41 33	1	11 12 14			大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)
	大学院輪講第一 (II)	1・2後	1			42 41 36	42 41 33	1	11 12 14			大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)
	大学院輪講第一 (III)	1・2前	1			42 41 36	42 41 33	1	11 12 14			大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)
	大学院輪講第一 (IV)	1・2後	1			42 41 36	42 41 33	1	11 12 14			大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)
大学院技術英語	大学院技術英語	1・2前	2			6 4	7 5 3		3			兼1 教育内容充実のため、専任教授6名、専任准教授7名、専任助教3名、兼任教員1名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授4名、専任准教授5名、助教3名及び兼任1名で対応(28)
大学院実践教育科目	ベンチャービジネス特論	1・2前		2		1	1					兼4 兼6 兼任教員の負担の軽減のため、兼任教員4名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29) より教育内容に即した担当教員への変更すると共に兼任教員6名を追加(28)
	知的財産権特論	1・2後		2		1						兼7 兼8 兼任教員の負担軽減のため、兼任教員7名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員8名で対応(28)
	先端技術開発特論	1・2後		2		1						兼15 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員15名で対応(28)
	ETL(Elementary Teaching Laboratory)	1・2通		2		2	2					
	大学院国際プロジェクト	1・2前		2		2 4 2	2 1 2					専任教員の負担軽減のため、専任教授2名、専任准教授2名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授4名、専任准教授1名で対応(28)
	危機・限界体験特別実験	1・2通		2		2	2					
	国際科学技術コミュニケーション論	1・2前		2		1						兼3 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員3名で対応(28)
	経営実践特論	1・2前		1					1			兼2 教育内容充実のため、専任助教1名、兼任教員2名で対応(28)
	IT最前線	1・2後		2		1						兼1 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員1名で対応(28)
	実システム創造	1・2後		2		1	4					兼1 教育内容充実のため、専任教授1名、専任准教授4名、兼任教員1名で対応(28)
	データサイエンティスト特論	1・2後		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)
データアントレプレナー実践論	1・2後		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
	オープンイノベーションスクールⅠ	1・2前		1		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)	
	オープンイノベーションスクールⅡ	1・2前		1		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)	
	大学院インターンシップ	1・2前		2		4	2					より教育内容に即した担当教員への変更(29) 専任教授の負担軽減のため、専任准教授で対応(28)	
	大学院インターンシップ(海外)	1・2前		2		4	2					より教育内容に即した担当教員への変更(29) 専任教授の負担軽減のため、専任准教授で対応(28)	
	大学院インターンシップ(長期)	1・2前		4		4	2					より教育内容に即した担当教員への変更(29) 専任教授の負担軽減のため、専任准教授で対応(28)	
	大学院インターンシップ(海外・長期)	1・2前		4		4	2					より教育内容に即した担当教員への変更(29) 専任教授の負担軽減のため、専任准教授で対応(28)	
	大学院海外語学研修Ⅰ	1・2前		1			1					教育内容充実のため、科目を追加(29)	
	大学院海外語学研修Ⅱ	1・2前		2			1					教育内容充実のため、科目を追加(29)	
大学院専門教育科目	①情報理工学プログラム	大学院実践演習(Ⅰ)	1・2前	1		42	42			11		大学院担当資格取得等のための変更(29) 教育内容を充実・強化するため、通年4単位を分割し、半期1単位4科目に変更(28)	
		大学院実践演習(Ⅱ)	1・2後	1		44	44			12			
		大学院実践演習(Ⅲ)	1・2前	1		42	42		1	11			
		大学院実践演習(Ⅳ)	1・2後	1		44	44			12			
		大学院実践演習	1・2通	4		42	42			11			
						44	44			12			
						36	33			14			
		情報・ネットワーク工学専攻基礎	1・2前		2		1	1					
		計算機アーキテクチャ基礎論	1・2前		2		1						
		応用解析基礎論	1・2前		2		1						
	アルゴリズム基礎論	1・2前		2			1						
	応用アルゴリズム論	1・2後		2		1							
	ハイパフォーマンスコンピューティング基礎論	1・2後		2		1							
	シミュレーション理工学基礎論	1・2後		2		1							
	離散最適化基礎論	1・2後		2		1	4				専任准教授の昇任に伴い、教授1名に変更(29)		
	連続最適化基礎論	1・2後		2		1							
	②コンピュータサイエンスプログラム	知識データ工学特論	1・2前		2		1						より教育内容に即した担当教員への変更。それに伴い開講学期の変更(29) 専任准教授が平成28年度に転出のため、同准教授が兼任教員として対応。それに伴い開講学期を変更(28)
		ハイパフォーマンスコンピューティング特論	1・2前		2		1						
		並列分散システム特論	1・2後		2			1					
		シミュレーション理工学特論	1・2後		2			1					
アルゴリズム特論		1・2後		2			1						
応用解析学特論		1・2後		2		1							
知能情報特論		1・2後		2		1							
理論計算機科学特論		1・2前		2			1						
ソフトウェア基礎特論		1・2前		2			1						
計算機構特論		1・2前		2		1							
ソフトウェアセキュリティ特論	1・2後 1・2前 1・2後		2			1							
リアルタイム制御系設計基礎論	1・2前		4		1								
制御系設計応用	1・2後		4			1							
ベイズの人工知能特論	1・2前		2		1								
統計的機械学習特論	1・2後		2			1							
システムソフトウェア特論	1・2前		2		1	4				より教育内容に即した担当教員への変更(29) 専任教授が平成27年度に退職のため、客員准教授へ変更(28)			
基盤ソフトウェア特論	1・2後		2			1							
並列処理論第一	1・2前		2		1								
並列処理論第二	1・2後		2			1							
②コンピュータサイエンスプログラム	②コンピュータサイエンスプログラム	大学院実践演習(Ⅰ)	1・2前	1		42	42			11		大学院担当資格取得等のための変更(29) 教育内容を充実・強化するため、通年4単位を分割し、半期1単位4科目に変更(28)	
		大学院実践演習(Ⅱ)	1・2後	1		44	44			12			
		大学院実践演習(Ⅲ)	1・2前	1		42	42		1	11			
		大学院実践演習(Ⅳ)	1・2後	1		44	44			12			
		大学院実践演習	1・2通	4		42	42			11			
						44	44			12			
						36	33			14			
		情報・ネットワーク工学専攻基礎	1・2前		2		1	1					
		計算機アーキテクチャ基礎論	1・2前		2		1						
		アルゴリズム基礎論	1・2前		2			1					
応用アルゴリズム論	1・2後		2		1								
ハイパフォーマンスコンピューティング基礎論	1・2後		2		1								
プログラム言語基礎論	1・2前		2		1								
離散最適化基礎論	1・2後		2		1	4				専任准教授の昇任に伴い、教授1名に変更(29)			
連続最適化基礎論	1・2後		2		1								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院専門教育科目	専門科目Ⅱ	ヒューマンインタフェース特論	1・2後		2							兼1 より教育内容に即した担当教員への変更。それに伴い開講学期の変更(29) 専任准教授が平成28年度に転出のため、同准教授が兼任教員として対応。それに伴い開講学期を変更(28) 兼1	
		知識データ工学特論	1・2前		2		1						
		ハイパフォーマンスコンピューティング特論	1・2前		2		1						
		並列分散システム特論	1・2後		2			1					
		アルゴリズム特論	1・2後		2			1					
		知能情報特論	1・2後		2		1						
		ソフトウェア基礎特論	1・2前		2			1					
		計算機構特論	1・2前		2		1						
		ソフトウェアセキュリティ特論	1・2後 1・2前 1・2後		2			1 1					
		画像認識システム特論	1・2後		2		1						
		マルチメディアコンピューティング特論	1・2後		2								
		情報ネットワーク特論	1・2後		2		1						
		ネットワークアプリケーション特論	1・2後		2			1					
		リアルタイム制御系設計基礎論	1・2前		4		1						
		制御系設計応用	1・2後		4			1					
		ネットワークコンピューティング特論	1・2前		2			1					
		計算機ネットワーク特論	1・2後		2		1						
		音声対話処理	1・2後		2		1						
		アルゴリズム工学特論	1・2前		2			1					
		データ工学原論1	1・2前		2			1					
データ工学原論2	1・2前		2		1								
大学院専門教育科目	③情報通信工学プログラム 専門科目Ⅰ 専門科目Ⅱ	大学院実践演習(Ⅰ)	1・2前	1			42	42		11		兼1 大学院担当資格取得等のための変更(29) 教育内容を充実・強化するため、通年4単位を分割し、半期1単位4科目に変更(28) 専任教授が平成29年度に転出のため、同教授が兼任教員として対応(29) 教育内容充実のため、科目を追加(29) 教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名へ変更(29) 教育内容充実のため、専任教授1名、専任准教授1名へ変更(29) 教育内容充実のため、科目を追加(29) 教育内容充実のため、専任教授1名、専任准教授1名で対応(28)	
		大学院実践演習(Ⅱ)	1・2後	1			41	41		12			
		大学院実践演習(Ⅲ)	1・2前	1			41	41		12			
		大学院実践演習(Ⅳ)	1・2後	1			41	41		11			
		大学院実践演習	1・2通	4			42	42		11			
		情報・ネットワーク工学専攻基礎	1・2前		2		1	1			14		
		情報伝送基礎	1・2前		2			1					
		情報通信ネットワーク	1・2前		2		1						
		データ圧縮基礎	1・2前		2		1						
		回路システム基礎	1・2後		2			2					
		集積回路基礎	1・2前		2		1						
		集積回路設計特論	1・2前		2		2	1					
		マイクロ波回路設計特論	1・2前		2		1						
		環境電磁工学特論	1・2前		2		1	1					
		無線通信システム特論	1・2前		2		1	1					
		情報理論特論	1・2後		2		1						
		情報光学特論	1・2後		2			1					
		宇宙通信工学特論	1・2後		2		2	1					
		光通信システム特論	1・2後		2		1						
		CMOS集積回路設計学特論	1・2後		2		1						
センシング工学特論	1・2後		2			1							
マルチメディア信号処理特論	1・2前		2				1						
信号解析学特論	1・2前		2			1							
リアルタイム制御系設計基礎論	1・2前		4		1								
制御系設計応用	1・2後		4			1							
情報幾何学特論	1・2後		2		1	1							
量子情報数理特論	1・2前		2			1							
大学院専門教育科目	④電子情報学プログラム 専門科目Ⅰ	大学院実践演習(Ⅰ)	1・2前	1			42	42		11	兼1 大学院担当資格取得等のための変更(29) 教育内容を充実・強化するため、通年4単位を分割し、半期1単位4科目に変更(28) 専任教授が平成29年度に転出のため、同教授が兼任教員として対応(29) 教育内容充実のため、科目を追加(29) 教育内容充実のため、専任教授1名、専任准教授1名へ変更(29)		
		大学院実践演習(Ⅱ)	1・2後	1			41	41		12			
		大学院実践演習(Ⅲ)	1・2前	1			41	41		11			
		大学院実践演習(Ⅳ)	1・2後	1			41	41		11			
		大学院実践演習	1・2通	4			42	42		11			
		情報・ネットワーク工学専攻基礎	1・2前		2		1	1				14	
		情報通信ネットワーク	1・2前		2		1						
		データ圧縮基礎	1・2前		2		1						
		回路システム基礎	1・2後		2			2					
		集積回路基礎	1・2前		2		1						
デジタル信号処理基礎	1・2前		2		1	1							

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 科 目 II	集積回路設計特論	1・2前		2		2	1					兼1 教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名へ変更(29) 教育内容充実のため、科目を追加(29)
	情報光学特論	1・2後		2			1					
	センシング工学特論	1・2後		2			1					
	マルチメディア信号処理特論	1・2前		2					1			
	信号解析学特論	1・2前		2			1					
	伝送工学特論	1・2前		2			1					
	電磁波環境観測技術特論	1・2後		2		2	1					
	生体電磁工学特論	1・2後		2			1					
	非線形システム特論	1・2後		2			1					
	ヒューマンインタフェース特論	1・2後		2								
	固体照明工学特論	1・2後		2		1						
	音響システム特論	1・2前		2			1					
	リアルタイム制御系設計基礎論	1・2前		4		1						
	制御系設計応用	1・2後		4			1					
	情報データ解析論	1・2前		2		1						
データ解析最適化論	1・2後		2			1						

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
科目 9	科目 127	科目 0	科目 136	科目 21 [12]	科目 135 [8]	科目 0 [0]	科目 156 [20]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	解析学特論	2	1・2後	一般	選択	バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講とし、平成30年度に開講する。
2						
3						

(注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2	該当なし					
3	該当なし					

(注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{1}{136} = \boxed{0.73} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎敷地と別地 (校舎より2km)		
	校 舎 敷 地	115,433 m ²	0 m ²	0 m ²	115,433 m ²			
	運 動 場 用 地	38,187 m ²	0 m ²	0 m ²	38,187 m ²			
	小 計	153,620 m ²	0 m ²	0 m ²	153,620 m ²			
	そ の 他	34,685 m ²	0 m ²	0 m ²	34,685 m ²			
	合 計	188,305 m ²	0 m ²	0 m ²	188,305 m ²			
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
		90,163 m ² (90,163 m ²)	0 m ² (0m ²)	0 m ² (0m ²)	90,163 m ² (90,163 m ²)			
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		
		0室	46室	55室	4室 (補助職員 人)	0室 (補助職員 人)		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数			
		情報理工学研究科 情報・ネットワーク工学専攻(博士前期課程)			121 室			
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機 械 ・ 器 具	標 本	
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル				
	冊	種	[うち外国書]	点	点	点		
	情報理工学研究科 情報・ネットワーク工学 専攻(博士前期課程)	315,018 [109,394] (315,018 [109,394])	8,887 [6,091] (8,887 [6,091])	3,899 [3,889] (3,899 [3,889])	2,896 (2,896)	0 (0)	0 (0)	
計	315,018 [109,394] (315,018 [109,394])	8,887 [6,091] (8,887 [6,091])	3,899 [3,889] (3,899 [3,889])	2,896 (2,896)	0 (0)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
	7,323m ²		621		368,000			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	3,077 m ²		多摩川運動場(陸上競技場、サッカー・ラグビー場、テニスコート4面、アーチェリー場)、プール、屋外競技場(弓道場、テニスコート7面)					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	電気通信大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入定 学員	編入学 定員	収定 容員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
情報理工学域									
Ⅰ類（情報系）	4	210	3年次 9	858	学士 （工学）	1.04	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	一般入試（前期日程）では学域全体の 大括り入試を採用しており、入学 定員超過率は類別 の状況を集計する ことができないた め、Ⅰ類、Ⅱ類、 Ⅲ類をまとめ上げ た状況を記載して いる。
Ⅱ類（融合系）	4	245	3年次 10	1000	学士 （工学）	1.04	平成28年度	同上	
Ⅲ類（理工系）	4	235	3年次 10	960	学士 （工学）	1.04	平成28年度	同上	
先端工学基礎課程 （夜間主）	4	30	3年次 3	126	学士 （工学）	1.00	平成28年度	同上	
情報理工学部									
総合情報学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先端工学基礎課程 （夜間主）	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報理工学研究科 （博士前期課程）									
情報学専攻	2	110	-	220	修士 （工学）（理学） （学術）	1.19	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	
情報・ネットワーク 工学専攻	2	150	-	300	修士 （工学）（理学） （学術）	1.13	平成28年度	同上	
機械知能システム 学専攻	2	105	-	210	修士 （工学）（理学） （学術）	1.02	平成28年度	同上	
基盤理工学専攻	2	135	-	270	修士 （工学）（理学） （学術）	0.94	平成28年度	同上	
総合情報学専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学 専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止

情報理工学研究科 (博士後期課程)									
情報学専攻	3	13	-	39	博士 (工学)(理学) (学術)	1.23	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	
情報・ネットワーク 工学専攻	3	18	-	54	博士 (工学)(理学) (学術)	0.66	平成28年度	同上	
機械知能システム 学専攻	3	12	-	36	博士 (工学)(理学) (学術)	0.95	平成28年度	同上	
基盤理工学専攻	3	16	-	48	博士 (工学)(理学) (学術)	0.71	平成28年度	同上	
総合情報学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士前期課程)									
情報メディアシステム学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士後期課程)									
情報メディアシステム学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<情報理工学研究科 情報・ネットワーク工学専攻（博士前期課程）>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	村松 正和 (51)	平成29年4月	大学院技術英語 連続最適化基礎論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	植野 真臣 (51)	平成29年4月	大学院技術英語 ベイズの人工知能特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	大森 匡 (54)	平成29年4月	大学院技術英語 データ工学原論2 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	芳原 容英 (49)	平成29年4月	大学院技術英語 電磁波環境観測技術特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	小林 聡 (51)	平成29年4月	情報・ネットワーク工学専攻基礎 応用アルゴリズム論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	佐藤 証 (52)	平成29年4月	計算機アーキテクチャ基礎論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						

専	教授	山本 野人 (57)	平成29年4月	応用解析基礎論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	山本 有作 (50)	平成29年4月	ハイドロメカニクスコンピュータシミュレーション 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	仲谷 栄伸 (54)	平成29年4月	シミュレーション理工学基礎論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	岡本 吉央 (40)	平成29年4月	離散最適化基礎論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	兼岩 憲 (46)	平成29年4月	知識データ工学特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	成見 哲 (47)	平成29年4月	ハイドロメカニクスコンピュータシミュレーション 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	伊藤 大雄 (55)	平成29年4月	計算機構特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	本多 弘樹 (55)	平成29年4月	並列処理論第一 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						

専	教授	岩崎 英哉 (57)	平成29年4月	プログラム言語基礎論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	小花 貞夫 (63)	平成29年4月	情報ネットワーク特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	吉永 努 (53)	平成29年4月	計算機ネットワーク特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	南 泰浩 (54)	平成29年4月	音声対話処理 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	川端 勉 (61)	平成29年4月	データ圧縮基礎 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	野崎 眞次 (63)	平成29年4月	集積回路基礎 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	石橋 孝一郎 (59)	平成29年4月	集積回路設計特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	和田 光司 (48)	平成29年4月	マイクロ回路設計特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						

専	教授	來住 直人 (57)	平成29年4月	光通信システム特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	範 公可 (52)	平成29年4月	CMOS集積回路設計学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	内田 和男 (57)	平成29年4月	固体照明工学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	森田 啓義 (61)	平成29年4月	情報データ解析論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	橋本 猛 (64)	平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	藤井 威生 (42)	平成29年4月	大学院技術英語 大学院国際プロジェクト 無線通信システム特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	久野 靖 (60)	平成29年4月	システムソフトウェア特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	山尾 泰 (62)	平成29年4月	集積回路設計特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						

専	教授	山口 耕平 (62)	平成29年4月	幾何学基礎論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)					
専	教授	久藤 衡介 (44)	平成29年4月	解析学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)					
専	准教授	川野 秀一 (35)	平成29年4月	大学院技術英語 統計的機械学習特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)					
専	准教授	古賀 久志 (46)	平成29年4月	大学院技術英語 アルゴリズム工学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)					
専	准教授	松浦 基晴 (44)	平成29年4月	大学院技術英語 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)					
専	准教授	八木 秀樹 (41)	平成29年4月	大学院技術英語 情報・ネットワーク工学専攻基礎 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)					
専	准教授	細川 敬祐 (41)	平成29年4月	大学院技術英語 宇宙通信工学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)					
専	准教授	武永 康彦 (50)	平成29年4月	アルゴリズム基礎論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)					

専	准教授	中山 泰一 (52)	平成29年4月	並列分散システム特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	龍野 智哉 (45)	平成29年4月	シミュレーション理工学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	村尾 裕一 (61)	平成29年4月	アルゴリズム特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	垂井 淳 (56)	平成29年4月	理論計算機科学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	中野 圭介 (41)	平成29年4月	大学院インターンシップ 大学院インターンシップ (海外) 大学院インターンシップ (長期) 大学院インターンシップ (海外・長期) ソフトウェア基礎特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	小宮 常康 (48)	平成29年4月	実システム創造 基礎ソフトウェア特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	三輪 忍 (39)	平成29年4月	並列処理論第二 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	寺田 実 (58)	平成29年4月	ネットワークアプリケーション特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						

専	准教授	Wu 策力木格 (37)	平成29年4月	ネットワークコンピュータサイエンス 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	新谷 隆彦 (47)	平成29年4月	データ工学原論 I 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	韓 承鎬 (41)	平成29年4月	情報伝送基礎 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	西 一樹 (55)	平成29年4月	回路システム基礎 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	小島 年春 (56)	平成29年4月	回路システム基礎 無線通信システム特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	石川 亮 (43)	平成29年4月	集積回路設計特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	萱野 良樹 (38)	平成29年4月	環境電磁工学特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	高橋 弘太 (56)	平成29年4月	センシング工学特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						

専	准教授	鈴木 淳 (40)	平成29年4月	情報幾何学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	小川 朋宏 (47)	平成29年4月	量子情報数理特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	鷺沢 嘉一 (37)	平成29年4月	デジタル信号処理基礎 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	安藤 芳晃 (44)	平成29年4月	伝送工学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	木寺 正平 (38)	平成29年4月	生体電磁工学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	田中 久陽 (50)	平成29年4月	非線形システム特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	野村 英之 (43)	平成29年4月	音響システム特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	笠井 裕之 (45)	平成29年4月	実システム創造 大学院インターンシップ 大学院インターンシップ (海外) 大学院インターンシップ (長期) 大学院インターンシップ (短期・長期) データ解析最適化論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						

専	准教授	保木 邦仁 (41)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	山崎 匡 (43)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	安達 宏一 (34)	平成29年4月	大学院技術英語 大学院国際プロジェクト 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	伊東 裕也 (57)	平成29年4月	信号解析学特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	富澤 一郎 (64)	平成29年4月	電磁波環境観測技術特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	石田 晴久 (48)	平成29年4月	解析学基礎論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	石橋 功至 (37)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	講師	小田 弘 (57)	平成29年4月	マルチメディア信号処理特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						

専	助教	湯 素華 (41)	平成29年4月	大学院技術英語 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	助教	関 新之助 (35)	平成29年4月	大学院技術英語 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	助教	KITSUWAN NATTAPONG (38)	平成29年4月	大学院技術英語 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	助教	伊藤 毅志 (52)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	助教	小野 哲 (34)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	助教	栗原 正純 (51)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	助教	小山 大介 (49)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	助教	高橋 里司 (31)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	助教	津田 卓雄 (36)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						

専	助教	中鹿 亘 (31)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	助教	藤田 秀之 (41)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
兼担	教授	Jeffreys Atsuko M. (55)	平成29年4月	大学院技術英語						
兼担	教授	新 誠一 (62)	平成29年4月	リアルタイム制御系設計基礎論						
兼担	教授	柳井 啓司 (45)	平成29年4月	画像認識システム特論						
兼担	教授	柳澤 正久 (64)	平成29年4月	電磁波環境観測技術特論						
兼担	教授	由良 憲二 (61)	平成29年4月	大学院総合コミュニケーション科学						
兼担	教授	西野 哲朗 (58)	平成29年4月	国際科学技術コミュニケーション論						
兼担	教授	田野 俊一 (58)	平成29年4月	I T最前線 実システム創造						
兼担	教授	梶浦 篤 (56)	平成29年4月	国際社会の政治・経済						
兼担	教授	阿部 浩二 (60)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼担	教授	山田 裕一 (48)	平成29年4月	幾何学特論						
兼担	教授	佐々木 啓子 (62)	平成29年4月	教育学特論						
兼担	教授	安部 博文 (63)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼担	教授	本間 高弘 (52)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼担	教授	渡邊 昌良 (61)	平成29年4月	先端技術開発特論						
兼担	教授	米田 仁紀 (56)	平成29年4月	ETL (Elementary Teaching Laboratory) 危機・限界体験特別実験 オープンイノベーションスクール1 オープンイノベーションスクール2						
兼担	教授	鈴木 勝 (57)	平成29年4月	ETL (Elementary Teaching Laboratory) 危機・限界体験特別実験						
兼担	教授	田村 元紀 (61)	平成29年4月	データサイエンティスト特論 データアントレプレナー実践論						
兼担	教授	桂川 真幸 (54)	平成29年4月	オープンイノベーションスクール1 オープンイノベーションスクール2						

兼担	准教授	Lucantonio Damian (60)	平成29年4月	大学院技術英語						
兼担	准教授	市野 将嗣 (37)	平成29年4月	ソフトウェアセキュリティ特論						
兼担	准教授	小木曾 公尚 (41)	平成29年4月	制御系設計応用						
兼担	准教授	武者 満 (53)	平成29年4月	情報光工学特論						
兼担	准教授	松本 光春 (39)	平成29年4月	大学院国際プロジェクト						
兼担	准教授	橋山 智訓 (49)	平成29年4月	実システム創造						
兼担	准教授	田原 康之 (50)	平成29年4月	実システム創造						
兼担	准教授	大野 真裕 (51)	平成29年4月	代数学基礎論						
兼担	准教授	佐藤 賢一 (49)	平成29年4月	科学技術の歴史						
兼担	准教授	榎本 直也 (36)	平成29年4月	代数学特論						
兼担	准教授	島田 宏 (55)	平成29年4月	ETL(Elementary Teaching Laboratory) 危機・限界体験特別実験						
兼担	准教授	宮本 洋子 (50)	平成29年4月	ETL(Elementary Teaching Laboratory) 危機・限界体験特別実験						
兼担	准教授	古川 裕介 (41)	平成29年4月	オープンイノベーションスクールI オープンイノベーションスクールII						
兼担	准教授	CHOO Cheow Keong (48)	平成29年4月	大学院海外語学研修 I 大学院海外語学研修 II						
兼担	助教	牧 昌次郎 (50)	平成29年4月	経営実践特論						
兼任	講師	荻野 長生 (62)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
兼任	講師	櫻木 勸四郎 (63)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
兼任	講師	田 光江 (57)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						

兼任	講師	李 還幫 (52)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
兼任	講師	磯崎 隆司 (45)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
兼任	講師	末田 欣子 (48)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
兼任	講師	鈴木 一哉 (44)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
兼任	講師	本庄 利守 (43)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
兼任	講師	柳生 智彦 (46)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
兼任	講師	HIGUCHI SONIA (48)	平成29年4月	大学院技術英語						
兼任	講師	角田 博保 (66)	平成29年4月	ヒューマンインタフェース特論						
兼任	講師	尾内 理紀夫 (67)	平成29年4月	マルチメディアコンピューティング特論						
兼任	講師	大木 英司 (48)	平成29年4月	情報通信ネットワーク						
兼任	講師	高野倉 雅人 (43)	平成29年4月	技術者と安全・環境・倫理						
兼任	講師	木元 麻里 (44)	平成29年4月	現代社会と倫理						
兼任	講師	澤田 ゆかり (56)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	丹羽 泉 (60)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						

兼任	講師	長谷部 美佳 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	John Porter (36)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	野平 宗弘 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	左右田 直規 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	倉田 明子 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	田島 陽一 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	岡田 知子 (51)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	降幡 正志 (50)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	小川 英文 (61)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	宮田 敏之 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	山内 由理子 (44)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	李 孝徳 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	佐々木 孝弘 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	赤羽 雄二 (62)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	講師	村井 雄司 (52)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	講師	安藤 晴彦 (55)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	講師	村口 和孝 (58)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	講師	尾原 和貴 (46)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	木村 友久 (61)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	加藤 浩一郎 (51)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	岡村 信一 (58)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	劉 昕 (50)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	香島 拓也 (49)	平成29年4月	知的財産権特論						

兼任	講師	戸田 恒夫 (65)	平成29年4月	知的財産権特論						
----	----	---------------	---------	---------	--	--	--	--	--	--

- (注) ・ 設置時の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
26	18	3
名	名	名

- (注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件(平成十一年九月十四日文科省告示第七十五号)により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在(報告書提出時)の状況					現在(報告書提出時)の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)
34	32	1	15	82	32	37	1	11	81	32	37	1	11	81
(32)	(37)	(1)	(11)	(81)						[Δ2]	[5]	[0]	[Δ4]	[Δ1]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
75	7	0			81	0	0			81	0	0		
(81)	(0)	(0)								[6]	[Δ7]	[0]		

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在(報告書提出時)の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 ・ 「現在(報告書提出時)の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ1)

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告書提出時(上記(A))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(B))の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1	教授	◎◎ ◎◎	必修	○○概論	①	……………のため就任辞退 (27)	
			選択	◆◆基礎	②		
			必修	☆☆演習	③		
2	准教授	△△	該当なし			……………のため就任辞退 (29)	
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
○○	人	必修	○○ 科目	必修	○○ 科目	必修	○○ 科目
		選択	○○ 科目	選択	○○ 科目	選択	○○ 科目
		自由	○○ 科目	自由	○○ 科目	自由	○○ 科目
		計	○○ 科目	計	○○ 科目	計	○○ 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1	教授	◎◎ ◎◎	必修	○○概論	①	……………のため辞任 (27)	
			選択	◆◆基礎	②		
			必修	☆☆演習	③		
2	准教授	△△	該当なし			……………のため辞任 (29)	
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
○○	人	必修	○○ 科目	必修	○○ 科目	必修	○○ 科目
		選択	○○ 科目	選択	○○ 科目	選択	○○ 科目
		自由	○○ 科目	自由	○○ 科目	自由	○○ 科目
		計	○○ 科目	計	○○ 科目	計	○○ 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (A) + (C)			後任補充状況の集計 (B) + (D)			
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
○○	該当なし		○○ 科目	必修	○○ 科目	
			○○ 科目	選択	○○ 科目	
			○○ 科目	自由	○○ 科目	
			計	○○ 科目	計	○○ 科目

- (注) ・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (〇〇年〇〇月)		〇〇意見	
設置計画 調 査 (△△年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年2月)		改善意見	
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年2月)	・同一設置者が設置する既設学部等(〇〇学科、●●学科)の～すること。	〇〇意見	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

7 その他全般的事項

<情報理工学研究科 情報・ネットワーク工学専攻（博士前期課程）>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど	
記入例) ① 修了要件単位 124単位	科目（1科 象表」参照） 室，自習室を ，図書も〇〇冊	
② 施設・設備 a 講義室〇室		該当なし
b 自習室〇室（〇m） c 図書〇〇冊		

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

① 実施体制
a 委員会の設置状況 大学教育センター教育推進部門が中心となり、教育の質の改善・向上に向けた取組を実施している。
b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 教育推進部門会議（平成28年度） 第42回（6月13日：参加者8名） 第43回（9月28日：参加者9名） 第44回（11月21日：参加者5名） 第45回（1月30日：参加者7名） 第46回（3月2日：参加者9名）
c 委員会の審議事項等 (1) ファカルティ・ディベロップメントの実施に関すること (2) 学生授業評価の実施に関すること (3) シラバス及び成績評価に関すること (4) 教育環境の整備に関すること (5) その他、教育に関わる調査の実施に関すること
② 実施状況
a 実施内容 ・ 第1回TA講習会（4月6日） ・ FD数学、物理、情報、基礎学力検討会（4月13日） ・ 学院院新任教育系職員研修会（4月21日） ・ 第1回ハラスメント防止研修（7月5日） ・ 実験実習研究会（8月30日） ・ 第2回TA講習会（9月23日） ・ 教育研究技師部職員研修（9月26日） ・ 英語FDワークショップ（10月11日） ・ 第1回大学の教育力向上FD講演会「学生による授業評価アンケート、卒業生調査の活用を中心として」（11月29日） ・ 第2回ハラスメント防止研修（12月16日） ・ 第2回大学の教育力向上FD講演会「今、なぜアクティブラーニングか」（12月19日） ・ 公開授業：ソフトウェア工学（12月22日） ・ 第3回大学の教育力向上FD講演会「欧州大学の苦悩と挑戦 - 大学としての共通性と多様性をどう両立させるか -」（2月24日）
b 実施方法 大学教育センター教育推進部門を中心として、全学的なファカルティ・ディベロップメント講演会、公開授業の参観、授業評価アンケートに関するワークショップ等に取り組んでいる。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

4月6日：参加者287名【学生274名、教員13名】
4月13日：参加者39名
4月21日：参加者23名
7月5日：参加者111名
8月30日：参加者37名
9月23日：参加者68名【学生56名、教員12名】
9月26日：参加者19名
10月11日：参加者20名
11月29日：参加者63名
12月16日：参加者60名
12月19日：参加者57名
12月22日：参加者15名
2月24日：参加者39名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教育改善調査の実施及び各種研修プログラムの提供について、第3期中期目標・中期計画を踏まえた道筋の検討を進めた。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前学期及び後学期終了時に実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果を教員にフィードバックすることにより、自主的な授業の改善を促しているほか、他の教員の参考となるように、アンケートの総合評価が高かった科目の中で、科目区分（講義、実験、体育、大学院）別に上位10%のものについて、大学教育センターの学内専用ウェブサイトで公開している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画に基づき、平成28年4月1日に開設した。「広い視野と倫理観を持ち、グローバル社会で活躍できる確かな専門知識と実践的な応用力を持ち、リーダーとして企画・開発をも担える高度専門技術者を育成する」という設置の趣旨・目的に沿った教育・研究体制のもと、現在まで順調に進んでいる。引き続き、当該趣旨・目的に沿った教育・研究活動を計画どおり実施していきたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

平成29年7月公開予定

b 公表方法

「自己点検・評価報告書（年度計画の実施状況）」を作成し、大学ホームページにて公表する。

③ 認証評価を受ける計画

平成33年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成29年 6月 30日)

注3

大学番号：031

[平成28年度設置]

計画の区分：研究科の専攻の設置

注1

事前伺い

電気通信大学大学院 情報理工学研究科
機械知能システム学専攻（博士前期課程）

注2

【事前伺い】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 電気通信大学
平成29年5月1日現在

作成担当者	
担当部局（課）名	総務課
職名・氏名	係長 <small>ハンドウ</small> 飯銅 <small>ジュンジ</small> 純二
電話番号	042-443-5050
（夜間）	042-443-5050
F A X	042-443-5010
e-mail	kchosa-k@office.uec.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

情報理工学研究科

＜機械知能システム学専攻(博士前期課程)＞		ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	15
6. 留意事項等に対する履行状況等	27
7. その他全般的事項	28

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 電気通信大学

(2) 大学名

電気通信大学

(3) 大学の位置

〒182-8585
東京都調布市調布ヶ丘1丁目5番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	フクダ タカシ 福田 喬 (平成26年4月1日)		
研究科長	タノ シュンイチ 田野 俊一 (平成29年4月1日)		
専攻長	クボキ タカシ 久保木 孝 (平成29年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成27年度開設の博士後期課程の場合(平成29年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
情報理工学研究科 機械知能システム学専攻 (博士前期課程) 修士(工学)(理学)(学術)	工学関係 理学関係	2年	105人	210人	基礎となる学部等 情報理工学域

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平均入学定員超過率		備考
	平成28年度	平成29年度	超過率		
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
A 入学定員	人 105 (-) [-]	人 105 (-) [-]	1.02倍		
志願者数	145 (-) [8]	1 (-) [1]	165 (1) [21]	() []	
受験者数	140 (-) [7]	1 (-) [1]	155 (1) [16]	() []	
合格者数	129 (-) [6]	1 (-) [1]	126 (1) [10]	() []	
B 入学者数	103 (-) [6]	1 (-) [1]	112 (1) [9]	() []	
入学定員超過率 B/A	0.99		1.06		

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	平成28年度		平成29年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	103 [6] (-)	1 [1] (-)	112 [9] (-)	1 [1] (-)	
2年次	/		102 [6] (-)	() ()	
計	104 [7] (-)		215 [16] (-)		

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成28年度 入学者	103 人	1 人	平成28年度	1 人	0 人	・就職(1人)	0.97 %
			平成29年度	0 人	0 人		
平成29年度 入学者	113 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
合 計	216 人	1 人					0.46 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<情報理工学研究科 機械知能システム学専攻（博士前期課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院基礎教育科目	大学院総合コミュニケーション科学	1・2前		2		1						兼1 兼任教員の負担軽減のため、兼任教員0名に変更。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員1名で対応(28)
	幾何学基礎論	1・2前		2		1						
	解析学基礎論	1・2前		2			1					
	代数学基礎論	1・2前		2			1					
	技術者と安全・環境・倫理	1・2前		2								兼1
	国際社会の政治・経済	1・2前		2		1						
	日本とアジアの近代史	1・2後		2								兼1
	科学技術の歴史	1・2後		2			1					
	現代社会と倫理	1・2後		2		1						兼1 専任教授が平成29年度に転出のため、兼任教員1名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29)
	環太平洋圏の社会と文化	1・2後		2		1						兼15 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任15名で対応(28)
	幾何学特論	1・2後		2		1						
	解析学特論	1・2後 (隔年開講) 1・2後		2		1	1					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講に変更(28)
	代数学特論	1・2後 (隔年開講) 1・2後		2			1					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講に変更(28)
教育学特論	1・2後		2		1							
大学院輪講	大学院輪講第一 (I)	1・2前	1			25 22 21	15 18 16		9 10 9			大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)
	大学院輪講第一 (II)	1・2後	1			25 22 21	15 18 16		9 10 9			大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)
	大学院輪講第一 (III)	1・2前	1			25 22 21	15 18 16		9 10 9			大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)
	大学院輪講第一 (IV)	1・2後	1			25 22 21	15 18 16		9 10 9			大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)
大学院技術英語	大学院技術英語	1・2前	2			1 3	4 1				兼1 教育内容充実のため、専任教授1名、専任准教授4名、兼任教員1名で対応	
大学院実践教育科目	ベンチャービジネス特論	1・2前		2		1	1					兼4 兼6 兼任教員の負担軽減のため、専任教授1名、兼任教員4名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29) より教育内容に即した担当教員への変更すると共に兼任教員6名を追加(28)
	知的財産権特論	1・2後		2		1						兼7 兼8 兼任教員の負担軽減のため、兼任教員7名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員8名で対応(28)
	先端技術開発特論	1・2後		2		1						兼15 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員15名で対応(28)
	ETL(Elementary Teaching Laboratory)	1・2通		2		2	2					
	大学院国際プロジェクト	1・2前		2		2 4 2	2 1 2					専任教員の負担軽減のため、専任教授2名、専任准教授2名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授4名、専任准教授1名で対応(28)
	危機・限界体験特別実験	1・2通		2		2	2					
	国際科学技術コミュニケーション論	1・2前		2		1						兼3 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員3名で対応(28)
	経営実践特論	1・2前		1					1			兼2 教育内容充実のため、専任助教1名、兼任教員2名で対応(28)
	I T最前線	1・2後		2		1						兼1 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員1名で対応(28)
	実システム創造	1・2後		2		1	4					兼1 教育内容充実のため、専任教授1名、専任准教授4名、兼任教員1名で対応(28)
	データサイエンティスト特論	1・2後		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)
データアントレプレナー実践論	1・2後		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)	
オープンイノベーションスクール I	1・2前		1		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手						
	オープンイノベーションスクールⅡ	1・2前		1		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)				
	大学院インターンシップ	1・2前		2		1										
	大学院インターンシップ(海外)	1・2前		2		1										
	大学院インターンシップ(長期)	1・2前		4		1										
	大学院インターンシップ(海外・長期)	1・2前		4		1										
	大学院海外語学研修Ⅰ	1・2前		1			1						教育内容充実のため、科目を追加(29)			
	大学院海外語学研修Ⅱ	1・2前		2			1						教育内容充実のため、科目を追加(29)			
大学院専門教育科目	①計測・制御システムプログラム	大学院実践演習(Ⅰ) 大学院実践演習(Ⅱ) 大学院実践演習(Ⅲ) 大学院実践演習(Ⅳ) 大学院実践演習	1・2前	1			25	15		9		大学院担当資格取得等のための変更(29) 教育内容を充実・強化するため、通年4単位を分割し、半期1単位4科目に変更(28)				
			1・2後	1			22	18		10						
			1・2前	1			25	15		9						
			1・2後	1			22	18		10						
			1・2通	4			25	15		9						
	②先端ロボティクスプログラム	専門科目Ⅰ	機械知能システム学専攻基礎	1・2前		2		2	1				より教育内容に即した担当教員へ変更(29) より教育内容に即した担当教員へ変更(28)			
			熱工学基礎	1・2前		2		1								
			流体工学基礎	1・2前		2		1								
			バイオメカニクス基礎	1・2前		2		1								
			材料強度学基礎	1・2前		2			1							
			生産加工学基礎	1・2前		2		1								
			計測工学基礎	1・2前		2		2	1					より教育内容に即した担当教員へ変更(29)		
			ロボット工学基礎	1・2前		2		1	1					教育内容充実のため、専任教授1名、専任准教授1名で対応(28)		
			制御系設計学基礎	1・2前		2			1							
			③制御システムプログラム	専門科目Ⅱ(A)	センサ信号処理学特論	1・2後		2		1						専任教授の負担軽減のため、専任教授1名に変更。なお、学生の教育に支障はない(29) 専任准教授の昇任に伴い、教授2名に変更(29) より教育内容に即した担当教員へ変更(28)
	生体計測工学特論	1・2後				2		2	1							
	ロボスト制御工学特論	1・2後				2		1	1							
	組込み制御システム学特論	1・2後				2		1	1							
	リアルタイム制御系設計基礎論	1・2前				4		1								
	制御系設計応用	1・2後				4			1							
	知覚システム特論	1・2前				2			1							
	感覚運動システム特論	1・2前				2		1								
	④メカトロニクスプログラム	専門科目Ⅱ(B)			メカトロニクス特論	1・2後		2			1				専任准教授の昇任に伴い、教授2名に変更(29) 専任准教授の昇任に伴い、教授1名に変更(29) 教育内容充実のため、科目を追加(29) 教育内容充実のため、科目を追加(29) 教育内容充実のため、科目を追加(29)	
					ロボット応用工学特論	1・2後		2		2	1					
			ロボット機構制御特論	1・2後		2		2								
運動計測学特論			1・2後		2			1								
バーチャルリアリティ特論			1・2後		2			1								
コンピュータビジョン特論			1・2後		2		2									
ロボット情報工学特論			1・2後		2		2									
設計システム工学特論			1・2後		2		1	1								
知的生産システム特論			1・2後		2		1	1								
機械情報学特論			1・2後		2		1									
力学系現象特論	1・2後		2		1	1										
計算力学特論	1・2後		2		1											
ナノトライボロジー特論	1・2後		2		1											
Advanced Robotics and Mechatronics Engineering	1・2前		2		1											
大学院国際協働学術研修	1・2前			2	1											
大学院国際協働学術研修(長期)	1・2前			4	1											
大学院専門教育科目	⑤先端ロボティクスプログラム	大学院実践演習(Ⅰ) 大学院実践演習(Ⅱ) 大学院実践演習(Ⅲ) 大学院実践演習(Ⅳ) 大学院実践演習	1・2前	1			25	15		9		大学院担当資格取得等のための変更(29) 教育内容を充実・強化するため、通年4単位を分割し、半期1単位4科目に変更(28)				
			1・2後	1			22	18		10						
			1・2前	1			25	15		9						
			1・2後	1			22	18		10						
			1・2通	4			25	15		9						
		⑥先端ロボティクスプログラム	専門科目Ⅰ	機械知能システム学専攻基礎	1・2前		2		2	1				より教育内容に即した担当教員へ変更(29) より教育内容に即した担当教員へ変更(28)		
				熱工学基礎	1・2前		2		1							
				流体工学基礎	1・2前		2		1							
				バイオメカニクス基礎	1・2前		2		1							
				材料強度学基礎	1・2前		2			1						
				生産加工学基礎	1・2前		2		1							
				計測工学基礎	1・2前		2		2	1					より教育内容に即した担当教員へ変更(29)	
				ロボット工学基礎	1・2前		2		1	1					教育内容充実のため、専任准教授1名を追加(28)	
				制御系設計学基礎	1・2前		2			1						

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院 ③機械システムプログラム 大学院専門教育科目	メカトロニクス特論	1・2後		2			1					専任准教授の昇任に伴い、教授2名に変更(29)
	ロボット応用工学特論	1・2後		2		2	+					
	ロボット機構制御特論	1・2後		2		2						
	運動計測学特論	1・2後		2			1					
	バーチャルリアリティ特論	1・2後		2			1					
	コンピュータビジョン特論	1・2後		2		2						
	ロボット情報工学特論	1・2後		2		2						
	リアルタイム制御系設計基礎論	1・2前		4		1						
	制御系設計応用	1・2後		4			1					
	設計システム工学特論	1・2後		2		1	1					専任准教授の昇任に伴い、教授1名に変更(29)
	知的生産システム特論	1・2後		2		1	+					
	機械情報学特論	1・2後		2		1						
	力学系現象特論	1・2後		2		1	1					
	計算力学特論	1・2後		2		1						
	ナノトライボロジー特論	1・2後		2		1						
	センサ信号処理学特論	1・2後		2		1	2					
	生体計測工学特論	1・2後		2		2	+					
	ロバスト制御工学特論	1・2後		2		1	+					より教育内容に即した担当教員へ変更(28)
	組込み制御システム学特論	1・2後		2		1	1					
	知覚システム特論	1・2前		2			1					
	感覚運動システム特論	1・2前		2		1						
	Advanced Robotics and Mechatronics Engineering	1・2前		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)
	大学院国際協働学術研修	1・2前			2	1						教育内容充実のため、科目を追加(29)
	大学院国際協働学術研修(長期)	1・2前			4	1						教育内容充実のため、科目を追加(29)
	大学院実践演習(Ⅰ)	1・2前	1			25	15		9			大学院担当資格取得等のための変更(29) 教育内容を充実・強化するため、通年4単位を分割し、半期1単位4科目に変更(28)
	大学院実践演習(Ⅱ)	1・2後	1			22	18		10			
	大学院実践演習(Ⅲ)	1・2前	1			25	15		9			
	大学院実践演習(Ⅳ)	1・2後	1			22	18		10			
大学院実践演習	1・2通	4			25	15		9				
					22	18		10				
					21	16		9				
機械知能システム学専攻基礎	1・2前		2		2	1					より教育内容に即した担当教員へ変更(29)	
熱工学基礎	1・2前		2		+	2					より教育内容に即した担当教員へ変更(28)	
流体工学基礎	1・2前		2		1							
バイオメカニクス基礎	1・2前		2		1							
材料強度学基礎	1・2前		2			1						
生産加工学基礎	1・2前		2		1							
計測工学基礎	1・2前		2		2	+					より教育内容に即した担当教員へ変更(29)	
ロボット工学基礎	1・2前		2		1	1					教育内容充実のため、専任准教授1名を追加(28)	
制御系設計学基礎	1・2前		2			1						
設計システム工学特論	1・2後		2		1	1					専任准教授の昇任に伴い、教授1名に変更(29)	
知的生産システム特論	1・2後		2		1	+						
機械情報学特論	1・2後		2		1							
力学系現象特論	1・2後		2		1	1						
計算力学特論	1・2後		2		1							
ナノトライボロジー特論	1・2後		2		1							
リアルタイム制御系設計基礎論	1・2前		4		1							
制御系設計応用	1・2後		4			1						
メカトロニクス特論	1・2後		2			1					専任准教授の昇任に伴い、教授2名に変更(29)	
ロボット応用工学特論	1・2後		2		2	+						
ロボット機構制御特論	1・2後		2		2							
運動計測学特論	1・2後		2			1						
バーチャルリアリティ特論	1・2後		2			1						
コンピュータビジョン特論	1・2後		2		2							
ロボット情報工学特論	1・2後		2		2							
センサ信号処理学特論	1・2後		2		1	2						
生体計測工学特論	1・2後		2		2	+						
ロバスト制御工学特論	1・2後		2		1	+					より教育内容に即した担当教員へ変更(28)	
組込み制御システム学特論	1・2後		2		1	1						
知覚システム特論	1・2前		2			1						
感覚運動システム特論	1・2前		2		1							
Advanced Robotics and Mechatronics Engineering	1・2前		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)	
大学院国際協働学術研修	1・2前			2	1						教育内容充実のため、科目を追加(29)	
大学院国際協働学術研修(長期)	1・2前			4	1						教育内容充実のため、科目を追加(29)	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	

- (注)
- ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
科目 8	科目 120	科目 0	科目 128	科目 17 [9]	科目 127 [7]	科目 6 [6]	科目 150 [22]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	解析学特論	2	1・2後	一般	選択	バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講とし、平成30年度に開講する。
2						
3						

(注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2	該当なし					
3	該当なし					

(注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{1}{128} = = \boxed{0.78} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	校舎敷地と別地 (校舎より2km)		
	校舎敷地	115,433 m ²	0 m ²	0 m ²	115,433 m ²			
	運動場用地	38,187 m ²	0 m ²	0 m ²	38,187 m ²			
	小 計	153,620 m ²	0 m ²	0 m ²	153,620 m ²			
	そ の 他	34,685 m ²	0 m ²	0 m ²	34,685 m ²			
	合 計	188,305 m ²	0 m ²	0 m ²	188,305 m ²			
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			
		90,163 m ² (90,163 m ²)	0 m ² (0m ²)	0 m ² (0m ²)	90,163 m ² (90,163 m ²)			
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		
		0室	5室	73室	2室 (補助職員 人)	0室 (補助職員 人)		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数			
		情報理工学研究科 機械知能システム学専攻 (博士前期課程)			70 室			
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機械・器具	標 本	
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル				
		冊	種	[うち外国書]				
		点	点	点				
情報理工学研究科 機械知能システム学専攻 (博士前期課程)	315,018 [109,394] (315,018 [109,394])	8,887 [6,091] (8,887 [6,091])	3,899 [3,889] (3,899 [3,889])	2,896 (2,896)	0 (0)	0 (0)	大学全体	
計	315,018 [109,394] (315,018 [109,394])	8,887 [6,091] (8,887 [6,091])	3,899 [3,889] (3,899 [3,889])	2,896 (2,896)	0 (0)	0 (0)		
(6) 図 書 館		面 積		閲 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数			
		7,323m ²		621	368,000			
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				
		3,077 m ²		多摩川運動場 (陸上競技場、サッカー・ラグビー場、テニスコート4面、アーチェリー場)、プール、屋外競技場 (弓道場、テニスコート7面)				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当たり納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
		学生納付金以外の維持方法の概要						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	電気通信大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入定 学員	編入学 定員	収定 容員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
情報理工学域									
Ⅰ類（情報系）	4	210	3年次 9	858	学士 （工学）	1.04	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	一般入試（前期日程）では学域全体の大括り入試を採用しており、入学定員超過率は類別の状況を集計することができないため、Ⅰ類、Ⅱ類、Ⅲ類をまとめ上げた状況を記載している。
Ⅱ類（融合系）	4	245	3年次 10	1000	学士 （工学）	1.04	平成28年度	同上	
Ⅲ類（理工系）	4	235	3年次 10	960	学士 （工学）	1.04	平成28年度	同上	
先端工学基礎課程 （夜間主）	4	30	3年次 3	126	学士 （工学）	1.03	平成28年度	同上	
情報理工学部									
総合情報学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先端工学基礎課程 （夜間主）	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報理工学研究科 （博士前期課程）									
情報学専攻	2	110	-	220	修士 （工学）（理学） （学術）	1.19	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	
情報・ネットワーク 工学専攻	2	150	-	300	修士 （工学）（理学） （学術）	1.13	平成28年度	同上	
機械知能システム 学専攻	2	105	-	210	修士 （工学）（理学） （学術）	1.02	平成28年度	同上	
基盤理工学専攻	2	135	-	270	修士 （工学）（理学） （学術）	0.94	平成28年度	同上	
総合情報学専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学 専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止

情報理工学研究科 (博士後期課程)									
情報学専攻	3	13	-	39	博士 (工学)(理学) (学術)	1.23	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	
情報・ネットワーク 工学専攻	3	18	-	54	博士 (工学)(理学) (学術)	0.66	平成28年度	同上	
機械知能システム 学専攻	3	12	-	36	博士 (工学)(理学) (学術)	0.95	平成28年度	同上	
基盤理工学専攻	3	16	-	48	博士 (工学)(理学) (学術)	0.71	平成28年度	同上	
総合情報学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士前期課程)									
情報メディアシステム学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士後期課程)									
情報メディアシステム学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<情報理工学研究科 機械知能システム学専攻（博士前期課程）>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	青山 尚之 (58)	平成29年4月	大学院インターンシップ 大学院インターンシップ(海外) 大学院インターンシップ(長期) 大学院インターンシップ(海外・長期) ロボット応用工学特論 Advanced Robotics and Mechatronics Engineering 大学院国際協働学術研修 大学院輪講第一(Ⅰ) 大学院輪講第一(Ⅱ) 大学院輪講第一(Ⅲ) 大学院輪講第一(Ⅳ) 大学院実践演習(Ⅰ) 大学院実践演習(Ⅱ) 大学院実践演習(Ⅲ) 大学院実践演習(Ⅳ) 大学院国際協働学術研修(長期)						
専	教授	宮脇 陽一 (43)	平成29年4月	機械知能システム学専攻基礎 計測工学基礎 大学院輪講第一(Ⅰ) 大学院輪講第一(Ⅱ) 大学院輪講第一(Ⅲ) 大学院輪講第一(Ⅳ) 大学院実践演習(Ⅰ) 大学院実践演習(Ⅱ) 大学院実践演習(Ⅲ) 大学院実践演習(Ⅳ)						
専	教授	大川 富雄 (51)	平成29年4月	熱工学基礎 大学院輪講第一(Ⅰ) 大学院輪講第一(Ⅱ) 大学院輪講第一(Ⅲ) 大学院輪講第一(Ⅳ) 大学院実践演習(Ⅰ) 大学院実践演習(Ⅱ) 大学院実践演習(Ⅲ) 大学院実践演習(Ⅳ)						
専	教授	前川 博 (64)	平成29年4月	流体工学基礎 大学院輪講第一(Ⅰ) 大学院輪講第一(Ⅱ) 大学院輪講第一(Ⅲ) 大学院輪講第一(Ⅳ) 大学院実践演習(Ⅰ) 大学院実践演習(Ⅱ) 大学院実践演習(Ⅲ) 大学院実践演習(Ⅳ)						
専	教授	久保木 孝 (52)	平成29年4月	生産加工学基礎 大学院輪講第一(Ⅰ) 大学院輪講第一(Ⅱ) 大学院輪講第一(Ⅲ) 大学院輪講第一(Ⅳ) 大学院実践演習(Ⅰ) 大学院実践演習(Ⅱ) 大学院実践演習(Ⅲ) 大学院実践演習(Ⅳ)						
専	教授	桐本 哲郎 (63)	平成29年4月	計測工学基礎 センサ信号処理学特論 大学院輪講第一(Ⅰ) 大学院輪講第一(Ⅱ) 大学院輪講第一(Ⅲ) 大学院輪講第一(Ⅳ) 大学院実践演習(Ⅰ) 大学院実践演習(Ⅱ) 大学院実践演習(Ⅲ) 大学院実践演習(Ⅳ)						

専	教授	明 愛国 (54)	平成29年4月	ロボット工学基礎 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	小池 卓二 (50)	平成29年4月	生体計測工学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	正本 和人 (42)	平成29年4月	生体計測工学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	金子 修 (47)	平成29年4月	ロボ制御工学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	新 誠一 (62)	平成29年4月	組み込み制御システム特論 リアルタイム制御系設計基礎 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	阪口 豊 (53)	平成29年4月	感覚運動システム特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	内田 雅文 (52)	平成29年4月	ロボット応用工学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	田中 一男 (54)	平成29年4月	ロボット機構制御特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						

専	教授	横井 浩史 (53)	平成29年4月	ロボット機構制御特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	金子 正秀 (63)	平成29年4月	コンピュータビジョン特論 ロボット情報工学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	長井 隆行 (47)	平成29年4月	コンピュータビジョン特論 ロボット情報工学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	増田 宏 (55)	平成29年4月	設計システム工学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	森重 功一 (47)	平成29年4月	知的生産システム特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	宮壽 武 (61)	平成29年4月	力学系現象特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	新谷 一人 (64)	平成29年4月	計算力学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	稲葉 敬之 (60)	平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						

専	教授	田中 繁 (59)	平成29年4月	機械知能システム学専攻基礎 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	岡田 英孝 (48)	平成29年4月	バイオメカニクス基礎 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	高田 昌之 (58)	平成29年4月	機械情報学特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	千葉 一永 (40)	平成29年4月	大学院技術英語 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	田中 基康 (34)	平成29年4月	大学院技術英語 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	Matuttis Hans-Georg (50)	平成29年4月	大学院技術英語 力学系現象特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	菅 哲朗 (38)	平成29年4月	機械知能システム学専攻基礎 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	松村 隆 (53)	平成29年4月	材料強度学基礎 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						

専	准教授	小泉 憲裕 (41)	平成29年4月	ロボット工学基礎 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	小木曾 公尚 (41)	平成29年4月	制御系設計学基礎 制御系設計応用 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	佐藤 俊治 (44)	平成29年4月	知覚システム特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	金森 哉吏 (52)	平成29年4月	メカトロニクス特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	杉 正夫 (42)	平成29年4月	バーチャルリアリティ特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	結城 宏信 (50)	平成29年4月	設計システム工学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	姜 銀来 (37)	平成29年4月	大学院技術英語 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	准教授	澤田 賢治 (35)	平成29年4月	組み込み制御システム特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						

専	准教授	安藤 創一 (42)	平成29年4月	運動計測学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	助教	饗庭 絵里子 (36)	平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	助教	秋田 学 (36)	平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	助教	井上 洋平 (37)	平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	助教	榎木 光治 (36)	平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	助教	梶川 翔平 (28)	平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	助教	孫 光鎬 (34)	平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	助教	東郷 俊太 (31)	平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	助教	中村 友昭 (32)	平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						

専	助教	船戸 徹郎 (37)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
兼担	教授	奥 浩昭 (62)	平成29年4月	大学院技術英語						
兼担	教授	佐々木 成朗 (49)	平成29年4月	ナノトライブロギー特講						
兼担	教授	由良 憲二 (61)	平成29年4月	大学院総合コミュニケーション科学						
兼担	教授	西野 哲朗 (58)	平成29年4月	国際科学技術コミュニケーション論						
兼担	教授	田野 俊一 (58)	平成29年4月	I T最前線 実システム創造						
兼担	教授	山口 耕平 (62)	平成29年4月	幾何学基礎論						
兼担	教授	梶浦 篤 (56)	平成29年4月	国際社会の政治・経済						
兼担	教授	阿部 浩二 (60)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼担	教授	山田 裕一 (48)	平成29年4月	幾何学特論						
兼担	教授	久藤 衡介 (44)	平成29年4月	解析学特論						
兼担	教授	佐々木 啓子 (62)	平成29年4月	教育学特論						
兼担	教授	安部 博文 (63)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼担	教授	本間 高弘 (52)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼担	教授	渡邊 昌良 (61)	平成29年4月	先端技術開発特論						
兼担	教授	米田 仁紀 (56)	平成29年4月	EL(Elementary Teaching Laboratory) 危機・限界体験特別実験 オープンイノベーションスクールI オープンイノベーションスクールII						
兼担	教授	鈴木 勝 (57)	平成29年4月	EL(Elementary Teaching Laboratory) 危機・限界体験特別実験						
兼担	教授	肖 鳳超 (51)	平成29年4月	大学院国際プロジェクト						
兼担	教授	藤井 威生 (42)	平成29年4月	大学院国際プロジェクト						
兼担	教授	田村 元紀 (61)	平成29年4月	データサイエンティスト特論 データアントレプレナー実践論						
兼担	教授	桂川 真幸 (54)	平成29年4月	オープンイノベーションスクールI オープンイノベーションスクールII						

兼任	教授	樋口 幸治 (65)	平成29年4月	組込み制御システム学特論						
兼任	准教授	橋山 智訓 (49)	平成29年4月	実システム創造						
兼任	准教授	田原 康之 (50)	平成29年4月	実システム創造						
兼任	准教授	石田 晴久 (48)	平成29年4月	解析学基礎論						
兼任	准教授	大野 真裕 (51)	平成29年4月	代数学基礎論						
兼任	准教授	佐藤 賢一 (49)	平成29年4月	科学技術の歴史						
兼任	准教授	榎本 直也 (36)	平成29年4月	代数学特論						
兼任	准教授	島田 宏 (55)	平成29年4月	EL(Elementary Teaching Laboratory) 危機・限界体験特別実験						
兼任	准教授	宮本 洋子 (50)	平成29年4月	EL(Elementary Teaching Laboratory) 危機・限界体験特別実験						
兼任	准教授	安達 宏一 (34)	平成29年4月	大学院国際プロジェクト						
兼任	准教授	笠井 裕之 (45)	平成29年4月	実システム創造						
兼任	准教授	小宮 常康 (48)	平成29年4月	実システム創造						
兼任	准教授	古川 裕介 (41)	平成29年4月	オープンイノベーションスクールI オープンイノベーションスクールII						
兼任	准教授	CHOO Cheow Keong (48)	平成29年4月	大学院海外語学研修 I 大学院海外語学研修 II						
兼任	助教	牧 昌次郎 (50)	平成29年4月	経営実践特論						
兼任	講師	小峯 一晃 (49)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
兼任	講師	松井 恵美子 (46)	平成29年4月	大学院技術英語						
兼任	講師	高野倉 雅人 (43)	平成29年4月	技術者と安全・環境・倫理						
兼任	講師	木元 麻里 (44)	平成29年4月	現代社会と倫理						
兼任	講師	澤田 ゆかり (56)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	丹羽 泉 (60)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						

兼任	講師	長谷部 美佳 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	John Porter (36)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	野平 宗弘 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	左右田 直規 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	倉田 明子 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	田島 陽一 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	岡田 知子 (51)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	降幡 正志 (50)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	小川 英文 (61)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	宮田 敏之 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	山内 由理子 (44)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	李 孝徳 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	佐々木 孝弘 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	赤羽 雄二 (62)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	講師	村井 雄司 (52)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	講師	安藤 晴彦 (55)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	講師	村口 和孝 (58)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	講師	尾原 和貴 (46)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	木村 友久 (61)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	加藤 浩一郎 (51)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	岡村 信一 (58)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	劉 昕 (50)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	香島 拓也 (49)	平成29年4月	知的財産権特論						

兼任	講師	戸田 恒夫 (65)	平成29年4月	知的財産権特論						
----	----	---------------	---------	---------	--	--	--	--	--	--

- (注) ・ 設置時の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
19 名	13 名	3 名

- (注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件(平成十一年九月十四日文科省告示第七十五号)により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在(報告書提出時)の状況					現在(報告書提出時)の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)
20	17	0	10	47	25	14	0	9	48	25	14	0	9	48
(25)	(14)	(0)	(9)	(48)						[5]	[Δ3]	[0]	[Δ1]	[1]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
44	3	0			48	0	0			48	0	0		
(48)	(0)	(0)								[4]	[Δ3]	[0]		

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在(報告書提出時)の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 ・ 「現在(報告書提出時)の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例: 1名減の場合: Δ1)

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告書提出時(上記(A))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(B))の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1	教授	◎◎ ◎◎	必修	○○概論	①	……………のため就任辞退 (27)	
			選択	◆◆基礎	②		
			必修	☆☆演習	③		
2	准教授	△△	該当なし			……………のため就任辞退 (29)	
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
○○	人	必修	○○ 科目	必修	○○ 科目	必修	○○ 科目
		選択	○○ 科目	選択	○○ 科目	選択	○○ 科目
		自由	○○ 科目	自由	○○ 科目	自由	○○ 科目
		計	○○ 科目	計	○○ 科目	計	○○ 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1	教授	◎◎ ◎◎	必修	○○概論	①	……………のため辞任 (27)	
			選択	◆◆基礎	②		
			必修	☆☆演習	③		
2	准教授	△△	該当なし			……………のため辞任 (29)	
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
○○	人	必修	○○ 科目	必修	○○ 科目	必修	○○ 科目
		選択	○○ 科目	選択	○○ 科目	選択	○○ 科目
		自由	○○ 科目	自由	○○ 科目	自由	○○ 科目
		計	○○ 科目	計	○○ 科目	計	○○ 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (A) + (C)			後任補充状況の集計 (B) + (D)			
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
○○	該当なし		○○ 科目	必修	○○ 科目	
			○○ 科目	選択	○○ 科目	
			○○ 科目	自由	○○ 科目	
	計	○○ 科目	計	○○ 科目	計	○○ 科目

- (注) ・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (〇〇年〇〇月)		〇〇意見	
設置計画 調 査 (△△年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年2月)		改善意見	
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年2月)	・同一設置者が設置する既設学部等(〇〇学科、●●学科)の～すること。	〇〇意見	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

7 その他全般的事項

<情報理工学研究科 機械知能システム学専攻（博士前期課程）>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
記入例) ① 修了要件単位 1 2 4 単位 ② 施設・設備 a 講義室〇室 b 自習室〇室 (〇m) c 図書〇〇冊	科目 (1 科 象表) 参照) 室, 自習室を , 図書も〇〇冊 増書した。
<h1 style="font-size: 2em;">該当なし</h1>	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 大学教育センター教育推進部門が中心となり、教育の質の改善・向上に向けた取組を実施している。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 教育推進部門会議（平成28年度） 第42回（6月13日：参加者8名） 第43回（9月28日：参加者9名） 第44回（11月21日：参加者5名） 第45回（1月30日：参加者7名） 第46回（3月2日：参加者9名）</p> <p>c 委員会の審議事項等 (1) ファカルティ・ディベロップメントの実施に関すること (2) 学生授業評価の実施に関すること (3) シラバス及び成績評価に関すること (4) 教育環境の整備に関すること (5) その他、教育に関わる調査の実施に関すること</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容 ・ 第1回TA講習会（4月6日） ・ FD数学、物理、情報、基礎学力検討会（4月13日） ・ 学院院新任教育系職員研修会（4月21日） ・ 第1回ハラスメント防止研修（7月5日） ・ 実験実習研究会（8月30日） ・ 第2回TA講習会（9月23日） ・ 教育研究技師部職員研修（9月26日） ・ 英語FDワークショップ（10月11日） ・ 第1回大学の教育力向上FD講演会「学生による授業評価アンケート、卒業生調査の活用を中心として」（11月29日） ・ 第2回ハラスメント防止研修（12月16日） ・ 第2回大学の教育力向上FD講演会「今、なぜアクティブラーニングか」（12月19日） ・ 公開授業：ソフトウェア工学（12月22日） ・ 第3回大学の教育力向上FD講演会「欧州大学の苦悩と挑戦 - 大学としての共通性と多様性をどう両立させるか -」（2月24日）</p> <p>b 実施方法 大学教育センター教育推進部門を中心として、全学的なファカルティ・ディベロップメント講演会、公開授業の参観、授業評価アンケートに関するワークショップ等に取り組んでいる。</p>
--

c 開催状況（教員の参加状況含む）

4月6日：参加者287名【学生274名、教員13名】
4月13日：参加者39名
4月21日：参加者23名
7月5日：参加者111名
8月30日：参加者37名
9月23日：参加者68名【学生56名、教員12名】
9月26日：参加者19名
10月11日：参加者20名
11月29日：参加者63名
12月16日：参加者60名
12月19日：参加者57名
12月22日：参加者15名
2月24日：参加者39名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教育改善調査の実施及び各種研修プログラムの提供について、第3期中期目標・中期計画を踏まえた道筋の検討を進めた。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前学期及び後学期終了時に実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果を教員にフィードバックすることにより、自主的な授業の改善を促しているほか、他の教員の参考となるように、アンケートの総合評価が高かった科目の中で、科目区分（講義、実験、体育、大学院）別に上位10%のものについて、大学教育センターの学内専用ウェブサイトで公開している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画に基づき、平成28年4月1日に開設した。「広い視野と倫理観を持ち、グローバル社会で活躍できる確かな専門知識と実践的な応用力を持ち、リーダーとして企画・開発をも担える高度専門技術者を育成する」という設置の趣旨・目的に沿った教育・研究体制のもと、現在まで順調に進んでいる。引き続き、当該趣旨・目的に沿った教育・研究活動を計画どおり実施していきたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

平成29年7月公開予定

b 公表方法

「自己点検・評価報告書（年度計画の実施状況）」を作成し、大学ホームページにて公表する。

③ 認証評価を受ける計画

平成33年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成29年 6月 30日)

注3

大学番号：031

[平成28年度設置]

計画の区分：研究科の専攻の設置

注1

事前伺い

電気通信大学大学院 情報理工学研究科
基盤理工学専攻（博士前期課程）

注2

【事前伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 電気通信大学
平成29年5月1日現在

作成担当者	
担当部局（課）名	総務課
職名・氏名	係長 <small>ハンドウ</small> 飯銅 <small>ジュンジ</small> 純二
電話番号	042-443-5050
（夜間）	042-443-5050
F A X	042-443-5010
e-mail	kchosa-k@office.uec.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

情報理工学研究科

<基盤理工学専攻(博士前期課程)>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	15
6. 留意事項等に対する履行状況等	28
7. その他全般的事項	29

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 電気通信大学

(2) 大学名

電気通信大学

(3) 大学の位置

〒182-8585
東京都調布市調布ヶ丘1丁目5番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	フクダ タカシ 福田 喬 (平成26年4月1日)		
研究科長	タノ シュンイチ 田野 俊一 (平成29年4月1日)		
専攻長	ニシオカ ハジメ 西岡 一 (平成29年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成27年度開設の博士後期課程の場合(平成29年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
情報理工学研究科 基盤理工学専攻 (博士前期課程) 修士(工学)(理学)(学術)	工学関係 理学関係	2年	135人	270人	基礎となる学部等 情報理工学域

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平均入学定員 超過率		備考
	平成28年度	平成29年度			
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
A 入学定員	人 135 (-) [-]	人 135 (-) [-]	0.94倍		
志願者数	143 (1) [3]	- (-) [-]	168 (-) [4]	() () []	
受験者数	136 (1) [2]	- (-) [-]	164 (-) [4]	() () []	
合格者数	131 (1) [2]	- (-) [-]	154 (-) [4]	() () []	
B 入学者数	113 (1) [2]	- (-) [-]	142 (-) [4]	() () []	
入学定員超過率 B/A	0.83		1.05		

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入**してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	平成28年度		平成29年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	113 [2] (-)	— (-)	142 [4] (-)	[] ()	
2年次	/		112 [2] (-)	[] ()	
計	113 [2] (-)		254 [6] (-)		

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成28年度 入学者	113 人	1 人	平成28年度	1 人	0 人	・その他(1人)	0.88 %
			平成29年度	0 人	0 人		
平成29年度 入学者	141 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
合 計	254 人	1 人					0.39 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<情報理工学研究科 基盤理工学専攻（博士前期課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院基礎教育科目	大学院総合コミュニケーション科学	1・2前		2		1						兼1 兼任教員の負担軽減のため、兼任教員0名に変更。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員1名で対応(28)
	幾何学基礎論	1・2前		2		1						
	解析学基礎論	1・2前		2			1					
	代数学基礎論	1・2前		2			1					
	技術者と安全・環境・倫理	1・2前		2								兼1
	国際社会の政治・経済	1・2前		2		1						
	日本とアジアの近代史	1・2後		2								兼1
	科学技術の歴史	1・2後		2			1					
	現代社会と倫理	1・2後		2		+						兼1 専任教授が平成29年度に転出のため、兼任教員1名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29)
	環太平洋圏の社会と文化	1・2後		2		1						兼15 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任15名で対応(28)
	幾何学特論	1・2後		2		1						
	解析学特論	1・2後 (隔年開講) 1・2後		2		1	+					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講に変更(28)
代数学特論	1・2後 (隔年開講) 1・2後		2			1					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講に変更(28)	
教育学特論	1・2後		2		1							
大学院輪講	大学院輪講第一（Ⅰ）	1・2前	1			31 30 31	33 28					大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)
	大学院輪講第一（Ⅱ）	1・2後	1			31 30 31	33 28					大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)
	大学院輪講第一（Ⅲ）	1・2前	1			31 30 31	33 28					大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)
	大学院輪講第一（Ⅳ）	1・2後	1			31 30 31	33 28					大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)
大学院技術英語	大学院技術英語	1・2前	2			4 3 2	1 2				兼1 より教育内容に即した担当教員への変更(29) 教育内容充実のため、専任教授3名、専任准教授2名、兼任教員1名で対応(28)	
大学院実践教育科目	ベンチャービジネス特論	1・2前		2		1	+					兼4 兼6 兼任教員の負担軽減のため、専任教授1名、兼任教員4名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29) より教育内容に即した担当教員への変更すると共に兼任教員6名を追加(28)
	知的財産権特論	1・2後		2		1						兼7 兼8 兼任教員の負担軽減のため、兼任教員7名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員8名で対応(28)
	先端技術開発特論	1・2後		2		1						兼15 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員15名で対応(28)
	ETL(Elementary Teaching Laboratory)	1・2通		2		2	2					
	大学院国際プロジェクト	1・2前		2		2 4 2	2 1 2					専任教員の負担軽減のため、専任教授2名、専任准教授2名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教授4名、専任准教授1名で対応(28)
	危機・限界体験特別実験	1・2通		2		2	2					
	国際科学技術コミュニケーション論	1・2前		2		1						兼3 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員3名で対応(28)
	経営実践特論	1・2前		1					1			兼2 教育内容充実のため、専任助教1名、兼任教員2名で対応(28)
	IT最前線	1・2後		2		1						兼1 教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員1名で対応(28)
	実システム創造	1・2後		2		1	4					兼1 教育内容充実のため、専任教授1名、専任准教授4名、兼任教員1名で対応(28)
	データサイエンティスト特論	1・2後		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)
	データアントレプレナー実践論	1・2後		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)
オープンイノベーションスクールⅠ	1・2前		1		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)	
オープンイノベーションスクールⅡ	1・2前		1		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
② 光工学プログラム	② 専門科目 I	基盤理工学専攻基礎	1・2前		2		1	3 4				より教育内容に即した担当教員への変更(29)	
		先端半導体デバイス基礎	1・2後		2		1						
		光・量子エレクトロニクス基礎	1・2前		2		1						
		光デバイス工学基礎	1・2前		2		1						
		量子物理工学基礎	1・2前		2		1						
		固体物性論基礎	1・2前		2		1						
		集積回路基礎	1・2前		2		1						
		画像情報学基礎	1・2前		2			1					
		光化学	1・2前		2		1						
		応用電磁気学	1・2後		2		1	1					
② 光工学プログラム	② 専門科目 II	ナノフォトニクス特論	1・2前		2			2					
		光通信システム特論	1・2後		2		1						
		ナノエレクトロニクス特論	1・2前		2		1						
		光通信デバイス特論	1・2後		2		1						
		固体・ソフトマターフォトニクス特論	1・2前		2		1						
		光計測特論	1・2前		2		1						
		情報光学特論	1・2後		2			1					
		生体計測工学特論	1・2後		2		2 1	1				専任教員の昇任に伴い、専任教員2名で対応(29)	
		物理学特論	1・2前		2							兼1	
		固体照明工学特論	1・2後		2		1	1				専任教員の昇任に伴い、専任教員1名で対応(29)	
		量子情報光学特論	1・2後		2			2					
		ナノトライボロジー特論	1・2後		2		1						
		リアルタイム制御系設計基礎論	1・2前		4		1						
		制御系設計応用	1・2後		4			1					
		ナノ光科学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教員2名、専任教員1名で対応(28)	
		超精密計測学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教員2名、専任教員1名で対応(28)	
		飛翔体工学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教員2名、専任教員1名で対応(28)	
		極地物理学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教員2名、専任教員1名で対応(28)	
	宇宙天文物理学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教員2名、専任教員1名で対応(28)		
	国際文化言語学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教員2名、専任教員1名で対応(28)		
	顕微物理工学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教員2名、専任教員1名で対応(28)		
	グローバルラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教員2名、専任教員1名で対応(28)		
大学院専門教育科目	① 専門科目 I	大学院実践演習 (I)	1・2前	1			31						
		大学院実践演習 (II)	1・2後	1			30	33					
		大学院実践演習 (III)	1・2前	1			31	33		6	7	大学院担当資格取得等のための変更(29) 教育内容を充実・強化するため、通年4単位を分割し、半期1単位4科目に変更(28)	
		大学院実践演習 (IV)	1・2後	1			30	33					
		大学院実践演習	1・2通	4			31 30 31	28					
	② 専門科目 I	基盤理工学専攻基礎	1・2前		2		1	3 4				より教育内容に即した担当教員への変更(29)	
		先端半導体デバイス基礎	1・2後		2		1						
		光・量子エレクトロニクス基礎	1・2前		2		1						
		光デバイス工学基礎	1・2前		2		1						
		量子物理工学基礎	1・2前		2		1						
		固体物性論基礎	1・2前		2		1						
		集積回路基礎	1・2前		2		1						
		応用電磁気学	1・2後		2		1	1					
		固体量子工学	1・2前		2			1					
		③ 物理学プログラム	③ 専門科目 II	ナノエレクトロニクス特論	1・2前		2		1				
	計算物理学特論			1・2後		2		1	1 2				専任教員の昇任に伴い、専任教員1名、専任教員1名で対応(29)
	物理学特論			1・2前		2				2			兼1
	量子情報光学特論			1・2後		2				2			
低温量子物性工学特論	1・2前				2		1						
固体量子工学特論	1・2後 1・2前				2			1				専任教員の負担軽減のため、開講学期の変更(29)	
ナノトライボロジー特論	1・2後				2		1						
統計物理学特論	1・2後				2		1						
現代レーザー分光学特論	1・2前				2		1	1					
原子光学特論	1・2前				2		1	1					
凝縮体量子工学特論	1・2後				2		1	1					
電子物性特論	1・2後				2			1					
X線結晶学特論	1・2後				2			1					
リアルタイム制御系設計基礎論	1・2前				4		1						
	制御系設計応用	1・2後		4			1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
	ナノ光科学ラボワーク	1・2前		4		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)	
	超精密計測学ラボワーク	1・2前		4		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)	
	飛翔体工学ラボワーク	1・2前		4		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)	
	極地物理学ラボワーク	1・2前		4		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)	
	宇宙天文物理学ラボワーク	1・2前		4		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)	
	国際文化言語学ラボワーク	1・2前		4		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)	
	顕微物理工学ラボワーク	1・2前		4		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)	
	グローバルラボワーク	1・2前		4		2	1					教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)	
大学院専門教育科目	専門科目Ⅰ	大学院実践演習(Ⅰ)	1・2前	1			31 30 31	33				大学院担当資格取得等のための変更(29) 教育内容を充実・強化するため、通年4単位を分割し、半期1単位4科目に変更(28)	
		大学院実践演習(Ⅱ)	1・2後	1			30 30	33		6			
		大学院実践演習(Ⅲ)	1・2前	1			31	33		7			
		大学院実践演習(Ⅳ)	1・2後	1			30 30	33					
		大学院実践演習	1・2通	4			31 30 31	28					
		基盤理工学専攻基礎	1・2前		2		1	3 4					より教育内容に即した担当教員への変更(29)
		固体物性論基礎	1・2前		2		1						
		分子細胞生物学基礎	1・2前		2			1					
		生体情報学基礎	1・2前		2		4	1					より教育内容に即した担当教員への変更(28)
	量子エネルギー科学	1・2後		2		1							
	光化学	1・2前		2		1							
	生物有機化学	1・2前		2			4			兼1	専任准教授の負担軽減のため、兼任教員1名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29)		
	生体機能システム学基礎	1・2後		2		1	4				専任准教授転出のため、専任教授1名に変更。なお、学生の教育に支障はない(29)		
	④ 化学生命工学プログラム	専門科目Ⅱ	生体計測工学特論	1・2後		2		2 4	4				専任准教授の昇任に伴い、専任教授2名で対応(29)
			X線結晶学特論	1・2後		2			1				
			固体物性化学特論	1・2後		2		1					
			化学反応特論	1・2前		2			1				
			生体情報システム学特論	1・2前		2		1					
化学生命工学特論		1・2前		2						兼2 兼1	教育内容充実のため、兼任教員2名で対応(28)		
無機物質化学特論		1・2後		2		1							
物理化学特論		1・2後		2			1						
ゲノム生物学特論		1・2後		2			1						
リアルタイム制御系設計基礎論		1・2前		4		1							
	専門科目Ⅱ	制御系設計応用	1・2後		4			1					
		ナノ光科学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)	
		超精密計測学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)	
		飛翔体工学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)	
		極地物理学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)	
		宇宙天文物理学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)	
		国際文化言語学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)	
		顕微物理工学ラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)	
		グローバルラボワーク	1・2前		4		2	1				教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)	

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
- なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
- ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
- ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
科目 9	科目 152	科目 0	科目 161	科目 21 [12]	科目 156 [4]	科目 0 [0]	科目 177 [16]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	解析学特論	2	1・2後	一般	選択	バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講とし、平成30年度に開講する。
2						
3						

(注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2	該当なし					
3	該当なし					

(注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{1}{161} = \boxed{0.62} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎敷地と別地 (校舎より2km)		
	校 舎 敷 地	115,433 m ²	0 m ²	0 m ²	115,433 m ²			
	運 動 場 用 地	38,187 m ²	0 m ²	0 m ²	38,187 m ²			
	小 計	153,620 m ²	0 m ²	0 m ²	153,620 m ²			
	そ の 他	34,685 m ²	0 m ²	0 m ²	34,685 m ²			
	合 計	188,305 m ²	0 m ²	0 m ²	188,305 m ²			
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
		90,163 m ² (90,163 m ²)	0 m ² (0m ²)	0 m ² (0m ²)	90,163 m ² (90,163 m ²)			
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		
		0室	9室	85室	0室 (補助職員 人)	0室 (補助職員 人)		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数			
		情報理工学研究科 基盤理工学専攻 (博士前期課程)			80 室			
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機 械 ・ 器 具	標 本	
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル				
		冊	種	[うち外国書]	点	点	点	
		情報理工学研究科 基盤理工学専攻 (博士前期課程)	315,018 [109,394] (315,018 [109,394])	8,887 [6,091] (8,887 [6,091])	3,899 [3,889] (3,899 [3,889])	2,896 (2,896)	0 (0)	0 (0)
計	315,018 [109,394] (315,018 [109,394])	8,887 [6,091] (8,887 [6,091])	3,899 [3,889] (3,899 [3,889])	2,896 (2,896)	0 (0)	0 (0)		
(6) 図 書 館		面 積		閲 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数			
		7,323m ²		621	368,000			
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				
		3,077 m ²		多摩川運動場(陸上競技場、サッカー・ラグビー場、テニスコート4面、アーチェリー場)、プール、屋外競技場(弓道場、テニスコート7面)				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	電気通信大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入定 学員	編入学 定員	収定 容員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
情報理工学域									
Ⅰ類（情報系）	4	210	3年次 9	858	学士 （工学）	1.04	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	一般入試（前期日程）では学域全体の 大括り入試を採用しており、入学 定員超過率は類別の状況を集計する ことができないため、Ⅰ類、Ⅱ類、 Ⅲ類をまとめ上げた状況を記載して いる。
Ⅱ類（融合系）	4	245	3年次 10	1000	学士 （工学）	1.04	平成28年度	同上	
Ⅲ類（理工系）	4	235	3年次 10	960	学士 （工学）	1.04	平成28年度	同上	
先端工学基礎課程 （夜間主）	4	30	3年次 3	126	学士 （工学）	1.00	平成28年度	同上	
情報理工学部									
総合情報学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先端工学基礎課程 （夜間主）	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報理工学研究科 （博士前期課程）									
情報学専攻	2	110	-	220	修士 （工学）（理学） （学術）	1.19	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	
情報・ネットワーク 工学専攻	2	150	-	300	修士 （工学）（理学） （学術）	1.13	平成28年度	同上	
機械知能システム 学専攻	2	105	-	210	修士 （工学）（理学） （学術）	1.02	平成28年度	同上	
基盤理工学専攻	2	135	-	270	修士 （工学）（理学） （学術）	0.94	平成28年度	同上	
総合情報学専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学 専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止

情報理工学研究科 (博士後期課程)									
情報学専攻	3	13	-	39	博士 (工学)(理学) (学術)	1.23	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	
情報・ネットワーク 工学専攻	3	18	-	54	博士 (工学)(理学) (学術)	0.66	平成28年度	同上	
機械知能システム 学専攻	3	12	-	36	博士 (工学)(理学) (学術)	0.95	平成28年度	同上	
基盤理工学専攻	3	16	-	48	博士 (工学)(理学) (学術)	0.71	平成28年度	同上	
総合情報学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士前期課程)									
情報メディアシステム学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士後期課程)									
情報メディアシステム学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず, 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<情報理工学研究科 基盤理工学専攻（博士前期課程）>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	斎藤 弘樹 (45)	平成29年4月	大学院技術英語 凝縮体量子工学特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	櫻森 与志喜 (60)	平成29年4月	大学院技術英語 生体情報システム特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	SANDHU Adarsh (57)	平成29年4月	大学院技術英語 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	尾関 之康 (55)	平成29年4月	基盤理工学専攻基礎 統計物理学特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	一色 秀夫 (55)	平成29年4月	先端半導体デバイス基礎 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	渡邊 昌良 (61)	平成29年4月	先端技術開発特論 光・量子エレクトロニクス基礎 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						

専	教授	山口 浩一 (56)	平成29年4月	光デバイス工学基礎 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	渡邊 信一 (62)	平成29年4月	量子物理工学基礎						
専	教授	阿部 浩二 (60)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化 固体物性論基礎						
専	教授	中村 淳 (48)	平成29年4月	ナノエレクトロニクス特論						
専	教授	水柿 義直 (49)	平成29年4月	超伝導デバイス特論						
専	教授	上野 芳康 (55)	平成29年4月	光通信デバイス特論						
専	教授	桂川 真幸 (54)	平成29年4月	オープティノバージョンスクールⅠ オープティノバージョンスクールⅡ ナノ光科学ラボワーク 原子光工学特論 超精密計測学ラボワーク 飛行体工学ラボワーク 極地物理学ラボワーク 宇宙天文物理学ラボワーク 国際文化言語学ラボワーク 顕微物理学ラボワーク グローバルラボワーク						
専	教授	平野 誉 (53)	平成29年4月	光化学						
専	教授	富田 康生 (61)	平成29年4月	顕微・ソフトマターフォトリクス特論						
専	教授	西岡 一 (56)	平成29年4月	光計測特論						
専	教授	石田 尚行 (53)	平成29年4月	固体物性化学特論						
専	教授	奥野 剛史 (50)	平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	沈 青 (50)	平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	美濃島 薫 (52)	平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						
専	教授	柳澤 正久 (64)	平成29年4月	大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)						

専	教授	米田 仁紀 (56)	平成29年4月	大学院技術英語 (ELI)Elementary Teaching Laboratory) 危機・限界体験特別実験 オープンイノベーションスタートⅠ オープンイノベーションスタートⅡ ナノ光科学ラボワーク 超精密計測学ラボワーク 飛翔体工学ラボワーク 極地物理学ラボワーク 宇宙天文物理学ラボワーク 国際文化言語学ラボワーク 顕微物理工学ラボワーク グローバルラボワーク 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)					
専	教授	小林 義男 (57)	平成29年4月	量子エネルギー科学 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)					
専	教授	森下 亨 (50)	平成29年4月	計算物理学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)					
専	教授	佐々木 成朗 (49)	平成29年4月	ナノトライボロジー特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)					
専	教授	中川 賢一 (55)	平成29年4月	応用電磁気学 現代レーザー分光光学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)					
専	教授	鈴木 勝 (57)	平成29年4月	(ELI)Elementary Teaching Laboratory) 危機・限界体験特別実験 低温量子物性工学特論 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)					
専	教授	狩野 豊 (47)	平成29年4月	生体機能システム学基礎 大学院輪講第一 (Ⅰ) 大学院輪講第一 (Ⅱ) 大学院輪講第一 (Ⅲ) 大学院輪講第一 (Ⅳ) 大学院実践演習 (Ⅰ) 大学院実践演習 (Ⅱ) 大学院実践演習 (Ⅲ) 大学院実践演習 (Ⅳ)					

専	教授	加固 昌寛 (54)	平成29年4月	無機物質化学特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	岩澤 康裕 (71)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	白田 耕藏 (70)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	教授	田村 元紀 (61)	平成29年4月	データサイエンティスト特論 データアントレプレナー実践論 環境材料科学特論						
専	准教授	志賀 智一 (45)	平成29年4月	大学院インターンシップ 大学院インターンシップ (海外) 大学院インターンシップ (長期) 大学院インターンシップ (海外・長期) 画像情報学基礎						
専	准教授	松林 和幸 (38)	平成29年4月	大学院インターンシップ 大学院インターンシップ (海外) 大学院インターンシップ (長期) 大学院インターンシップ (海外・長期)						
専	准教授	古川 怜 (36)	平成29年4月	基礎理工学専攻基礎						
専	准教授	白川 英樹 (51)	平成29年4月	基礎理工学専攻基礎 分子細胞生物学基礎						
専	准教授	松田 信爾 (46)	平成29年4月	生体情報学基礎						
専	准教授	岡田 佳子 (59)	平成29年4月	ナノフォトニクス特論						
専	准教授	庄司 暁 (42)	平成29年4月	ナノフォトニクス特論						
専	准教授	大淵 泰司 (57)	平成29年4月	計算物理学特論						
専	准教授	古川 裕介 (41)	平成29年4月	オープンイノベーションスタイル オープンイノベーションスタイル ナノ光科学ラボワーク 超精密計測学ラボワーク 飛行体工学ラボワーク 極地物理学ラボワーク 宇宙天文学物理学ラボワーク 国際文化言語学ラボワーク 顕微物理学ラボワーク グローバルラボワーク						
専	准教授	宮本 洋子 (50)	平成29年4月	ELI(Elementary Teaching Laboratory) 危機・限界体験特別実験 量子情報光学特論						
専	准教授	清水 亮介 (43)	平成29年4月	量子情報光学特論						
専	准教授	村中 隆弘 (43)	平成29年4月	固体量子工学						
専	准教授	岸本 哲夫 (45)	平成29年4月	凝縮体量子工学特論						

専	准教授	安井 正憲 (56)	平成29年4月	X線結晶学特論						
専	准教授	三瓶 巖一 (56)	平成29年4月	ゲノム生物学特論						
専	准教授	島田 宏 (55)	平成29年4月	EL(Elementary Teaching Laboratory) 危機・限界体験特別実験						
専	准教授	酒井 剛 (41)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	張 賛 (44)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	瀧 真清 (44)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	渡邊 恵理子 (39)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	武者 満 (53)	平成29年4月	基礎理工学専攻基礎 情報光学特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	白川 晃 (46)	平成29年4月	応用電磁気学 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	伏屋 雄紀 (40)	平成29年4月	固体量子工学特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	森永 実 (51)	平成29年4月	現代レーザー分光学特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						

専	准教授	中村 信行 (48)	平成29年4月	原子光工学特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	中村 仁 (49)	平成29年4月	電子物性特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	曾越 宣仁 (45)	平成29年4月	化学反応特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	山北 佳宏 (49)	平成29年4月	物理化学特論 大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	桑原 大介 (53)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	小久保 伸人 (46)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	曾我部 東馬 (42)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	丹治 はるか (37)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	准教授	Nayak Kali Prasanna (35)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	助教	牧 昌次郎 (50)	平成29年4月	経営実践特論						

専	助教	田中 真紀子 (38)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	助教	谷口 淳子 (40)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	助教	Vohra Varun (33)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	助教	戸倉川 正樹 (36)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
専	助教	畑中 信一 (47)	平成29年4月	大学院輪講第一 (I) 大学院輪講第一 (II) 大学院輪講第一 (III) 大学院輪講第一 (IV) 大学院実践演習 (I) 大学院実践演習 (II) 大学院実践演習 (III) 大学院実践演習 (IV)						
兼担	教授	野崎 真次 (63)	平成29年4月	集積回路基礎						
兼担	教授	來住 直人 (57)	平成29年4月	光通信システム特論						
兼担	教授	範 公可 (52)	平成29年4月	集積回路設計学特論						
兼担	教授	内田 和男 (57)	平成29年4月	固体照明工学特論						
兼担	教授	新 誠一 (62)	平成29年4月	リアルタイム制御系設計基礎論						
兼担	教授	小池 卓二 (50)	平成29年4月	生体計測工学特論						
兼担	教授	正本 和人 (42)	平成29年4月	生体計測工学特論						
兼担	教授	由良 憲二 (61)	平成29年4月	大学院総合コミュニケーション科学						
兼担	教授	西野 哲朗 (58)	平成29年4月	国際科学技術コミュニケーション論						
兼担	教授	田野 俊一 (58)	平成29年4月	I T 最前線 実システム創造						
兼担	教授	山口 耕平 (62)	平成29年4月	幾何学基礎論						
兼担	教授	梶浦 篤 (56)	平成29年4月	国際社会の政治・経済						
兼担	教授	山田 裕一 (48)	平成29年4月	幾何学特論						

兼担	教授	久藤 衡介 (44)	平成29年4月	解析学特論						
兼担	教授	佐々木 啓子 (62)	平成29年4月	教育学特論						
兼担	教授	安部 博文 (63)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼担	教授	本間 高弘 (52)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼担	教授	肖 鳳超 (51)	平成29年4月	大学院国際プロジェクト						
兼担	教授	藤井 威生 (42)	平成29年4月	大学院国際プロジェクト						
兼担	准教授	上原 寿和子 (43)	平成29年4月	大学院技術英語						
兼担	准教授	小木曾 公尚 (41)	平成29年4月	制御系設計応用						
兼担	准教授	橋山 智訓 (49)	平成29年4月	実システム創造						
兼担	准教授	田原 康之 (50)	平成29年4月	実システム創造						
兼担	准教授	石田 晴久 (48)	平成29年4月	解析学基礎論						
兼担	准教授	大野 真裕 (51)	平成29年4月	代数学基礎論						
兼担	准教授	佐藤 賢一 (49)	平成29年4月	科学技術の歴史						
兼担	准教授	榎本 直也 (36)	平成29年4月	代数学特論						
兼担	准教授	安達 宏一 (34)	平成29年4月	大学院国際プロジェクト						
兼担	准教授	笠井 裕之 (45)	平成29年4月	実システム創造						
兼担	准教授	小宮 常康 (48)	平成29年4月	実システム創造						
兼担	准教授	CHOO Cheow Keong (48)	平成29年4月	大学院海外語学研修 I 大学院海外語学研修 II						
兼任		TERASHIMA, Alexandra V (35)	平成29年4月	大学院技術英語						
兼任		Krivobok Vladimir (37)	平成29年4月	物理工学特論						
兼任		米澤 宣行 (61)	平成29年4月	生物有機化学						
兼任		星野 学 (36)	平成29年4月	化学生命工学特論						
兼任		加治 大哉 (42)	平成29年4月	化学生命工学特論						

兼任	高野倉 雅人 (43)	平成29年4月	技術者と安全・環境・倫理						
兼任	木元 麻里 (44)	平成29年4月	現代社会と倫理						
兼任	澤田 ゆかり (56)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	丹羽 泉 (60)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	長谷部 美佳 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	John Porter (36)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	野平 宗弘 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	左右田 直規 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	倉田 明子 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	田島 陽一 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	岡田 知子 (51)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	降幡 正志 (50)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	小川 英文 (61)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	宮田 敏之 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	山内 由理子 (44)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	李 孝徳 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	佐々木 孝弘 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	赤羽 雄二 (62)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	村井 雄司 (52)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	安藤 晴彦 (55)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	村口 和孝 (58)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	尾原 和貴 (46)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	木村 友久 (61)	平成29年4月	知的財産権特論						

兼任	加藤 浩一郎 (51)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	岡村 信一 (58)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	劉 昕 (50)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	香島 拓也 (49)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	戸田 恒夫 (65)	平成29年4月	知的財産権特論						

- (注)
- ・ 設置時の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
24	16	3
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)
27	29	0	7	63	32	33	0	6	71	32	33	0	6	71
(32)	(33)	(0)	(6)	(71)						[5]	[4]	[0]	[Δ1]	[8]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数				
61	2	0		70	0	1		70	0	1				
(70)	(0)	(1)						[9]	[0]	[1]				

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記（A））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（B））の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65	2	2
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1	教授	◎◎ ◎◎	必修	○○概論	①	……………のため就任辞退 (27)	
			選択	◆◆基礎	②		
			必修	☆☆演習	③		
2	准教授	△△	該当なし			……………のため就任辞退 (29)	
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
○○	人	必修	○○ 科目	必修	○○ 科目	必修	○○ 科目
		選択	○○ 科目	選択	○○ 科目	選択	○○ 科目
		自由	○○ 科目	自由	○○ 科目	自由	○○ 科目
		計	○○ 科目	計	○○ 科目	計	○○ 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1	教授	◎◎ ◎◎	必修	○○概論	①	……………のため辞任 (27)	
			選択	◆◆基礎	②		
			必修	☆☆演習	③		
2	准教授	△△	該当なし			……………のため辞任 (29)	
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
○○	人	必修	○○ 科目	必修	○○ 科目	必修	○○ 科目
		選択	○○ 科目	選択	○○ 科目	選択	○○ 科目
		自由	○○ 科目	自由	○○ 科目	自由	○○ 科目
		計	○○ 科目	計	○○ 科目	計	○○ 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (A) + (C)			後任補充状況の集計 (B) + (D)			
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
○○	該当なし		○○ 科目	必修	○○ 科目	
			○○ 科目	選択	○○ 科目	
			○○ 科目	自由	○○ 科目	
	計	○○ 科目	計	○○ 科目	計	○○ 科目

- (注) ・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (〇〇年〇〇月)		〇〇意見	
設置計画 調 査 (△△年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年2月)		改善意見	
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年2月)	・同一設置者が設置する既設学部等(〇〇学科、●●学科)の～すること。	〇〇意見	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

7 その他全般的事項

<情報理工学研究科 基盤理工学専攻（博士前期課程）>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
記入例) ① 修了要件単位 1 2 4 単位 ② 施設・設備 a 講義室〇室 b 自習室〇室 (〇m) c 図書〇〇冊	科目 (1 科 象表) 参照) 室, 自習室を , 図書も〇〇冊 増書した。
<h1>該当なし</h1>	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 大学教育センター教育推進部門が中心となり、教育の質の改善・向上に向けた取組を実施している。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 教育推進部門会議（平成28年度） 第42回（6月13日：参加者8名） 第43回（9月28日：参加者9名） 第44回（11月21日：参加者5名） 第45回（1月30日：参加者7名） 第46回（3月2日：参加者9名）</p> <p>c 委員会の審議事項等 (1) ファカルティ・ディベロップメントの実施に関すること (2) 学生授業評価の実施に関すること (3) シラバス及び成績評価に関すること (4) 教育環境の整備に関すること (5) その他、教育に関わる調査の実施に関すること</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容 ・ 第1回TA講習会（4月6日） ・ FD数学、物理、情報、基礎学力検討会（4月13日） ・ 学院院新任教育系職員研修会（4月21日） ・ 第1回ハラスメント防止研修（7月5日） ・ 実験実習研究会（8月30日） ・ 第2回TA講習会（9月23日） ・ 教育研究技師部職員研修（9月26日） ・ 英語FDワークショップ（10月11日） ・ 第1回大学の教育力向上FD講演会「学生による授業評価アンケート、卒業生調査の活用を中心として」（11月29日） ・ 第2回ハラスメント防止研修（12月16日） ・ 第2回大学の教育力向上FD講演会「今、なぜアクティブラーニングか」（12月19日） ・ 公開授業：ソフトウェア工学（12月22日） ・ 第3回大学の教育力向上FD講演会「欧州大学の苦悩と挑戦 - 大学としての共通性と多様性をどう両立させるか -」（2月24日）</p> <p>b 実施方法 大学教育センター教育推進部門を中心として、全学的なファカルティ・ディベロップメント講演会、公開授業の参観、授業評価アンケートに関するワークショップ等に取り組んでいる。</p>
--

c 開催状況（教員の参加状況含む）

4月6日：参加者287名【学生274名、教員13名】
4月13日：参加者39名
4月21日：参加者23名
7月5日：参加者111名
8月30日：参加者37名
9月23日：参加者68名【学生56名、教員12名】
9月26日：参加者19名
10月11日：参加者20名
11月29日：参加者63名
12月16日：参加者60名
12月19日：参加者57名
12月22日：参加者15名
2月24日：参加者39名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教育改善調査の実施及び各種研修プログラムの提供について、第3期中期目標・中期計画を踏まえた道筋の検討を進めた。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前学期及び後学期終了時に実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果を教員にフィードバックすることにより、自主的な授業の改善を促しているほか、他の教員の参考となるように、アンケートの総合評価が高かった科目の中で、科目区分（講義、実験、体育、大学院）別に上位10%のものについて、大学教育センターの学内専用ウェブサイトで公開している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画に基づき、平成28年4月1日に開設した。「広い視野と倫理観を持ち、グローバル社会で活躍できる確かな専門知識と実践的な応用力を持ち、リーダーとして企画・開発をも担える高度専門技術者を育成する」という設置の趣旨・目的に沿った教育・研究体制のもと、現在まで順調に進んでいる。引き続き、当該趣旨・目的に沿った教育・研究活動を計画どおり実施していきたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

平成29年7月公開予定

b 公表方法

「自己点検・評価報告書（年度計画の実施状況）」を作成し、大学ホームページにて公表する。

③ 認証評価を受ける計画

平成33年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成29年 6月 30日)

注3

大学番号：031

[平成28年度設置]

計画の区分：研究科の専攻の設置

注1

事前伺い

電気通信大学大学院 情報理工学研究科
情報学専攻（博士後期課程）

注2

【事前伺い】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 電気通信大学
平成29年5月1日現在

作成担当者	
担当部局（課）名	総務課
職名・氏名	係長 <small>ハンドウ</small> 飯銅 <small>ジュンジ</small> 純二
電話番号	042-443-5050
（夜間）	042-443-5050
F A X	042-443-5010
e-mail	kchosa-k@office.uec.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
 設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。
 例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
 (◇◇学部 (平成◇◇年度より学科名称変更))
 表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
 例)
 ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
 ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
 ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
 ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
 ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科 (通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について (依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

情報理工学研究科

<情報学専攻(博士後期課程)>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	10
4. 既設大学等の状況	11
5. 教員組織の状況	13
6. 留意事項等に対する履行状況等	21
7. その他全般的事項	22

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 電気通信大学

(2) 大学名

電気通信大学

(3) 大学の位置

〒182-8585
東京都調布市調布ヶ丘1丁目5番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	フクダ タカシ 福田 喬 (平成26年4月1日)		
研究科長	タノ シュンイチ 田野 俊一 (平成29年4月1日)		
専攻長	ヨシウラ ヒロシ 吉浦 裕 (平成29年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ 様式は, 平成27年度開設の博士後期課程の場合(平成29年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
情報理工学研究科 情報学専攻 (博士後期課程) 修士(工学)(理学)(学術)	工学関係 理学関係	3年	13人	39人	基礎となる学部等 情報理工学域

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	13 (-) [-]	人 人	13 (-) [-]	人 人	13 (-) [-]	人 人	() () []	() () []	1.23倍	
志願者数	12 (4) [2]	3 (3) [-]	18 (3) [5]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
受験者数	12 (4) [2]	3 (3) [-]	18 (3) [5]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
合格者数	11 (3) [2]	3 (3) [-]	18 (3) [5]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
B 入学者数	11 (3) [2]	3 (3) [-]	18 (3) [5]	() () []	() () []	() () []	() () []	() () []		
入学定員超過率 B/A	1.07		1.38							

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
- ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

報告年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	11 [3] (-)	3 [0] (-)	18 [5] (-)	1 [-] (-)	[]	[]	
2年次	/		10 [2] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次			/		[] ()	[] ()	
計	14 [3] (-)				29 [7] (-)		[] ()

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留學生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況**について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成28年度 入学者	14 人	3 人	平成28年度	3 人	1 人	・仕事の都合(2人)・その他(1人)	21.42 %
			平成29年度	0 人	0 人		
			平成30年度	人	人		
平成29年度 入学者	18 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
			平成30年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	0 人	平成30年度	人	人		#DIV/0! %
合 計	32 人	3 人					9.37 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<情報理工学研究科 情報学専攻(博士後期課程)>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院基礎教育科目	技術者と安全・環境・倫理	1・2・3前		2								兼1	
	国際社会の政治・経済	1・2・3前		2		1						兼1	
	日本とアジアの近代史	1・2・3後		2								兼1	
	科学技術の歴史	1・2・3後		2			1					兼1	
	現代社会と倫理	1・2・3後		2		+						専任教員が平成29年度に転出のため、兼任教員1名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29)	
	環太平洋圏の社会と文化	1・2・3後		2		1						兼15	
	幾何学特論	1・2・3後		2		1							
	解析学特論	1・2・3後 (隔年開講) 1・2・3後		2		1	+						バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講に変更(28)
	代数学特論	1・2・3後 (隔年開講) 1・2・3後		2			1						バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講に変更(28)
	教育学特論	1・2・3後		2		1							
大学院輪講	大学院輪講第二	1~3通	4			25 27 26	20 17 22			+		大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)	
大学院実践教育科目	ベンチャービジネス特論	1・2・3前		2		1	+					兼4 兼6	兼任教員の負担軽減のため、専任教員1名、兼任教員4名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29) より教育内容に即した担当教員への変更すると共に兼任教員6名を追加(28)
	知的財産権特論	1・2・3後		2		1						兼7 兼8	兼任教員の負担軽減のため、兼任教員7名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教員1名、兼任教員8名で対応(28)
	先端技術開発特論	1・2・3後		2		1						兼15	教育内容充実のため、専任教員1名、兼任教員15名で対応(28)
	ETL(Elementary Teaching Laboratory)	1・2・3通		2		2	2						
	経営実践特論	1・2・3前		1						1		兼2	教育内容充実のため、専任助教1名、兼任教員2名で対応(28)
	IT最前線	1・2・3後		2		1						兼1	教育内容充実のため、専任教員1名、兼任教員1名で対応(28)
	データサイエンティスト特論	1・2・3後		2		1							教育内容充実のため、科目を追加(29)
	データアントレプレナー実践論	1・2・3後		2		1							教育内容充実のため、科目を追加(29)
	オープンイノベーションスクールⅢ	1・2・3前		1		2	1						教育内容充実のため、専任准教授1名を追加(28)
	オープンイノベーションスクールⅣ	1・2・3前		1		2	1						教育内容充実のため、専任教員2名、専任准教授1名で対応(28)
	オープンイノベーションスクールⅤ	1・2・3前		1		2	1						教育内容充実のため、専任教員2名、専任准教授1名で対応(28)
	大学院インターンシップ	1・2・3前		2		+	1						より教育内容に即した担当教員への変更(29)
	大学院インターンシップ(海外)	1・2・3前		2		+	1						より教育内容に即した担当教員への変更(29)
	大学院インターンシップ(長期)	1・2・3前		4		+	1						より教育内容に即した担当教員への変更(29)
大学院インターンシップ(海外・長期)	1・2・3前		4		+	1						より教育内容に即した担当教員への変更(29)	
大学院海外語学研修Ⅰ	1・2・3前		1			1						教育内容充実のため、科目を追加(29)	
大学院海外語学研修Ⅱ	1・2・3前		2			1						教育内容充実のため、科目を追加(29)	
大学院専門教育科目	現代代数学	1・2・3後 (隔年開講)		2			1						教育内容充実のため、科目を追加(28)
	数理解析学	1・2・3後 (隔年開講)		2			1						教育内容充実のため、科目を追加(28)
	メディア論特論	1・2・3前		2		1							
	認知科学特論	1・2・3前		2			1						
	画像認識システム特論	1・2・3後		2		1							
	認知プロセス論特論	1・2・3前		2		1							
	学習工学特論	1・2・3前		2		1							教育内容充実のため、科目を追加(28)
	視覚情報処理特論	1・2・3後		2			1						
	コミュニケーション論特論	1・2・3後		2			1						
	計算機科学特論	1・2・3後		2		1							
インタラクティブシステム特論	1・2・3前		2			1							

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			専任教員等の配置				備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
	マルチメディアコンピューティング特論	1・2・3後		2							兼1
	マルチエージェントシステム特論	1・2・3前		2		1					
	サービス・サイエンス特論	1・2・3前		2		1					
	金融工学特論	1・2・3前		2							兼1
	生体システム工学特論	1・2・3後		2		1					
	経営システム工学特論	1・2・3前		2							兼1
	言語認知システム特論	1・2・3前		2		1					
	人間工学特論	1・2・3後		2			1				
	生産システム特論	1・2・3後		2		1					
	システム信頼性特論	1・2・3前		2		1					
	コンテンツセキュリティ特論	1・2・3前		2		1					
	ネットワークセキュリティ特論	1・2・3前		2			1				
大学院専門教育科目	専門科目Ⅱ	離散情報構造特論		2			1				
		ソフトウェアセキュリティ特論	1・2・3後 1・2・3前 1・2・3後	2			1 +				兼1
		暗号理論特論	1・2・3後	2		1					
		創造的情報メディア論	1・2・3前	2		1					
		インテリジェントシステム特論	1・2・3後	2		1					
		対話型システム特論	1・2・3後	2		1					
		ヒューマンインタフェース特論	1・2・3前	2			1				
		ロボットソフトウェア特論	1・2・3前	2		1					
		知能ロボティクス特論	1・2・3後	2			1				
		システム設計特論1	1・2・3後	2		1					
		システム設計特論2	1・2・3前	2			1				
		人工知能と複雑ネットワーク	1・2・3前	2		1					
		時空間情報科学特論	1・2・3後	2			1				
		リスクマネジメント論	1・2・3前	2		1					
ゲーム理論	1・2・3後	2			1						
ネットワークアーキテクチャ論	1・2・3前	2		1							
コンピュータネットワーク特論	1・2・3後	2			1						
専門上級科目	情報学特論	1・2・3前	2			25 27 26	20 17 22		+		大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼○」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成○年○月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年度」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
科目 2	科目 60	科目 0	科目 62	科目 2 [0]	科目 67 [7]	科目 0 [0]	科目 69 [7]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	解析学特論	2	1・2後	一般	選択	バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講とし、平成30年度に開講する。
2	現代代数学	2	1・2後	専門	選択	バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講とし、平成30年度に開講する。
3						

(注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2	該当なし					
3						

(注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{2}{62} = \quad = \quad = \quad \boxed{3.22} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎敷地と別地 (校舎より2km)		
	校 舎 敷 地	115,433 m ²	0 m ²	0 m ²	115,433 m ²			
	運 動 場 用 地	38,187 m ²	0 m ²	0 m ²	38,187 m ²			
	小 計	153,620 m ²	0 m ²	0 m ²	153,620 m ²			
	そ の 他	34,685 m ²	0 m ²	0 m ²	34,685 m ²			
	合 計	188,305 m ²	0 m ²	0 m ²	188,305 m ²			
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
		90,163 m ² (90,163 m ²)	0 m ² (0m ²)	0 m ² (0m ²)	90,163 m ² (90,163 m ²)			
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		
		0室	25室	35室	4室 (補助職員 人)	0室 (補助職員 人)		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数			
		情報理工学研究科 情報学専攻 (博士後期課程)			74 室			
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機 械 ・ 器 具	標 本	
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル				
	冊	種	[うち外国書]	点	点	点		
	情報理工学研究科 情報学専攻 (博士後期課程)	315,018 [109,394] (315,018 [109,394])	8,887 [6,091] (8,887 [6,091])	3,899 [3,889] (3,899 [3,889])	2,896 (2,896)	0 (0)	0 (0)	
計	315,018 [109,394] (315,018 [109,394])	8,887 [6,091] (8,887 [6,091])	3,899 [3,889] (3,899 [3,889])	2,896 (2,896)	0 (0)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積		閲 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
	7,323m ²		621		368,000			
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
	3,077 m ²		多摩川運動場(陸上競技場、サッカー・ラグビー場、テニスコート4面、アーチェリー場)、プール、屋外競技場(弓道場、テニスコート7面)					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	電気通信大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入定 学員	編入学 定員	収定 容員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
情報理工学域									
Ⅰ類（情報系）	4	210	3年次 9	858	学士 （工学）	1.04	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	一般入試（前期日程）では学域全体の 大括り入試を採用しており、入学 定員超過率は類別の状況を集計する ことができないため、Ⅰ類、Ⅱ類、 Ⅲ類をまとめ上げた状況を記載して いる。
Ⅱ類（融合系）	4	245	3年次 10	1000	学士 （工学）	1.04	平成28年度	同上	
Ⅲ類（理工系）	4	235	3年次 10	960	学士 （工学）	1.04	平成28年度	同上	
先端工学基礎課程 （夜間主）	4	30	3年次 3	126	学士 （工学）	1.00	平成28年度	同上	
情報理工学部									
総合情報学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先端工学基礎課程 （夜間主）	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報理工学研究科 （博士前期課程）									
情報学専攻	2	110	-	220	修士 （工学）（理学） （学術）	1.19	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	
情報・ネットワーク 工学専攻	2	150	-	300	修士 （工学）（理学） （学術）	1.13	平成28年度	同上	
機械知能システム 学専攻	2	105	-	210	修士 （工学）（理学） （学術）	1.02	平成28年度	同上	
基盤理工学専攻	2	135	-	270	修士 （工学）（理学） （学術）	0.94	平成28年度	同上	
総合情報学専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学 専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止

情報理工学研究科 (博士後期課程)									
情報学専攻	3	13	-	39	博士 (工学)(理学) (学術)	1.23	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	
情報・ネットワーク 工学専攻	3	18	-	54	博士 (工学)(理学) (学術)	0.66	平成28年度	同上	
機械知能システム 学専攻	3	12	-	36	博士 (工学)(理学) (学術)	0.95	平成28年度	同上	
基盤理工学専攻	3	16	-	48	博士 (工学)(理学) (学術)	0.71	平成28年度	同上	
総合情報学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士前期課程)									
情報メディアシステム学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士後期課程)									
情報メディアシステム学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<情報理工学研究科 情報学専攻（博士後期課程）>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	田野 俊一 (58)	平成29年4月	IT最前線 創造的情報メディア論 大学院輪講第二 情報学特論						
専	教授	兼子 正勝 (63)	平成29年4月	メディア論特論 大学院輪講第二 情報学特論						
専	教授	柳井 啓司 (45)	平成29年4月	画像認識システム特論 大学院輪講第二 情報学特論						
専	教授	坂本 真樹 (47)	平成29年4月	認知プロセス論特論 大学院輪講第二 情報学特論						
専	教授	柏原 昭博 (52)	平成29年4月	学習工学特論 大学院輪講第二 情報学特論						
専	教授	西野 哲朗 (58)	平成29年4月	計算機科学特論 大学院輪講第二 情報学特論						
専	教授	高玉 圭樹 (47)	平成29年4月	マルチエージェントシステム特論 大学院輪講第二 情報学特論						
専	教授	椿 美智子 (56)	平成29年4月	サービス・サイエンス特論 大学院輪講第二 情報学特論						
専	教授	板倉 直明 (55)	平成29年4月	生体システム工学特論 大学院輪講第二 情報学特論						
専	教授	内海 彰 (51)	平成29年4月	言語認知システム特論 大学院輪講第二 情報学特論						
専	教授	由良 憲二 (61)	平成29年4月	生産システム特論 大学院輪講第二 情報学特論						
専	教授	田中 健次 (60)	平成29年4月	システム信頼性特論 リスクマネジメント論 大学院輪講第二 情報学特論						
専	教授	吉浦 裕 (60)	平成29年4月	コンテンツセキュリティ特論 大学院輪講第二 情報学特論						
専	教授	太田 和夫 (62)	平成29年4月	暗号理論特論 大学院輪講第二 情報学特論						
専	教授	広田 光一 (52)	平成29年4月	対話型システム特論 大学院輪講第二 情報学特論						
専	教授	末廣 尚士 (61)	平成29年4月	ロボットソフトウェア特論 大学院輪講第二 情報学特論						
専	教授	大須賀 昭彦 (58)	平成29年4月	システム設計特論1 大学院輪講第二 情報学特論						
専	教授	栗原 聡 (51)	平成29年4月	人工知能と複雑ネットワーク 大学院輪講第二 情報学特論						
専	教授	加藤 聰彦 (61)	平成29年4月	ネットワークアーキテクチャ論 大学院輪講第二 情報学特論						

専	教授	崎山 一男 (45)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論						
専	教授	庄野 逸 (48)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論						
専	教授	羽田 陽一 (52)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論						
専	教授	山田 裕一 (48)	平成29年4月	幾何学特論 大学院輪講第二 情報学特論						
専	准教授	山口 和彦 (55)	平成29年4月	大学院インターンシップ 大学院インターンシップ (海外) 大学院インターンシップ (長期) 大学院インターンシップ (海外・長期) 大学院輪講第二 情報学特論						
専	准教授	高橋 裕樹 (50)	平成29年4月	視覚情報処理特論 大学院輪講第二 情報学特論						
専	准教授	梶本 裕之 (41)	平成29年4月	インタラクティブシステム特論 大学院輪講第二 情報学特論						
専	准教授	水戸 和幸 (42)	平成29年4月	人間工学特論						
専	准教授	高田 哲司 (46)	平成29年4月	ネットワークセキュリティ特論						
専	准教授	石上 嘉康 (50)	平成29年4月	離散情報構造特論 大学院輪講第二 情報学特論						
専	准教授	市野 将嗣 (37)	平成29年4月	ソフトウェアセキュリティ特論						
専	准教授	橋山 智訓 (49)	平成29年4月	インテリジェントシステム特論 大学院輪講第二 情報学特論						
専	准教授	野嶋 琢也 (41)	平成29年4月	ヒューマンインタフェース特論 大学院輪講第二 情報学特論						
専	准教授	工藤 俊亮 (39)	平成29年4月	知能ロボティクス特論 大学院輪講第二 情報学特論						
専	准教授	田原 康之 (50)	平成29年4月	システム設計特論 2 大学院輪講第二 情報学特論						
専	准教授	山本 佳世子 (48)	平成29年4月	時空間情報科学特論 大学院輪講第二 情報学特論						
専	准教授	岩崎 敦 (43)	平成29年4月	ゲーム理論						
専	准教授	大坐島 智 (42)	平成29年4月	コンピュータネットワーク特論 大学院輪講第二 情報学特論						
専	准教授	岩本 貢 (40)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論						
専	准教授	佐藤 寛之 (36)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論						

専	准教授	橋本 直己 (44)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論						
専	准教授	松本 光春 (39)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論						
専	准教授	水野 統太 (41)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論						
専	准教授	山田 哲男 (43)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論						
専	准教授	榎本 直也 (36)	平成29年4月	代数学特論 現代代数学						
専	准教授	久野 雅樹 (52)	平成29年4月	認知科学特論						
専	准教授	大河原 一憲 (41)	平成29年4月	コミュニケーション論特論 大学院輪講第二 情報学特論						
専	准教授	横川 慎二 (47)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論						
兼担	教授	梶浦 篤 (56)	平成29年4月	国際社会の政治・経済						
兼担	教授	阿部 浩二 (60)	平成29年4月	現代社会と倫理						
兼担	教授	久藤 衡介 (44)	平成29年4月	解析学特論						
兼担	教授	佐々木 啓子 (62)	平成29年4月	教育学特論						
兼担	教授	安部 博文 (63)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼担	教授	本間 高弘 (52)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼担	教授	渡邊 昌良 (61)	平成29年4月	先端技術開発特論						
兼担	教授	米田 仁紀 (56)	平成29年4月	ET (Elementary Teaching Laboratory) 危機・限界体験特別実験 オープンイノベーションスクールB オープンイノベーションスクールB オープンイノベーションスクールB						
兼担	教授	鈴木 勝 (57)	平成29年4月	ET (Elementary Teaching Laboratory) 危機・限界体験特別実験						
兼担	教授	田村 元紀 (61)	平成29年4月	データサイエンティスト特論 データアントレプレナー実践論						
兼担	教授	桂川 真幸 (54)	平成29年4月	オープンイノベーションスクールB オープンイノベーションスクールB オープンイノベーションスクールB						
兼担	准教授	佐藤 賢一 (49)	平成29年4月	科学技術の歴史						
兼担	准教授	島田 宏 (55)	平成29年4月	ET (Elementary Teaching Laboratory)						

兼任	准教授	宮本 洋子 (50)	平成29年4月	EL(Elementary Teaching Laboratory)						
兼任	准教授	古川 裕介 (41)	平成29年4月	オープンイノベーションスクールⅡ オープンイノベーションスクールⅢ オープンイノベーションスクールⅣ						
兼任	准教授	CHOO Cheow Keong (48)	平成29年4月	大学院海外語学研修Ⅰ 大学院海外語学研修Ⅱ						
兼任	准教授	石田 晴久 (48)	平成29年4月	数理解析学						
兼任	助教	牧 昌次郎 (50)	平成29年4月	経営実践特論						
兼任	講師	岡田 和則 (55)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論						
兼任	講師	折原 良平 (54)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論						
兼任	講師	石川 冬樹 (37)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論						
兼任	講師	川村 隆浩 (47)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報学特論						
兼任	講師	高野倉 雅人 (43)	平成29年4月	技術者と安全・環境・倫理						
兼任	講師	木元 麻里 (44)	平成29年4月	現代社会と倫理						
兼任	講師	澤田 ゆかり (56)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	丹羽 泉 (60)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	長谷部 美佳 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	John Porter (36)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	野平 宗弘 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	左右田 直規 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	倉田 明子 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	田島 陽一 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	岡田 知子 (51)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	降幡 正志 (50)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	小川 英文 (61)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						

兼任	講師	宮田 敏之 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	山内 由理子 (44)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	李 孝徳 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	佐々木 孝弘 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	Derr, Jonathan (52)	平成29年4月	大学院技術英語						
兼任	講師	赤羽 雄二 (62)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	講師	村井 雄司 (52)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	講師	安藤 晴彦 (55)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	講師	村口 和孝 (58)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	講師	尾原 和貴 (46)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	木村 友久 (61)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	加藤 浩一郎 (51)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	岡村 信一 (58)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	劉 昕 (50)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	香島 拓也 (49)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	戸田 恒夫 (65)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	尾内 理紀夫 (67)	平成29年4月	マルチメディア・アイコンティング特論						
兼任	講師	山田 俊皓 (33)	平成29年4月	金融工学特論						
兼任	講師	藤川 裕晃 (63)	平成29年4月	経営システム工学特論						

- (注) ・ 設置時の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
9	6	3
名	名	名

- (注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件(平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号)により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在(報告書提出時)の状況					現在(報告書提出時)の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計(A)	教授	准教授	講師	助教	計(B)
23	22	0	1	46	23	24	0	0	47	23	24	0	0	47
(23)	(24)	(0)	(0)	(47)						[0]	[2]	[0]	[Δ1]	[1]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
37	9	0			39	8	0			39	8	0		
(39)	(8)	(0)								[2]	[Δ1]	[0]		

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。
- ・ 「現在(報告書提出時)の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数(実人数)を記入してください。
 - ・ 「現在(報告書提出時)の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：Δ1)

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢(歳)	報告書提出時(上記(A))の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時(上記(B))の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65	0	0
歳	名	名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢(特例等による定年年齢ではありません)、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 - ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1	教授	◎◎ ◎◎	必修	○○概論	①	……………のため就任辞退（27）	
			選択	◆◆基礎	②		
			必修	☆☆演習	③		
2	准教授	△△	該当なし			……………のため就任辞退（29）	
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
○○	人	必修	○○	科目	必修	○○	科目
		選択	○○	科目	選択	○○	科目
		自由	○○	科目	自由	○○	科目
		計	○○	科目	計	○○	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1	教授	◎◎ ◎◎	必修	○○概論	①	……………のため辞任（27）	
			選択	◆◆基礎	②		
			必修	☆☆演習	③		
2	准教授	△△	該当なし			……………のため辞任（29）	
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
○○	人	必修	○○	科目	必修	○○	科目
		選択	○○	科目	選択	○○	科目
		自由	○○	科目	自由	○○	科目
		計	○○	科目	計	○○	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (A) + (C)		後任補充状況の集計 (B) + (D)				
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)		
○○	該当なし			○○	必修	○○
	該当なし			○○	選択	○○
	該当なし			○○	自由	○○
	計			○○	科目	計
計	○○	科目	計	○○	科目	

- (注) ・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (〇〇年〇〇月)		〇〇意見	
設置計画 調 査 (△△年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年2月)		改善意見	
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年2月)	・同一設置者が設置する既設学部等(〇〇学科、●●学科)の～すること。	〇〇意見	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

7 その他全般的事項

<情報理工学研究科 情報学専攻（博士後期課程）>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
記入例) ① 修了要件単位 1 2 4 単位 ② 施設・設備 a 講義室〇室 b 自習室〇室（〇m） c 図書〇〇冊	科目（1科 象表」参照） 室，自習室を ，図書も〇〇冊 増書した。
<h1 style="font-size: 2em;">該当なし</h1>	

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 大学教育センター教育推進部門が中心となり、教育の質の改善・向上に向けた取組を実施している。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 教育推進部門会議（平成28年度） 第42回（6月13日：参加者8名） 第43回（9月28日：参加者9名） 第44回（11月21日：参加者5名） 第45回（1月30日：参加者7名） 第46回（3月2日：参加者9名）</p> <p>c 委員会の審議事項等 (1) ファカルティ・ディベロップメントの実施に関すること (2) 学生授業評価の実施に関すること (3) シラバス及び成績評価に関すること (4) 教育環境の整備に関すること (5) その他、教育に関わる調査の実施に関すること</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容 ・ 第1回TA講習会（4月6日） ・ FD数学、物理、情報、基礎学力検討会（4月13日） ・ 学院院新任教育系職員研修会（4月21日） ・ 第1回ハラスメント防止研修（7月5日） ・ 実験実習研究会（8月30日） ・ 第2回TA講習会（9月23日） ・ 教育研究技師部職員研修（9月26日） ・ 英語FDワークショップ（10月11日） ・ 第1回大学の教育力向上FD講演会「学生による授業評価アンケート、卒業生調査の活用を中心として」（11月29日） ・ 第2回ハラスメント防止研修（12月16日） ・ 第2回大学の教育力向上FD講演会「今、なぜアクティブラーニングか」（12月19日） ・ 公開授業：ソフトウェア工学（12月22日） ・ 第3回大学の教育力向上FD講演会「欧州大学の苦悩と挑戦 - 大学としての共通性と多様性をどう両立させるか -」（2月24日）</p> <p>b 実施方法 大学教育センター教育推進部門を中心として、全学的なファカルティ・ディベロップメント講演会、公開授業の参観、授業評価アンケートに関するワークショップ等に取り組んでいる。</p>
--

c 開催状況（教員の参加状況含む）

4月6日：参加者287名【学生274名、教員13名】
4月13日：参加者39名
4月21日：参加者23名
7月5日：参加者111名
8月30日：参加者37名
9月23日：参加者68名【学生56名、教員12名】
9月26日：参加者19名
10月11日：参加者20名
11月29日：参加者63名
12月16日：参加者60名
12月19日：参加者57名
12月22日：参加者15名
2月24日：参加者39名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教育改善調査の実施及び各種研修プログラムの提供について、第3期中期目標・中期計画を踏まえた道筋の検討を進めた。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前学期及び後学期終了時に実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果を教員にフィードバックすることにより、自主的な授業の改善を促しているほか、他の教員の参考となるように、アンケートの総合評価が高かった科目の中で、科目区分（講義、実験、体育、大学院）別に上位10%のものについて、大学教育センターの学内専用ウェブサイトで公開している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画に基づき、平成28年4月1日に開設した。「広い視野と倫理観を持ち、グローバル社会で活躍できる確かな専門知識と実践的な応用力を持ち、リーダーとして企画・開発をも担える高度専門技術者を育成する」という設置の趣旨・目的に沿った教育・研究体制のもと、現在まで順調に進んでいる。引き続き、当該趣旨・目的に沿った教育・研究活動を計画どおり実施していきたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

平成29年7月公開予定

b 公表方法

「自己点検・評価報告書（年度計画の実施状況）」を作成し、大学ホームページにて公表する。

③ 認証評価を受ける計画

平成33年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成29年 6月 30日)

注3

大学番号：031

[平成28年度設置]

計画の区分：研究科の専攻の設置

注1

事前伺い

電気通信大学大学院 情報理工学研究科
情報・ネットワーク工学専攻（博士後期課程）

注2

【事前伺い】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 電気通信大学
平成29年5月1日現在

作成担当者	
担当部局（課）名	総務課
職名・氏名	係長 <small>ハンドウ</small> 飯銅 <small>ジュンジ</small> 純二
電話番号	042-443-5050
（夜間）	042-443-5050
F A X	042-443-5010
e-mail	kchosa-k@office.uec.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

情報理工学研究科

＜情報・ネットワーク工学専攻(博士後期課程)＞		ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	11
4. 既設大学等の状況	12
5. 教員組織の状況	14
6. 留意事項等に対する履行状況等	24
7. その他全般的事項	25

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 電気通信大学

(2) 大学名

電気通信大学

(3) 大学の位置

〒182-8585
東京都調布市調布ヶ丘1丁目5番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	フクダ タカシ 福田 喬 (平成26年4月1日)		
研究科長	タノ シュンイチ 田野 俊一 (平成29年4月1日)		
専攻長	チョウ キ 張 熙 (平成29年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成27年度開設の博士後期課程の場合(平成29年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
情報理工学研究科 情報・ネットワーク工学専攻 (博士後期課程) 修士(工学)(理学)(学術)	工学関係 理学関係	3年	18人	54人	基礎となる学部等 情報理工学域

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	18 (-) [-]	人 人	18 (-) [-]	人 人	18 (-) [-]	人 人	人 人	0.66倍		
志願者数	11 (4) [2]	7 (6) [1]	6 (2) [3]	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []			
受験者数	11 (4) [2]	7 (6) [1]	6 (2) [3]	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []			
合格者数	11 (4) [2]	7 (6) [1]	6 (2) [3]	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []			
B 入学者数	11 (4) [2]	7 (6) [1]	6 (2) [3]	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []			
入学定員超過率 B/A	1.00		0.33							

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

報告年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	11 [2] (-)	7 [1] (-)	6 [3] (-)	7 [1] (-)	[]	[]	
2年次	/		11 [2] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次			/		[] ()	[] ()	[] ()
計	18 [3] (-)				24 [6] (-)		[] ()

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況**について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成28年度 入学者	18人	0人	平成28年度	0人	0人		0.00%
			平成29年度	0人	0人		
			平成30年度	人	人		
平成29年度 入学者	6人	0人	平成29年度	0人	0人		0.00%
			平成30年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	0人	平成30年度	人	人		#DIV/0!%
合計	24人	0人					0.00%

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<情報理工学研究科 情報・ネットワーク工学専攻（博士後期課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院基礎教育科目	技術者と安全・環境・倫理	1・2・3前		2								兼1
	国際社会の政治・経済	1・2・3前		2		1						兼1
	日本とアジアの近代史	1・2・3後		2								
	科学技術の歴史	1・2・3後		2			1					
	現代社会と倫理	1・2・3後		2		+						兼1
	環太平洋圏の社会と文化	1・2・3後		2		1						
	幾何学特論	1・2・3後		2		1						
	解析学特論	1・2・3後 (隔年開講) 1・2・3後		2		1		+				バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講に変更(28)
	代数学特論	1・2・3後 (隔年開講) 1・2・3後		2			1					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講に変更(28)
教育学特論	1・2・3後		2		1							
大学院 輪講	大学院輪講第二	1～3通	4			42 44 36	26 25 22	1	4 2			大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)
大学院実践教育科目	ベンチャービジネス特論	1・2・3前		2		1	+					兼4 兼6
	知的財産権特論	1・2・3後		2		1						兼7 兼8
	先端技術開発特論	1・2・3後		2		1						兼15
	ETL(Elementary Teaching Laboratory)	1・2・3通		2		2	2					
	経営実践特論	1・2・3前		1					1			兼2
	IT最前線	1・2・3後		2		1						兼1
	データサイエンティスト特論	1・2・3後		2		1						
	データアントレプレナー実践論	1・2・3後		2		1						
	オープンイノベーションスクールⅢ	1・2・3前		1		2	1					
	オープンイノベーションスクールⅣ	1・2・3前		1		2	1					
	オープンイノベーションスクールⅤ	1・2・3前		1		2	1					
	大学院インターンシップ	1・2・3前		2		+	2 +					
	大学院インターンシップ(海外)	1・2・3前		2		+	2 +					
	大学院インターンシップ(長期)	1・2・3前		4		+	2 +					
	大学院インターンシップ(海外・長期)	1・2・3前		4		+	2 +					
大学院海外語学研修Ⅰ	1・2・3前		1			1						
大学院海外語学研修Ⅱ	1・2・3前		2			1						
専門科目Ⅰ	連続最適化基礎論	1・2・3後		2		1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				備考
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	

- (注)
- ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
科目 2	科目 72	科目 0	科目 74	科目 [0]	科目 [4]	科目 [0]	科目 [4]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	解析学特論	2	1・2後	一般	選択	バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講とし、平成30年度に開講する。
2						
3						

(注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2	該当なし					
3	該当なし					

(注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{1}{74} = \boxed{1.35} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎敷地と別地 (校舎より2km)			
	校 舎 敷 地	115,433 m ²	0 m ²	0 m ²	115,433 m ²				
	運 動 場 用 地	38,187 m ²	0 m ²	0 m ²	38,187 m ²				
	小 計	153,620 m ²	0 m ²	0 m ²	153,620 m ²				
	そ の 他	34,685 m ²	0 m ²	0 m ²	34,685 m ²				
	合 計	188,305 m ²	0 m ²	0 m ²	188,305 m ²				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		90,163 m ² (90,163 m ²)	0 m ² (0m ²)	0 m ² (0m ²)	90,163 m ² (90,163 m ²)				
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			
		0室	46室	55室	4室 (補助職員 人)	0室 (補助職員 人)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		情報理工学研究科 情報・ネットワーク工学専攻 (博士後期課程)			121 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	大学全体	
	情報理工学研究科 情報・ネットワーク 工学専攻 (博士 後期課程)	315,018 [109,394] (315,018 [109,394])	8,887 [6,091] (8,887 [6,091])	3,899 [3,889] (3,899 [3,889])	2,896 (2,896)	0 (0)	0 (0)		
	計	315,018 [109,394] (315,018 [109,394])	8,887 [6,091] (8,887 [6,091])	3,899 [3,889] (3,899 [3,889])	2,896 (2,896)	0 (0)	0 (0)		
(6) 図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数		大学全体		
		7,323m ²		621	368,000				
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体		
		3,077 m ²		多摩川運動場 (陸上競技場、サッカー・ラグビー場、テニスコート4面、アーチェリー場)、プール、屋外競技場 (弓道場、テニスコート7面)					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次 千円	第2年次 千円	第3年次 千円	第4年次 千円	第5年次 千円	第6年次 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	電気通信大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入定 学員	編入学 定員	収定 容員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
情報理工学域									
Ⅰ類（情報系）	4	210	3年次 9	858	学士 （工学）	1.04	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	一般入試（前期日程）では学域全体の 大括り入試を採用しており、入学 定員超過率は類別 の状況を集計する ことができないた め、Ⅰ類、Ⅱ類、 Ⅲ類をまとめ上げ た状況を記載して いる。
Ⅱ類（融合系）	4	245	3年次 10	1000	学士 （工学）	1.04	平成28年度	同上	
Ⅲ類（理工系）	4	235	3年次 10	960	学士 （工学）	1.04	平成28年度	同上	
先端工学基礎課程 （夜間主）	4	30	3年次 3	126	学士 （工学）	1.00	平成28年度	同上	
情報理工学部									
総合情報学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先端工学基礎課程 （夜間主）	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報理工学研究科 （博士前期課程）									
情報学専攻	2	110	-	220	修士 （工学）（理学） （学術）	1.19	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	
情報・ネットワーク 工学専攻	2	150	-	300	修士 （工学）（理学） （学術）	1.13	平成28年度	同上	
機械知能システム 学専攻	2	105	-	210	修士 （工学）（理学） （学術）	1.02	平成28年度	同上	
基盤理工学専攻	2	135	-	270	修士 （工学）（理学） （学術）	0.94	平成28年度	同上	
総合情報学専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学 専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止

情報理工学研究科 (博士後期課程)									
情報学専攻	3	13	-	39	博士 (工学)(理学) (学術)	1.23	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	
情報・ネットワーク 工学専攻	3	18	-	54	博士 (工学)(理学) (学術)	0.66	平成28年度	同上	
機械知能システム 学専攻	3	12	-	36	博士 (工学)(理学) (学術)	0.95	平成28年度	同上	
基盤理工学専攻	3	16	-	48	博士 (工学)(理学) (学術)	0.71	平成28年度	同上	
総合情報学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士前期課程)									
情報メディアシステム学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士後期課程)									
情報メディアシステム学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<情報理工学研究科 情報・ネットワーク工学専攻（博士後期課程）>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	村松 正和 (51)	平成29年4月	連続最適化基礎論 大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	石橋 孝一郎 (59)	平成29年4月	集積回路設計特論 大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	和田 光司 (48)	平成29年4月	マイクロ波回路設計特論 大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	肖 鳳超 (51)	平成29年4月	環境電磁工学特論 大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	大濱 靖匡 (54)	平成29年4月	情報理論特論 大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	來住 直人 (57)	平成29年4月	光通信システム特論 大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	芳原 容英 (49)	平成29年4月	電磁波環境観測技術特論 大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	兼岩 憲 (46)	平成29年4月	知識データ工学特論 大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	成見 哲 (47)	平成29年4月	IPv6ネットワークエンジニアリング特論 大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	緒方 秀教 (49)	平成29年4月	応用解析学特論 大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	沼尾 雅之 (58)	平成29年4月	知能情報特論 大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	伊藤 大雄 (55)	平成29年4月	計算機構特論 大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	小花 貞夫 (63)	平成29年4月	情報ネットワーク特論 大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	植野 真臣 (51)	平成29年4月	ベイズ的人工知能特論 大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	長岡 浩司 (61)	平成29年4月	情報幾何学特論 大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	吉永 努 (53)	平成29年4月	計算機ネットワーク特論 大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	森田 啓義 (61)	平成29年4月	情報データ解析論 大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	南 泰浩 (54)	平成29年4月	音声対話処理 大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	大森 匡 (54)	平成29年4月	データ工学原論2 大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						

専	教授	本多 弘樹 (55)	平成29年4月	並列処理論第一 大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	岩崎 英哉 (57)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	内田 和男 (57)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	岡本 吉央 (40)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	川端 勉 (61)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	小林 聡 (51)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	佐藤 証 (52)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	張 熙 (54)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	仲谷 栄伸 (54)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	野崎 真次 (63)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	橋本 猛 (64)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	範 公可 (52)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	山本 野人 (57)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	山本 有作 (50)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	久藤 衡介 (44)	平成29年4月	解析学特論 大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	山尾 泰 (62)	平成29年4月	集積回路設計特論 大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	藤井 威生 (42)	平成29年4月	無線通信システム特論 大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	久野 靖 (60)	平成29年4月	システムソフトウェア特論 大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	教授	山口 耕平 (62)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						

専	准教授	中野 圭介 (41)	平成29年4月	大学院インターンシップ 大学院インターンシップ (海外) 大学院インターンシップ (長期) 大学院インターンシップ (海外・長期) ソフトウェア基礎特論															
専	准教授	笠井 裕之 (45)	平成29年4月	大学院インターンシップ 大学院インターンシップ (海外) 大学院インターンシップ (長期) 大学院インターンシップ (海外・長期) データ解析最適化論 大学院輪講第二															
専	准教授	石川 亮 (43)	平成29年4月	集積回路設計特論 大学院輪講第二															
専	准教授	萱野 良樹 (38)	平成29年4月	環境電磁工学特論 大学院輪講第二															
専	准教授	小島 年春 (56)	平成29年4月	無線通信システム特論 大学院輪講第二															
専	准教授	細川 敬祐 (41)	平成29年4月	宇宙通信工学特論 大学院輪講第二															
専	准教授	高橋 弘太 (56)	平成29年4月	センシング工学特論 大学院輪講第二															
専	准教授	安藤 芳晃 (44)	平成29年4月	伝送工学特論 大学院輪講第二															
専	准教授	木寺 正平 (38)	平成29年4月	生体電磁工学特論 大学院輪講第二															
専	准教授	田中 久陽 (50)	平成29年4月	非線形システム特論 大学院輪講第二															
専	准教授	野村 英之 (43)	平成29年4月	音響システム特論 大学院輪講第二															
専	准教授	中山 泰一 (52)	平成29年4月	並列分散システム特論 大学院輪講第二															
専	准教授	龍野 智哉 (45)	平成29年4月	シミュレーション理工学特論 大学院輪講第二															
専	准教授	村尾 裕一 (61)	平成29年4月	アルゴリズム特論															
専	准教授	垂井 淳 (56)	平成29年4月	理論計算機科学特論 大学院輪講第二															
専	准教授	寺田 実 (58)	平成29年4月	ネットワークアプリケーション特論 大学院輪講第二															
専	准教授	川野 秀一 (35)	平成29年4月	統計的機械学習特論 大学院輪講第二															
専	准教授	鈴木 淳 (40)	平成29年4月	情報幾何学特論															
専	准教授	小川 朋宏 (47)	平成29年4月	量子情報数理特論 大学院輪講第二															
専	准教授	Wu 策力木格 (37)	平成29年4月	ネットワークコンピューティング特論 大学院輪講第二															
専	准教授	古賀 久志 (46)	平成29年4月	アルゴリズム工学特論 大学院輪講第二															

専	准教授	小宮 常康 (48)	平成29年4月	基盤ソフトウェア特論						
専	准教授	新谷 隆彦 (47)	平成29年4月	データ工学原論1						
専	准教授	三輪 忍 (39)	平成29年4月	並列処理論第二 大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	准教授	武永 康彦 (50)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	准教授	西 一樹 (55)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	准教授	韓 承鎬 (41)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	准教授	松浦 基晴 (44)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	准教授	八木 秀樹 (41)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	准教授	山崎 匡 (43)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	准教授	伊東 裕也 (57)	平成29年4月	信号解析学特論						
専	准教授	富澤 一郎 (64)	平成29年4月	電磁波環境観測技術特論						
専	准教授	石橋 功至 (37)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	講師	小田 弘 (57)	平成29年4月	マルチメディア信号処理特論 大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	助教	KITSUWAN NATTAPONG (38)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	助教	小山 大介 (49)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	助教	関 新之助 (35)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
専	助教	湯 素華 (41)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
兼担	教授	梶浦 篤 (56)	平成29年4月	国際社会の政治・経済						
兼担	教授	阿部 浩二 (60)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼担	教授	山田 裕一 (48)	平成29年4月	幾何学特論						

兼担	教授	佐々木 啓子 (62)	平成29年4月	教育学特論						
兼担	教授	安部 博文 (63)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼担	教授	本間 高弘 (52)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼担	教授	渡邊 昌良 (61)	平成29年4月	先端技術開発特論						
兼担	教授	米田 仁紀 (56)	平成29年4月	ETL (Elementary Teaching Laboratory) オープンイノベーションスクールB オープンイノベーションスクールC オープンイノベーションスクールD						
兼担	教授	鈴木 勝 (57)	平成29年4月	ETL (Elementary Teaching Laboratory)						
兼担	教授	田野 俊一 (58)	平成29年4月	I T 最前線						
兼担	教授	田村 元紀 (61)	平成29年4月	データサイエンティスト特論 データアントレプレナー実践論						
兼担	教授	桂川 眞幸 (54)	平成29年4月	オープンイノベーションスクールB オープンイノベーションスクールC オープンイノベーションスクールD						
兼担	教授	柳澤 正久 (64)	平成29年4月	電磁波環境観測技術特論						
兼担	教授	柳井 啓司 (45)	平成29年4月	画像認識システム特論						
兼担	准教授	佐藤 賢一 (49)	平成29年4月	科学技術の歴史						
兼担	准教授	榎本 直也 (36)	平成29年4月	代数学特論						
兼担	准教授	島田 宏 (55)	平成29年4月	ETL (Elementary Teaching Laboratory)						
兼担	准教授	宮本 洋子 (50)	平成29年4月	ETL (Elementary Teaching Laboratory)						
兼担	准教授	古川 裕介 (41)	平成29年4月	オープンイノベーションスクールB オープンイノベーションスクールC オープンイノベーションスクールD						
兼担	准教授	CHOO Cheow Keong (48)	平成29年4月	大学院海外語学研修 I 大学院海外語学研修 II						
兼担	准教授	武者 満 (53)	平成29年4月	情報光工学特論						
兼担	准教授	市野 将嗣 (37)	平成29年4月	ソフトウェアセキュリティ特論						
兼担	助教	牧 昌次郎 (50)	平成29年4月	経営実践特論						
兼任	講師	荻野 長生 (62)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
兼任	講師	榎木 勤四郎 (63)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						

兼任	講師	田 光江 (57)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
兼任	講師	李 還帮 (52)	平成29年4月	大学院輪講第二 情報・ネットワーク工学特論						
兼任	講師	高野倉 雅人 (43)	平成29年4月	技術者と安全・環境・倫理						
兼任	講師	木元 麻里 (44)	平成29年4月	現代社会と倫理						
兼任	講師	澤田 ゆかり (56)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	丹羽 泉 (60)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	長谷部 美佳 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	John Porter (36)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	野平 宗弘 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	左右田 直規 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	倉田 明子 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	田島 陽一 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	岡田 知子 (51)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	降幡 正志 (50)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	小川 英文 (61)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	宮田 敏之 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	山内 由理子 (44)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	李 孝徳 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	佐々木 孝弘 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	赤羽 雄二 (62)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	講師	村井 雄司 (52)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	講師	安藤 晴彦 (55)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						

兼任	講師	村口 和孝 (58)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	講師	尾原 和貴 (46)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	木村 友久 (61)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	加藤 浩一郎 (51)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	岡村 信一 (58)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	劉 昕 (50)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	香島 拓也 (49)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	戸田 恒夫 (65)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	角田 博保 (66)	平成29年4月	ヒューマンインタフェース特論						
兼任	講師	尾内 理紀夫 (67)	平成29年4月	マルチメディアコミュニケーション特論						

- (注) ・ 設置時の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「**設置時の計画**」には当該学部等の就任時における満年齢を、「**変更状況**」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」,「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**,当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し,大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」,変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお,設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は,「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由,変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
10 名	7 名	3 名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)
33	31	1	1	66	38	33	1	4	76	38	33	1	4	76
(38)	(33)	(1)	(4)	(76)						[5]	[2]	[0]	[3]	[10]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数				
59	7	0		69	6	1		69	6	1				
(69)	(6)	(1)						[10]	[Δ1]	[1]				

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記（A））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（B））の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由				
1	教授	◎◎ ◎◎	必修	○○概論	①	……………のため就任辞退 (27)				
			選択	◆◆基礎	②					
			必修	☆☆演習	③					
2	准教授	△△	該当なし			……………のため就任辞退 (29)				
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
○○	人	必修	○○	科目	必修	○○	科目	必修	○○	科目
		選択	○○	科目	選択	○○	科目	選択	○○	科目
		自由	○○	科目	自由	○○	科目	自由	○○	科目
		計	○○	科目	計	○○	科目	計	○○	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
1	教授	◎◎ ◎◎	必修	○○概論	①	……………のため辞任 (27)				
			選択	◆◆基礎	②					
			必修	☆☆演習	③					
2	准教授	△△	該当なし			……………のため辞任 (29)				
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
○○	人	必修	○○	科目	必修	○○	科目	必修	○○	科目
		選択	○○	科目	選択	○○	科目	選択	○○	科目
		自由	○○	科目	自由	○○	科目	自由	○○	科目
		計	○○	科目	計	○○	科目	計	○○	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (A) + (C)			後任補充状況の集計 (B) + (D)				
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)		
○○	該当なし		○	科目	必修	○○	科目
			○	科目	選択	○○	科目
			○	科目	自由	○○	科目
			計	○○	科目	計	○○

- (注) ・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (〇〇年〇〇月)		〇〇意見	
設置計画 調 査 (△△年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年2月)		改善意見	
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年2月)	・同一設置者が設置する既設学部等(〇〇学科、●●学科)の～すること。	〇〇意見	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

7 その他全般的事項

<情報理工学研究科 情報・ネットワーク工学専攻（博士後期課程）>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
記入例) ① 修了要件単位 1 2 4 単位 ② 施設・設備 a 講義室〇室 b 自習室〇室(〇m) c 図書〇〇冊	科目(1科 象表)参照) 室, 自習室を , 図書も〇〇冊 増書した。

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 大学教育センター教育推進部門が中心となり、教育の質の改善・向上に向けた取組を実施している。</p> <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む) 教育推進部門会議(平成28年度) 第42回(6月13日:参加者8名) 第43回(9月28日:参加者9名) 第44回(11月21日:参加者5名) 第45回(1月30日:参加者7名) 第46回(3月2日:参加者9名)</p> <p>c 委員会の審議事項等 (1) ファカルティ・ディベロップメントの実施に関すること (2) 学生授業評価の実施に関すること (3) シラバス及び成績評価に関すること (4) 教育環境の整備に関すること (5) その他、教育に関わる調査の実施に関すること</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容 ・第1回TA講習会(4月6日) ・FD数学、物理、情報、基礎学力検討会(4月13日) ・学院院新任教育系職員研修会(4月21日) ・第1回ハラスメント防止研修(7月5日) ・実験実習研究会(8月30日) ・第2回TA講習会(9月23日) ・教育研究技師部職員研修(9月26日) ・英語FDワークショップ(10月11日) ・第1回大学の教育力向上FD講演会「学生による授業評価アンケート、卒業生調査の活用を中心として」(11月29日) ・第2回ハラスメント防止研修(12月16日) ・第2回大学の教育力向上FD講演会「今、なぜアクティブラーニングか」(12月19日) ・公開授業:ソフトウェア工学(12月22日) ・第3回大学の教育力向上FD講演会「欧州大学の苦悩と挑戦-大学としての共通性と多様性をどう両立させるか-」(2月24日)</p> <p>b 実施方法 大学教育センター教育推進部門を中心として、全学的なファカルティ・ディベロップメント講演会、公開授業の参観、授業評価アンケートに関するワークショップ等に取り組んでいる。</p>
--

c 開催状況（教員の参加状況含む）

4月6日：参加者287名【学生274名、教員13名】
4月13日：参加者39名
4月21日：参加者23名
7月5日：参加者111名
8月30日：参加者37名
9月23日：参加者68名【学生56名、教員12名】
9月26日：参加者19名
10月11日：参加者20名
11月29日：参加者63名
12月16日：参加者60名
12月19日：参加者57名
12月22日：参加者15名
2月24日：参加者39名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教育改善調査の実施及び各種研修プログラムの提供について、第3期中期目標・中期計画を踏まえた道筋の検討を進めた。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前学期及び後学期終了時に実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果を教員にフィードバックすることにより、自主的な授業の改善を促しているほか、他の教員の参考となるように、アンケートの総合評価が高かった科目の中で、科目区分（講義、実験、体育、大学院）別に上位10%のものについて、大学教育センターの学内専用ウェブサイトで公開している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画に基づき、平成28年4月1日に開設した。「広い視野と倫理観を持ち、グローバル社会で活躍できる確かな専門知識と実践的な応用力を持ち、リーダーとして企画・開発をも担える高度専門技術者を育成する」という設置の趣旨・目的に沿った教育・研究体制のもと、現在まで順調に進んでいる。引き続き、当該趣旨・目的に沿った教育・研究活動を計画どおり実施していきたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

平成29年7月公開予定

b 公表方法

「自己点検・評価報告書（年度計画の実施状況）」を作成し、大学ホームページにて公表する。

③ 認証評価を受ける計画

平成33年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成29年 6月 30日)

注3

大学番号：031

[平成28年度設置]

計画の区分：研究科の専攻の設置

注1

事前伺い

電気通信大学大学院 情報理工学研究科
機械知能システム学専攻（博士後期課程）

注2

【事前伺い】 設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 電気通信大学
平成29年5月1日現在

作成担当者	
担当部局（課）名	総務課
職名・氏名	係長 <small>ハンドウ</small> 飯銅 <small>ジュンジ</small> 純二
電話番号	042-443-5050
（夜間）	042-443-5050
F A X	042-443-5010
e-mail	kchosa-k@office.uec.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
 設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。
 例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
 (◇◇学部 (平成◇◇年度より学科名称変更))
 表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
 例)
 ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
 ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
 ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
 ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
 ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科 (通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について (依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

情報理工学研究科

＜機械知能システム学専攻(博士後期課程)＞		ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	10
4. 既設大学等の状況	11
5. 教員組織の状況	13
6. 留意事項等に対する履行状況等	21
7. その他全般的事項	22

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 電気通信大学

(2) 大学名

電気通信大学

(3) 大学の位置

〒182-8585
東京都調布市調布ヶ丘1丁目5番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	フクダ タカシ 福田 喬 (平成26年4月1日)		
研究科長	タノ シュンイチ 田野 俊一 (平成29年4月1日)		
専攻長	クボキ タカシ 久保木 孝 (平成29年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成27年度開設の博士後期課程の場合(平成29年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
情報理工学研究科 機械知能システム学専攻 (博士後期課程) 修士(工学)(理学)(学術)	工学関係 理学関係	3年	12人	36人	基礎となる学部等 情報理工学域

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平均入学定員 超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人	人	12		12				0.95倍	
	()	()	()	()	()	()	()	()		
	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]		
志願者数	6	6	13							
	()	()	()	()	()	()	()	()		
	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]		
受験者数	6	6	12							
	()	()	()	()	()	()	()	()		
	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]		
合格者数	5	6	12							
	()	()	()	()	()	()	()	()		
	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]		
B 入学者数	5	6	12							
	()	()	()	()	()	()	()	()		
	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]	[]		
入学定員超過率 B/A	0.91		1.00							

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

報告年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	5 [1] (-)	6 [1] (-)	12 [4] (-)	6 [1] (-)	[]	[]	
2年次	/		5 [1] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次			/		[] ()	[] ()	[] ()
計	11 [1] (-)				23 [6] (-)		[] ()

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況**について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成28年度 入学者	11 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人		0.00 %
			平成29年度	0 人	0 人		
			平成30年度	人	人		
平成29年度 入学者	12 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
			平成30年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	0 人	平成30年度	人	人		#DIV/0! %
合 計	23 人	0 人					0.00 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- 各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- 「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<情報理工学研究科 機械知能システム学専攻（博士後期課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				備考			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手		
大学院基礎教育科目	技術者と安全・環境・倫理	1・2・3前		2							兼1	専任教員が平成29年度に転出のため、兼任教員1名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29)	
	国際社会の政治・経済	1・2・3前		2		1					兼1		
	日本とアジアの近代史	1・2・3後		2									
	科学技術の歴史	1・2・3後		2			1						
	現代社会と倫理	1・2・3後		2		+							
	環太平洋圏の社会と文化	1・2・3後		2			1				兼15		
	幾何学特論	1・2・3後		2			1						
	解析学特論	1・2・3後 (隔年開講) 1・2・3後		2			1	+					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講に変更(28)
	代数学特論	1・2・3後 (隔年開講) 1・2・3後		2				1					バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講に変更(28)
教育学特論	1・2・3後		2			1							
大学院講	大学院輪講第二	1～3通	4			24 24	10 44		2		大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)		
大学院実践教育科目	ベンチャービジネス特論	1・2・3前		2		1	+				兼4 兼6	兼任教員の負担軽減のため、専任教員1名、兼任教員4名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29) より教育内容に即した担当教員への変更すると共に兼任教員6名を追加(28)	
	知的財産権特論	1・2・3後		2		1					兼7 兼8	兼任教員の負担軽減のため、兼任教員7名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29) 教育内容充実のため、専任教員1名、兼任教員8名で対応(28)	
	先端技術開発特論	1・2・3後		2		1					兼15	教育内容充実のため、専任教員1名、兼任教員15名で対応(28)	
	ETL(Elementary Teaching Laboratory)	1・2・3通		2		2	2						
	経営実践特論	1・2・3前		1					1		兼2	教育内容充実のため、専任助教1名、兼任教員2名で対応(28)	
	IT最前線	1・2・3後		2		1					兼1	教育内容充実のため、専任教員1名、兼任教員1名で対応(28)	
	データサイエンティスト特論	1・2・3後		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)	
	データアントレプレナー実践論	1・2・3後		2		1						教育内容充実のため、科目を追加(29)	
	オープンイノベーションスクールⅢ	1・2・3前		1		2	1					教育内容充実のため、専任准教授1名を追加(28)	
	オープンイノベーションスクールⅣ	1・2・3前		1		2	1					教育内容充実のため、専任教員2名、専任准教授1名で対応(28)	
	オープンイノベーションスクールⅤ	1・2・3前		1		2	1					教育内容充実のため、専任教員2名、専任准教授1名で対応(28)	
	大学院インターンシップ	1・2・3前		2		1							
	大学院インターンシップ(海外)	1・2・3前		2		1							
	大学院インターンシップ(長期)	1・2・3前		4		1							
大学院インターンシップ(海外・長期)	1・2・3前		4		1								
大学院海外語学研修Ⅰ	1・2・3前		1			1					教育内容充実のため、科目を追加(29)		
大学院海外語学研修Ⅱ	1・2・3前		2			1					教育内容充実のため、科目を追加(29)		
	メカトロニクス特論	1・2・3後		2			1					専任准教授の昇任に伴い、教授2名に変更(29)	
	ロボット応用工学特論	1・2・3後		2		2 +	+						
	ロボット機構制御特論	1・2・3後		2			2						
	運動計測学特論	1・2・3後		2				1					
	バーチャルリアリティ特論	1・2・3後		2				1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院専門教育科目	コンピュータビジョン特論	1・2・3後		2		2						専任教員の負担軽減のため、専任教員1名に変更(29) 専任教員の負担軽減のため、専任教員1名に変更。なお、学生の教育に支障はない(29)
	ロボット情報工学特論	1・2・3後		2		2						
	設計システム工学特論	1・2・3後		2		1	1					
	知的生産システム特論	1・2・3後		2		1	+					
	機械情報学特論	1・2・3後		2		1						
	力学系現象特論	1・2・3後		2		1	1					
	計算力学特論	1・2・3後		2		1						
	ナノトライブロギー特論	1・2・3後		2		1						
	センサ信号処理学特論	1・2・3後		2		1	+					
大学院専門教育科目	生体計測工学特論	1・2・3後		2		2	+				専任教員の負担軽減のため、専任教員2名に変更(29) より教育内容に即した担当教員へ変更(28)	
	ロボスタ制御工学特論	1・2・3後		2		1	+					
	組込み制御システム学特論	1・2・3後		2		1	1					
	知覚システム特論	1・2・3前		2			1					
	感覚運動システム特論	1・2・3前		2			1					
	Advanced Robotics and Mechatronics Engineering	1・2・3前		2		1						
	大学院国際協働学術研修	1・2・3前				2	1					
	大学院国際協働学術研修(長期)	1・2・3前				4	1					
専門上級科目	機械知能システム学特論	1・2・3前	2			24	10		2		大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)	

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
 - ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
 - ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
科目 2	科目 42	科目 0	科目 44	科目 2 [0]	科目 47 [5]	科目 2 [2]	科目 51 [7]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	解析学特論	2	1・2後	一般	選択	バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講とし、平成30年度に開講する。
2						
3						

(注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2	該当なし					
3	該当なし					

(注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{1}{44} = = \boxed{2.27} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎敷地と別地 (校舎より2km)		
	校 舎 敷 地	115,433 m ²	0 m ²	0 m ²	115,433 m ²			
	運 動 場 用 地	38,187 m ²	0 m ²	0 m ²	38,187 m ²			
	小 計	153,620 m ²	0 m ²	0 m ²	153,620 m ²			
	そ の 他	34,685 m ²	0 m ²	0 m ²	34,685 m ²			
	合 計	188,305 m ²	0 m ²	0 m ²	188,305 m ²			
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
		90,163 m ² (90,163 m ²)	0 m ² (0m ²)	0 m ² (0m ²)	90,163 m ² (90,163 m ²)			
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		
		0室	5室	73室	2室 (補助職員 人)	0室 (補助職員 人)		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数			
		情報理工学研究科 機械知能システム学専攻 (博士後期課程)			70 室			
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	
	情報理工学研究科 機械知能システム 学専攻 (博士後期課程)	315,018 [109,394] (315,018 [109,394])	8,887 [6,091] (8,887 [6,091])	3,899 [3,889] (3,899 [3,889])	2,896 (2,896)	0 (0)	0 (0)	
	計	315,018 [109,394] (315,018 [109,394])	8,887 [6,091] (8,887 [6,091])	3,899 [3,889] (3,899 [3,889])	2,896 (2,896)	0 (0)	0 (0)	
(6) 図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数			
		7,323m ²		621	368,000			
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				
		3,077 m ²		多摩川運動場(陸上競技場、サッカー・ラグビー場、テニスコート4面、アーチェリー場)、プール、屋外競技場(弓道場、テニスコート7面)				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当たり研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	
		学生納付金以外の維持方法の概要						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	電気通信大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入定 学員	編入学 定員	収定 容員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
情報理工学域									
Ⅰ類（情報系）	4	210	3年次 9	858	学士 （工学）	1.04	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	一般入試（前期日程）では学域全体の大括り入試を採用しており、入学定員超過率は類別の状況を集計することができないため、Ⅰ類、Ⅱ類、Ⅲ類をまとめ上げた状況を記載している。
Ⅱ類（融合系）	4	245	3年次 10	1000	学士 （工学）	1.04	平成28年度	同上	
Ⅲ類（理工系）	4	235	3年次 10	960	学士 （工学）	1.04	平成28年度	同上	
先端工学基礎課程 （夜間主）	4	30	3年次 3	126	学士 （工学）	1.00	平成28年度	同上	
情報理工学部									
総合情報学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先端工学基礎課程 （夜間主）	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報理工学研究科 （博士前期課程）									
情報学専攻	2	110	-	220	修士 （工学）（理学） （学術）	1.19	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	
情報・ネットワーク 工学専攻	2	150	-	300	修士 （工学）（理学） （学術）	1.13	平成28年度	同上	
機械知能システム 学専攻	2	105	-	210	修士 （工学）（理学） （学術）	1.02	平成28年度	同上	
基盤理工学専攻	2	135	-	270	修士 （工学）（理学） （学術）	0.94	平成28年度	同上	
総合情報学専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学 専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止

情報理工学研究科 (博士後期課程)										
情報学専攻	3	13	-	39	博士 (工学)(理学) (学術)	1.23	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号		
情報・ネットワーク 工学専攻	3	18	-	54	博士 (工学)(理学) (学術)	0.66	平成28年度	同上		
機械知能システム 学専攻	3	12	-	36	博士 (工学)(理学) (学術)	0.95	平成28年度	同上		
基盤理工学専攻	3	16	-	48	博士 (工学)(理学) (学術)	0.71	平成28年度	同上		
総合情報学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上		平成28年学生募集 停止
情報・通信工学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上		平成28年学生募集 停止
知能機械工学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上		平成28年学生募集 停止
先進理工学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上		平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士前期課程)										
情報メディアシステム学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号		平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上		平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上		平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上		平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士後期課程)										
情報メディアシステム学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号		平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上		平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上		平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上		平成28年学生募集 停止

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<情報理工学研究科 機械知能システム学専攻（博士後期課程）>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	青山 尚之 (58)	平成29年4月	大学院インターンシップ 大学院インターンシップ(海外) 大学院インターンシップ(長期) 大学院インターンシップ(海外・長期) ロボット応用工学特論 Advanced Robotics and Mechatronics Engineering 大学院国際協働工学術研修 大学院輪講第二 機械知能システム学特論 大学院国際協働工学術研修(長期)						
専	教授	内田 雅文 (52)	平成29年4月	ロボット応用工学特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	教授	田中 一男 (54)	平成29年4月	ロボット機構制御特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	教授	横井 浩史 (53)	平成29年4月	ロボット機構制御特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	教授	金子 正秀 (63)	平成29年4月	コンピュータビジョン特論 ロボット情報工学特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	教授	長井 隆行 (47)	平成29年4月	コンピュータビジョン特論 ロボット情報工学特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	教授	増田 宏 (55)	平成29年4月	設計システム工学特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	教授	森重 功一 (47)	平成29年4月	知的生産システム特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	教授	宮崎 武 (61)	平成29年4月	力学系現象特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	教授	新谷 一人 (64)	平成29年4月	計算力学特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	教授	桐本 哲郎 (63)	平成29年4月	センサ信号処理学特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	教授	小池 卓二 (50)	平成29年4月	生体計測工学特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	教授	正本 和人 (42)	平成29年4月	生体計測工学特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	教授	金子 修 (47)	平成29年4月	ロボスタ制御工学特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	教授	新 誠一 (62)	平成29年4月	組み込み制御システム学特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	教授	阪口 豊 (53)	平成29年4月	感覚運動システム特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論						

専	教授	稲葉 敬之 (60)	平成29年4月	大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	教授	大川 富雄 (51)	平成29年4月	大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	教授	久保木 孝 (52)	平成29年4月	大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	教授	前川 博 (64)	平成29年4月	大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	教授	宮脇 陽一 (43)	平成29年4月	大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	教授	明 愛国 (54)	平成29年4月	大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	教授	高田 昌之 (58)	平成29年4月	機械情報学特論						
専	教授	岡田 英孝 (48)	平成29年4月	大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	教授	田中 繁 (59)	平成29年4月	大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	准教授	金森 哉吏 (52)	平成29年4月	メカトロニクス特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	准教授	杉 正夫 (42)	平成29年4月	バーチャルリアリティ特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	准教授	結城 宏信 (50)	平成29年4月	設計システム工学特論						
専	准教授	Matuttis Hans-Georg (50)	平成29年4月	力学系現象特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	准教授	佐藤 俊治 (44)	平成29年4月	知覚システム特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	准教授	田中 基康 (34)	平成29年4月	大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	准教授	千葉 一永 (40)	平成29年4月	大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	准教授	松村 隆 (53)	平成29年4月	大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	准教授	安藤 創一 (42)	平成29年4月	運動計測学特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	准教授	澤田 賢治 (35)	平成29年4月	組み込み制御システム学特論 大学院輪講第二 機械知能システム学特論						

専	准教授	姜 銀来 (37)	平成29年4月	大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	助教	秋田 学 (36)	平成29年4月	大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
専	助教	船戸 徹郎 (37)	平成29年4月	大学院輪講第二 機械知能システム学特論						
兼担	教授	梶浦 篤 (56)	平成29年4月	国際社会の政治・経済						
兼担	教授	阿部 浩二 (60)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼担	教授	山田 裕一 (48)	平成29年4月	幾何学特論						
兼担	教授	久藤 衡介 (44)	平成29年4月	解析学特論						
兼担	教授	佐々木 啓子 (62)	平成29年4月	教育学特論						
兼担	教授	安部 博文 (63)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼担	教授	本間 高弘 (52)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼担	教授	渡邊 昌良 (61)	平成29年4月	先端技術開発特論						
兼担	教授	米田 仁紀 (56)	平成29年4月	ETL (Elementary Teaching Laboratory) オープンイノベーションスクールB オープンイノベーションスクールB オープンイノベーションスクールY						
兼担	教授	鈴木 勝 (57)	平成29年4月	ETL (Elementary Teaching Laboratory)						
兼担	教授	田野 俊一 (58)	平成29年4月	I T 最前線						
兼担	教授	田村 元紀 (61)	平成29年4月	データサイエンティスト特論 データアントレプレナー実践論						
兼担	教授	桂川 真幸 (54)	平成29年4月	オープンイノベーションスクールB オープンイノベーションスクールB オープンイノベーションスクールY						
兼担	教授	佐々木 成朗 (49)	平成29年4月	ナノ トライボロジー特論						
兼担	准教授	佐藤 賢一 (49)	平成29年4月	科学技術の歴史						
兼担	准教授	榎本 直也 (36)	平成29年4月	代数学特論						
兼担	准教授	島田 宏 (55)	平成29年4月	ETL (Elementary Teaching Laboratory)						
兼担	准教授	宮本 洋子 (50)	平成29年4月	ETL (Elementary Teaching Laboratory)						
兼担	准教授	古川 裕介 (41)	平成29年4月	オープンイノベーションスクールB オープンイノベーションスクールB オープンイノベーションスクールY						

兼任	准教授	CHOO Cheow Keong (48)	平成29年4月	大学院海外語学研修 I 大学院海外語学研修 II						
兼任	助教	牧 昌次郎 (50)	平成29年4月	経営実践特論						
兼任	講師	高野倉 雅人 (43)	平成29年4月	技術者と安全・環境・倫理						
兼任	講師	木元 麻里 (44)	平成29年4月	現代社会と倫理						
兼任	講師	澤田 ゆかり (56)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	丹羽 泉 (60)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	長谷部 美佳 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	John Porter (36)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	野平 宗弘 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	左右田 直規 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	倉田 明子 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	田島 陽一 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	岡田 知子 (51)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	降幡 正志 (50)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	小川 英文 (61)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	宮田 敏之 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	山内 由理子 (44)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	李 孝徳 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	佐々木 孝弘 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	講師	赤羽 雄二 (62)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	講師	村井 雄司 (52)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	講師	安藤 晴彦 (55)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	講師	村口 和孝 (58)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						

兼任	講師	尾原 和貴 (46)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	木村 友久 (61)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	加藤 浩一郎 (51)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	岡村 信一 (58)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	劉 昕 (50)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	香島 拓也 (49)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	講師	戸田 恒夫 (65)	平成29年4月	知的財産権特論						

- (注) ・ 設置時の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」,「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**,当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し,大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」,変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
- なお,設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は,「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由,変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
8 名	6 名	3 名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)
18	15	0	1	34	25	11	0	2	38	25	11	0	2	38
(25)	(11)	(0)	(2)	(38)						[7]	[Δ4]	[0]	[1]	[4]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数				
28	6	0		36	2	0		36	2	0				
(36)	(2)	(0)								[8]	[Δ4]	[0]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記（A））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（B））の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1	教授	◎◎ ◎◎	必修	○○概論	①	……………のため就任辞退（27）	
			選択	◆◆基礎	②		
			必修	☆☆演習	③		
2	准教授	△△	該当なし			……………のため就任辞退（29）	
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
○○	人	必修	○○	科目	必修	○○	科目
		選択	○○	科目	選択	○○	科目
		自由	○○	科目	自由	○○	科目
		計	○○	科目	計	○○	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1	教授	◎◎ ◎◎	必修	○○概論	①	……………のため辞任（27）	
			選択	◆◆基礎	②		
			必修	☆☆演習	③		
2	准教授	△△	該当なし			……………のため辞任（29）	
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
○○	人	必修	○○	科目	必修	○○	科目
		選択	○○	科目	選択	○○	科目
		自由	○○	科目	自由	○○	科目
		計	○○	科目	計	○○	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (A) + (C)		後任補充状況の集計 (B) + (D)				
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)		
○○	該当なし			○○	必修	○○
	該当なし			○○	選択	○○
	該当なし			○○	自由	○○
	計			○○	科目	計
計	○○	科目	計	○○	科目	

- (注) ・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (〇〇年〇〇月)		〇〇意見	
設置計画 調 査 (△△年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年2月)		改善意見	
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年2月)	・同一設置者が設置する既設学部等(〇〇学科、●●学科)の～すること。	〇〇意見	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

7 その他全般的事項

<情報理工学研究科 機械知能システム学専攻（博士後期課程）>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
記入例) ① 修了要件単位 1 2 4 単位 ② 施設・設備 a 講義室〇室 b 自習室〇室(〇m) c 図書〇〇冊	科目(1科 象表)参照) 室, 自習室を , 図書も〇〇冊 増書した。

該当なし

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
 ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 大学教育センター教育推進部門が中心となり、教育の質の改善・向上に向けた取組を実施している。</p> <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む) 教育推進部門会議(平成28年度) 第42回(6月13日:参加者8名) 第43回(9月28日:参加者9名) 第44回(11月21日:参加者5名) 第45回(1月30日:参加者7名) 第46回(3月2日:参加者9名)</p> <p>c 委員会の審議事項等 (1) ファカルティ・ディベロップメントの実施に関する事 (2) 学生授業評価の実施に関する事 (3) シラバス及び成績評価に関する事 (4) 教育環境の整備に関する事 (5) その他、教育に関わる調査の実施に関する事</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容 ・第1回TA講習会(4月6日) ・FD数学、物理、情報、基礎学力検討会(4月13日) ・学院院新任教育系職員研修会(4月21日) ・第1回ハラスメント防止研修(7月5日) ・実験実習研究会(8月30日) ・第2回TA講習会(9月23日) ・教育研究技師部職員研修(9月26日) ・英語FDワークショップ(10月11日) ・第1回大学の教育力向上FD講演会「学生による授業評価アンケート、卒業生調査の活用を中心として」(11月29日) ・第2回ハラスメント防止研修(12月16日) ・第2回大学の教育力向上FD講演会「今、なぜアクティブラーニングか」(12月19日) ・公開授業:ソフトウェア工学(12月22日) ・第3回大学の教育力向上FD講演会「欧州大学の苦悩と挑戦-大学としての共通性と多様性をどう両立させるか-」(2月24日)</p> <p>b 実施方法 大学教育センター教育推進部門を中心として、全学的なファカルティ・ディベロップメント講演会、公開授業の参観、授業評価アンケートに関するワークショップ等に取り組んでいる。</p>

c 開催状況（教員の参加状況含む）

4月6日：参加者287名【学生274名、教員13名】
4月13日：参加者39名
4月21日：参加者23名
7月5日：参加者111名
8月30日：参加者37名
9月23日：参加者68名【学生56名、教員12名】
9月26日：参加者19名
10月11日：参加者20名
11月29日：参加者63名
12月16日：参加者60名
12月19日：参加者57名
12月22日：参加者15名
2月24日：参加者39名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教育改善調査の実施及び各種研修プログラムの提供について、第3期中期目標・中期計画を踏まえた道筋の検討を進めた。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前学期及び後学期終了時に実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果を教員にフィードバックすることにより、自主的な授業の改善を促しているほか、他の教員の参考となるように、アンケートの総合評価が高かった科目の中で、科目区分（講義、実験、体育、大学院）別に上位10%のものについて、大学教育センターの学内専用ウェブサイトで公開している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画に基づき、平成28年4月1日に開設した。「広い視野と倫理観を持ち、グローバル社会で活躍できる確かな専門知識と実践的な応用力を持ち、リーダーとして企画・開発をも担える高度専門技術者を育成する」という設置の趣旨・目的に沿った教育・研究体制のもと、現在まで順調に進んでいる。引き続き、当該趣旨・目的に沿った教育・研究活動を計画どおり実施していきたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

平成29年7月公開予定

b 公表方法

「自己点検・評価報告書（年度計画の実施状況）」を作成し、大学ホームページにて公表する。

③ 認証評価を受ける計画

平成33年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成29年 6月 30日)

注3

大学番号：031

[平成28年度設置]

計画の区分：研究科の専攻の設置

注1

事前伺い

電気通信大学大学院 情報理工学研究科
基盤理工学専攻（博士後期課程）

注2

【事前伺い】設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 電気通信大学
平成29年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 総務課

職名・氏名 係長 ハンドウ ジュンジ
飯銅 純二

電話番号 042-443-5050

（夜間） 042-443-5050

F A X 042-443-5010

e-mail kchosa-k@office.uec.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には設置時の旧名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(◇◇学部(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成29年3月31日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

情報理工学研究科

<基盤理工学専攻(博士後期課程)>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	10
4. 既設大学等の状況	11
5. 教員組織の状況	13
6. 留意事項等に対する履行状況等	22
7. その他全般的事項	23

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 電気通信大学

(2) 大学名

電気通信大学

(3) 大学の位置

〒182-8585

東京都調布市調布ヶ丘1丁目5番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
学長	フクダ タカシ 福田 喬 (平成26年4月1日)		
研究科長	タノ シュンイチ 田野 俊一 (平成29年4月1日)		
専攻長	ニシオカ ハジメ 西岡 一 (平成29年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成27年度に報告済の内容 → (27)

平成29年度に報告する内容 → (29)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部/学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ 様式は, 平成27年度開設の博士後期課程の場合(平成29年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称等

調査対象研究科等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画			備考
		修業年限	入学定員	収容定員	
情報理工学研究科 基盤理工学専攻 (博士後期課程) 修士(工学)(理学)(学術)	工学関係 理学関係	3年	16人	48人	基礎となる学部等 情報理工学域

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	人	人	16	()	16	()	()	()	0.71倍	
	()	()	()	()	()	()	()	()		
志願者数	12	2	12	()	()	()	()	()		
	()	()	()	()	()	()	()	()		
受験者数	12	2	12	()	()	()	()	()		
	()	()	()	()	()	()	()	()		
合格者数	12	2	12	()	()	()	()	()		
	()	()	()	()	()	()	()	()		
B 入学者数	10	2	11	()	()	()	()	()		
	()	()	()	()	()	()	()	()		
入学定員超過率 B/A	0.75		0.68							

- (注) ・ 数字は, 平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・ ()内には, 社会人の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。
 ・ []内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

報告年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	10 [1] (-)	2 [1] (-)	11 [1] (-)	2 [1] (-)	[]	[]	
2年次	/		10 [1] (-)	[] ()	[] ()	[] ()	
3年次	/				[] ()	[] ()	
計	12 [1] (-)		23 [3] (-)		[] ()		

- (注) ・ 数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、**留年者の状況**について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成28年度 入学者	12 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人		0.00 %
			平成29年度	0 人	0 人		
			平成30年度	人	人		
平成29年度 入学者	11 人	0 人	平成29年度	0 人	0 人		0.00 %
			平成30年度	人	人		
平成30年度 入学者	人	0 人	平成30年度	人	人		#DIV/0! %
合 計	23 人	0 人					0.00 %

(注)・数字は、平成29年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成29年5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

2 授業科目の概要

<情報理工学研究科 基盤理工学専攻（博士後期課程）>

(1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院基礎教育科目	技術者と安全・環境・倫理	1・2・3前		2								兼1	
	国際社会の政治・経済	1・2・3前		2		1						兼1	
	日本とアジアの近代史	1・2・3後		2								兼1	
	科学技術の歴史	1・2・3後		2			1					兼1	
	現代社会と倫理	1・2・3後		2		4						兼1	
	環太平洋圏の社会と文化	1・2・3後		2		1						兼15	
	幾何学特論	1・2・3後		2		1							
	解析学特論	1・2・3後 (隔年開講) 1・2・3後		2		1	4						バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講に変更(28)
	代数学特論	1・2・3後 (隔年開講) 1・2・3後		2			1						バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講に変更(28)
教育学特論	1・2・3後		2		1								
大学院講	大学院輪講第二	1~3通	4			31 30 34	29 30 28			3 5		大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)	
大学院実践教育科目	大学院産学連携科目	ベンチャービジネス特論	1・2・3前	2		1	4						兼任教員の負担軽減のため、専任教授1名、兼任教員4名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29)
		知的財産権特論	1・2・3後	2		1							兼任教員の負担軽減のため、兼任教員7名で対応。なお、学生の教育に支障はない(29)
		先端技術開発特論	1・2・3後	2		1							教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員8名で対応(28)
		ETL(Elementary Teaching Laboratory)	1・2・3通	2		2	2						教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員15名で対応(28)
		経営実践特論	1・2・3前	1						1			教育内容充実のため、専任助教1名、兼任教員2名で対応(28)
		IT最前線	1・2・3後	2		1							教育内容充実のため、専任教授1名、兼任教員1名で対応(28)
		データサイエンティスト特論	1・2・3後	2		1							教育内容充実のため、科目を追加(29)
		データアントレプレナー実践論	1・2・3後	2		1							教育内容充実のため、科目を追加(29)
		オープンイノベーションスクールⅢ	1・2・3前	1		2	1						教育内容充実のため、専任准教授1名を追加(28)
		オープンイノベーションスクールⅣ	1・2・3前	1		2	1						教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)
		オープンイノベーションスクールⅤ	1・2・3前	1		2	1						教育内容充実のため、専任教授2名、専任准教授1名で対応(28)
		大学院インターンシップ	1・2・3前	2		4	2						専任教授の負担軽減のため、専任准教授2名で対応(28)
		大学院インターンシップ(海外)	1・2・3前	2		4	2						専任教授の負担軽減のため、専任准教授2名で対応(28)
		大学院インターンシップ(長期)	1・2・3前	4		4	2						専任教授の負担軽減のため、専任准教授2名で対応(28)
		大学院インターンシップ(海外・長期)	1・2・3前	4		4	2						専任教授の負担軽減のため、専任准教授2名で対応(28)
大学院海外語学研修Ⅰ	1・2・3前	1			1						教育内容充実のため、科目を追加(29)		
大学院海外語学研修Ⅱ	1・2・3前	2			1						教育内容充実のため、科目を追加(29)		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院専門教育科目	専門科目Ⅱ	環境材料科学特論	1・2・3前	2		1						専任教員の負担軽減のため、開講学期の変更(29)
		ナノフォトニクス特論	1・2・3前	2			2					
		光通信システム特論	1・2・3後	2		1						
		ナノエレクトロニクス特論	1・2・3前	2		1						
		超伝導デバイス特論	1・2・3後	2		1						
		計算物理学特論	1・2・3後	2		1	1	2				
		集積回路設計学特論	1・2・3後	2		1	1	1				
		光通信デバイス特論	1・2・3後	2		1						
		固体・ソフトマターフォトニクス特論	1・2・3前	2		1						
		光計測特論	1・2・3前	2		1						
		情報光工学特論	1・2・3後	2			1					
		生体計測工学特論	1・2・3後	2		2	1					
		物理学特論	1・2・3前	2								
		固体照明工学特論	1・2・3後	2		1	1					
		量子情報光学特論	1・2・3後	2			2					
		低温量子物性工学特論	1・2・3前	2		1						
		固体量子工学特論	1・2・3後 1・2・3前	2			1					
ナノトライボロジー特論	1・2・3後	2		1								
統計物理学特論	1・2・3後	2		1								
現代レーザー分光光学特論	1・2・3前	2		1	1							
原子光工学特論	1・2・3前	2		1	1							
大学院専門教育科目	専門科目Ⅱ	凝縮体量子工学特論	1・2・3後	2		1	1				兼2 兼1 教育内容充実のため、兼任教員2名で対応(28)	
		電子物性特論	1・2・3後	2			1					
		X線結晶学特論	1・2・3後	2			1					
		固体物性化学特論	1・2・3後	2		1						
		化学反応特論	1・2・3前	2			1					
		生体情報システム学特論	1・2・3前	2		1						
		化学生命工学特論	1・2・3前	2								
		無機物質化学特論	1・2・3後	2		1						
		物理化学特論	1・2・3後	2			1					
		ゲノム生物学特論	1・2・3後	2			1					
大学院専門教育科目	専門上級科目	基盤理工学特論	1・2・3前	2		31 30 31	29 30 28		3 4		大学院担当資格取得等のための変更(29) 大学院担当資格取得等のための変更(28)	

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成28年度に認可(届出)された大学等は設置認可(届出)時より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。
- なお、昨年度の報告書において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
- ・ 兼任、兼担の教員が担当する授業科目については、備考欄に担当する教員数を「兼〇」と記入してください。
- ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査予定年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)
- ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等(平成19年度認可以前)についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え消し修正をしてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
科目 2	科目 54	科目 0	科目 56	科目 2 [0]	科目 58 [4]	科目 0 [0]	科目 60 [4]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	解析学特論	2	1・2後	一般	選択	バランスのとれた学習機会を提供するため、隔年開講とし、平成30年度に開講する。
2						
3						

(注) ・ 設置時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については、記入しないでください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						
2	該当なし					
3						

(注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
 ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{1}{56} = \boxed{1.78\%}$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点第2位までを記入してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎敷地と別地 (校舎より2km)		
	校 舎 敷 地	115,433 m ²	0 m ²	0 m ²	115,433 m ²			
	運 動 場 用 地	38,187 m ²	0 m ²	0 m ²	38,187 m ²			
	小 計	153,620 m ²	0 m ²	0 m ²	153,620 m ²			
	そ の 他	34,685 m ²	0 m ²	0 m ²	34,685 m ²			
	合 計	188,305 m ²	0 m ²	0 m ²	188,305 m ²			
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
		90,163 m ² (90,163 m ²)	0 m ² (0m ²)	0 m ² (0m ²)	90,163 m ² (90,163 m ²)			
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		
		0室	9室	85室	0室 (補助職員 人)	0室 (補助職員 人)		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数			
		情報理工学研究科 基盤理工学専攻 (博士後期課程)			80 室			
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点	
		[うち外国書]	[うち外国書]	電子ジャーナル				
		冊	種	[うち外国書]				
		情報理工学研究科 基盤理工学専攻 (博士後期課程)	315,018 [109,394] (315,018 [109,394])	8,887 [6,091] (8,887 [6,091])				3,899 [3,889] (3,899 [3,889])
計	315,018 [109,394] (315,018 [109,394])	8,887 [6,091] (8,887 [6,091])	3,899 [3,889] (3,899 [3,889])	2,896 (2,896)	0 (0)	0 (0)		
(6) 図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数			
		7,323m ²		621	368,000			
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				
		3,077 m ²		多摩川運動場(陸上競技場、サッカー・ラグビー場、テニスコート4面、アーチェリー場)、プール、屋外競技場(弓道場、テニスコート7面)				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円
	共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	
学生納付金以外の維持方法の概要								

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成29年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(29)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大学の名称	電気通信大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入定 学員	編入学 定員	収定 容員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
情報理工学域									
Ⅰ類（情報系）	4	210	3年次 9	858	学士 （工学）	1.04	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	一般入試（前期日程）では学域全体の 大括り入試を採用しており、入学 定員超過率は類別 の状況を集計する ことができないた め、Ⅰ類、Ⅱ類、 Ⅲ類をまとめ上げ た状況を記載して いる。
Ⅱ類（融合系）	4	245	3年次 10	1000	学士 （工学）	1.04	平成28年度	同上	
Ⅲ類（理工系）	4	235	3年次 10	960	学士 （工学）	1.04	平成28年度	同上	
先端工学基礎課程 （夜間主）	4	30	3年次 3	126	学士 （工学）	1.00	平成28年度	同上	
情報理工学部									
総合情報学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学科	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先端工学基礎課程 （夜間主）	4	-	-	-	学士 （工学）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報理工学研究科 （博士前期課程）									
情報学専攻	2	110	-	220	修士 （工学）（理学） （学術）	1.19	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	
情報・ネットワーク 工学専攻	2	150	-	300	修士 （工学）（理学） （学術）	1.13	平成28年度	同上	
機械知能システム 学専攻	2	105	-	210	修士 （工学）（理学） （学術）	1.02	平成28年度	同上	
基盤理工学専攻	2	135	-	270	修士 （工学）（理学） （学術）	0.94	平成28年度	同上	
総合情報学専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学 専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学専攻	2	-	-	-	修士 （工学）（理学） （学術）	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止

情報理工学研究科 (博士後期課程)									
情報学専攻	3	13	-	39	博士 (工学)(理学) (学術)	1.23	平成28年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	
情報・ネットワーク 工学専攻	3	18	-	54	博士 (工学)(理学) (学術)	0.66	平成28年度	同上	
機械知能システム 学専攻	3	12	-	36	博士 (工学)(理学) (学術)	0.95	平成28年度	同上	
基盤理工学専攻	3	16	-	48	博士 (工学)(理学) (学術)	0.71	平成28年度	同上	
総合情報学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報・通信工学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
知能機械工学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
先進理工学専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(理学) (学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士前期課程)									
情報メディアシステム学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	2	-	-	-	修士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム学研究科 (博士後期課程)									
情報メディアシステム学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	東京都調布市調布ヶ丘1 丁目5番地1号	平成28年学生募集 停止
社会知能情報専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報ネットワークシステム学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止
情報システム基盤学 専攻	3	-	-	-	博士 (工学)(学術)	-	平成22年度	同上	平成28年学生募集 停止

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部, 学科), 大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について, それぞれの学校種ごとに, 平成29年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等, 「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
※「入学定員を定めている組織ごと」には, 課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ※なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」, 短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
 - ・専攻科に係るものについては, 記入する必要はありません。
 - ・AC対象学部等についても必ず記入してください。
 - ・「平均入学定員超過率」には, 標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
 - ・学生募集を停止している学部等がある場合, 入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし, 「備考」に「平成〇〇年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<情報理工学研究科 基盤理工学専攻（博士後期課程）>

(1) 担当教員表

設置時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	阿部 浩二 (60)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
専	教授	渡邊 昌良 (61)	平成29年4月	先端技術開発特論						
専	教授	桂川 真幸 (54)	平成29年4月	オープンイノベーションスクールB オープンイノベーションスクールC オープンイノベーションスクールD 原子光工学特論						
専	教授	中村 淳 (48)	平成29年4月	ナノエレクトロニクス特論						
専	教授	水柿 義直 (49)	平成29年4月	超伝導デバイス特論						
専	教授	上野 芳康 (55)	平成29年4月	光通信デバイス特論						
専	教授	富田 康生 (61)	平成29年4月	固体・ソフトウェアフォトリソグラフィ						
専	教授	西岡 一 (56)	平成29年4月	光計測特論						
専	教授	尾関 之康 (55)	平成29年4月	統計物理工学特論						
専	教授	斎藤 弘樹 (45)	平成29年4月	凝縮体量子工学特論						
専	教授	石田 尚行 (53)	平成29年4月	固体物性化学特論						
専	教授	榎森 与志喜 (60)	平成29年4月	生体情報システム学特論						
専	教授	一色 秀夫 (55)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論						
専	教授	奥野 剛史 (50)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論						
専	教授	SANDHU Adarsh (57)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論						
専	教授	沈 青 (50)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論						
専	教授	平野 誉 (53)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論						
専	教授	美濃島 薫 (52)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論						
専	教授	柳澤 正久 (64)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論						

専	教授	山口 浩一 (56)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論						
専	教授	渡邊 信一 (62)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論						
専	教授	米田 仁紀 (56)	平成29年4月	ET (Elementary Teaching Laboratory) オープンイノベーションスクールB オープンイノベーションスクールB オープンイノベーションスクールY 大学院輪講第二 基盤理工学特論						
専	教授	鈴木 勝 (57)	平成29年4月	ET (Elementary Teaching Laboratory) 低温量子物性工学特論 大学院輪講第二 基盤理工学特論						
専	教授	佐々木 成朗 (49)	平成29年4月	ナノトライボロジー特論 大学院輪講第二 基盤理工学特論						
専	教授	中川 賢一 (55)	平成29年4月	現代レーザー分光学特論 大学院輪講第二 基盤理工学特論						
専	教授	加固 昌寛 (54)	平成29年4月	無機物質化学特論 大学院輪講第二 基盤理工学特論						
専	教授	森下 亨 (50)	平成29年4月	計算物理学特論 大学院輪講第二 基盤理工学特論						
専	教授	狩野 豊 (47)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論						
専	教授	小林 義男 (57)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論						
専	教授	岩澤 康裕 (71)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論						
専	教授	白田 耕藏 (70)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論						
専	教授	田村 元紀 (61)	平成29年4月	データサイエンティスト特論 データアントレプレナー実践論						
専	准教授	島田 宏 (55)	平成29年4月	ET (Elementary Teaching Laboratory)						
専	准教授	宮本 洋子 (50)	平成29年4月	ET (Elementary Teaching Laboratory) 量子情報光学特論						
専	准教授	古川 裕介 (41)	平成29年4月	オープンイノベーションスクールB オープンイノベーションスクールB オープンイノベーションスクールY						
専	准教授	志賀 智一 (45)	平成29年4月	大学院インターンシップ 大学院インターンシップ (海外) 大学院インターンシップ (長期) 大学院インターンシップ (海外・長期)						
専	准教授	松林 和幸 (38)	平成29年4月	大学院インターンシップ (海外) 大学院インターンシップ (長期) 大学院インターンシップ (海外・長期)						
専	准教授	岡田 佳子 (59)	平成29年4月	ナノフォトニクス特論						
専	准教授	庄司 暁 (42)	平成29年4月	ナノフォトニクス特論						
専	准教授	大淵 泰司 (57)	平成29年4月	計算物理学特論						
専	准教授	清水 亮介 (43)	平成29年4月	量子情報光学特論						

専	准教授	岸本 哲夫 (45)	平成29年4月	凝縮体量子工学特論							
専	准教授	安井 正憲 (56)	平成29年4月	X線結晶学特論							
専	准教授	三瓶 巖一 (56)	平成29年4月	ゲノム生物学特論							
専	准教授	酒井 剛 (41)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論							
専	准教授	張 贊 (44)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論							
専	准教授	白川 英樹 (51)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論							
専	准教授	瀧 真清 (44)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論							
専	准教授	松田 信爾 (46)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論							
専	准教授	村中 隆弘 (43)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論							
専	准教授	渡邊 恵理子 (39)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論							
専	准教授	武者 満 (53)	平成29年4月	情報光工学特論 大学院輪講第二 基盤理工学特論							
専	准教授	伏屋 雄紀 (40)	平成29年4月	固体量子工学特論 大学院輪講第二 基盤理工学特論							
専	准教授	森永 実 (51)	平成29年4月	現代レーザー分光学特論 大学院輪講第二 基盤理工学特論							
専	准教授	中村 信行 (48)	平成29年4月	原子光工学特論 大学院輪講第二 基盤理工学特論							
専	准教授	中村 仁 (49)	平成29年4月	電子物性特論 大学院輪講第二 基盤理工学特論							
専	准教授	曾越 宣仁 (45)	平成29年4月	化学反応特論 大学院輪講第二 基盤理工学特論							
専	准教授	山北 佳宏 (49)	平成29年4月	物理化学特論 大学院輪講第二 基盤理工学特論							
専	准教授	桑原 大介 (53)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論							
専	准教授	小久保 伸人 (46)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論							
専	准教授	白川 晃 (46)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論							
専	准教授	曾我部 東馬 (42)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論							
専	助教	牧 昌次郎 (50)	平成29年4月	経営実践特論							
専	助教	Vohra Varun (33)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論							

専	助教	戸倉川 正樹 (36)	平成29年4月	大学院輪講第二 基盤理工学特論						
兼担	教授	田中 勝己 (64)	平成29年4月	環境材料学特論						
兼担	教授	來住 直人 (57)	平成29年4月	光通信システム特論						
兼担	教授	梶浦 篤 (56)	平成29年4月	国際社会の政治・経済						
兼担	教授	山田 裕一 (48)	平成29年4月	幾何学特論						
兼担	教授	久藤 衡介 (44)	平成29年4月	解析学特論						
兼担	教授	佐々木 啓子 (62)	平成29年4月	教育学特論						
兼担	教授	安部 博文 (63)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼担	教授	本間 高弘 (52)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼担	教授	田野 俊一 (58)	平成29年4月	I T最前線						
兼担	教授	範 公可 (52)	平成29年4月	集積回路設計学特論						
兼担	教授	小池 卓二 (50)	平成29年4月	生体計測工学特論						
兼担	教授	正本 和人 (42)	平成29年4月	生体計測工学特論						
兼担	教授	内田 和男 (57)	平成29年4月	固体照明工学特論						
兼担	准教授	佐藤 賢一 (49)	平成29年4月	科学技術の歴史						
兼担	准教授	榎本 直也 (36)	平成29年4月	代数学特論						
兼担	准教授	CHOO Cheow Keong (48)	平成29年4月	大学院海外語学研修Ⅰ 大学院海外語学研修Ⅱ						
兼任		高野倉 雅人 (43)	平成29年4月	技術者と安全・環境・倫理						
兼任		木元 麻里 (44)	平成29年4月	現代社会と倫理						
兼任		澤田 ゆかり (56)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任		丹羽 泉 (60)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任		長谷部 美佳 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任		John Porter (36)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						

兼任	野平 宗弘 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	左右田 直規 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	倉田 明子 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	田島 陽一 (47)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	岡田 知子 (51)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	降幡 正志 (50)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	小川 英文 (61)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	宮田 敏之 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	山内 由理子 (44)	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	李 孝徳 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	佐々木 孝弘 ()	平成29年4月	環太平洋圏の社会と文化						
兼任	赤羽 雄二 (62)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	村井 雄司 (52)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	安藤 晴彦 (55)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	村口 和孝 (58)	平成29年4月	ベンチャービジネス特論						
兼任	尾原 和貴 (46)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	木村 友久 (61)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	加藤 浩一郎 (51)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	岡村 信一 (58)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	劉 昕 (50)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	香島 拓也 (49)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	戸田 恒夫 (65)	平成29年4月	知的財産権特論						
兼任	Vladimir Krivobok (37)	平成29年4月	物理工学特論						

兼任	星野 学 (36)	平成29年4月	化学生命工学特論						
兼任	加治 大哉 (42)	平成29年4月	化学生命工学特論						

- (注)
- ・ 設置時の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
 - ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
 - ・ 年齢は、「設置時の計画」には当該学部等の就任時における満年齢を、「変更状況」には平成29年5月1日現在の満年齢を記入してください。
 - ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」,「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任者が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**, 当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し, 大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」, 変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
 なお, 設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は, 「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由, 変更年度()書き等のみを記入してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要研究指導教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数	完成年度時における設置基準上の必要研究指導補助教員数
10 名	7 名	3 名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計	教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)
26	29	0	6	61	32	30	0	3	65	32	30	0	3	65
(32)	(30)	(0)	(3)	(65)						[6]	[1]	[0]	[Δ3]	[4]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数				
57	4	0		63	1	1		63	1	1				
(63)	(1)	(1)							[6]	[Δ3]	[1]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、報告書提出年度の5月1日現在、完成年度時に計画している教員数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告書提出時（上記（A））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（B））の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	2 名	2 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成29年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由	
1	教授	◎◎ ◎◎	必修	○○概論	①	……………のため就任辞退 (27)	
			選択	◆◆基礎	②		
			必修	☆☆演習	③		
2	准教授	△△	該当なし			……………のため就任辞退 (29)	
就任を辞退した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
○○	人	必修	○○	科目	必修	○○	科目
		選択	○○	科目	選択	○○	科目
		自由	○○	科目	自由	○○	科目
		計	○○	科目	計	○○	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1	教授	◎◎ ◎◎	必修	○○概論	①	……………のため辞任 (27)	
			選択	◆◆基礎	②		
			必修	☆☆演習	③		
2	准教授	△△	該当なし			……………のため辞任 (29)	
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
○○	人	必修	○○	科目	必修	○○	科目
		選択	○○	科目	選択	○○	科目
		自由	○○	科目	自由	○○	科目
		計	○○	科目	計	○○	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、辞任した全ての専任教員の辞任の理由を具体的に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (A) + (C)		後任補充状況の集計 (B) + (D)			
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
○○	該当なし				○○ 科目
	該当なし				必修 ○○ 科目
	該当なし				選択 ○○ 科目
	該当なし				自由 ○○ 科目
	計 ○○ 科目	計 ○○ 科目	計 ○○ 科目	計 ○○ 科目	計 ○○ 科目

- (注) ・ 就任辞退（未就任）及び辞任した全専任教員について、教員数、担当科目数の合計、後任補充の状況を記入ください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設 置 時 (〇〇年〇〇月)		〇〇意見	
設置計画 調 査 (△△年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年2月)		改善意見	
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年2月)	・同一設置者が設置する既設学部等(〇〇学科、●●学科)の～すること。	〇〇意見	

- (注) ・ 「設置時」には、当該大学等の設置時(認可時又は届出時)に付された留意事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を()書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
 - ・ 同一設置者が設置する既設学部等に付された意見は、当該大学から提出される全ての報告書に記入してください。
 - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」の(年月)には、調査結果を公表した月(通常2月)を記入してください。(実地調査や面接調査を実施した日ではありません。)

7 その他全般的事項

<情報理工学研究科 基盤理工学専攻（博士後期課程）>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
記入例) ① 修了要件単位 1 2 4 単位 ② 施設・設備 a 講義室〇室 b 自習室〇室（〇m） c 図書〇〇冊	科目（1科 象表」参照） 室，自習室を ，図書も〇〇冊 増書した。

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- ・ 設置時の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。（記入例参照）

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 大学教育センター教育推進部門が中心となり、教育の質の改善・向上に向けた取組を実施している。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） 教育推進部門会議（平成28年度） 第42回（6月13日：参加者8名） 第43回（9月28日：参加者9名） 第44回（11月21日：参加者5名） 第45回（1月30日：参加者7名） 第46回（3月2日：参加者9名）</p> <p>c 委員会の審議事項等 (1) ファカルティ・ディベロップメントの実施に関すること (2) 学生授業評価の実施に関すること (3) シラバス及び成績評価に関すること (4) 教育環境の整備に関すること (5) その他、教育に関わる調査の実施に関すること</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回TA講習会（4月6日） ・ FD数学、物理、情報、基礎学力検討会（4月13日） ・ 学院院新任教育系職員研修会（4月21日） ・ 第1回ハラスメント防止研修（7月5日） ・ 実験実習研究会（8月30日） ・ 第2回TA講習会（9月23日） ・ 教育研究技師部職員研修（9月26日） ・ 英語FDワークショップ（10月11日） ・ 第1回大学の教育力向上FD講演会「学生による授業評価アンケート、卒業生調査の活用を中心として」（11月29日） ・ 第2回ハラスメント防止研修（12月16日） ・ 第2回大学の教育力向上FD講演会「今、なぜアクティブラーニングか」（12月19日） ・ 公開授業：ソフトウェア工学（12月22日） ・ 第3回大学の教育力向上FD講演会「欧州大学の苦悩と挑戦 - 大学としての共通性と多様性をどう両立させるか -」（2月24日）
--

b 実施方法

大学教育センター教育推進部門を中心として、全学的なファカルティ・ディベロップメント講演会、公開授業の参観、授業評価アンケートに関するワークショップ等に取り組んでいる。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

4月6日：参加者287名【学生274名、教員13名】
4月13日：参加者39名
4月21日：参加者23名
7月5日：参加者111名
8月30日：参加者37名
9月23日：参加者68名【学生56名、教員12名】
9月26日：参加者19名
10月11日：参加者20名
11月29日：参加者63名
12月16日：参加者60名
12月19日：参加者57名
12月22日：参加者15名
2月24日：参加者39名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

教育改善調査の実施及び各種研修プログラムの提供について、第3期中期目標・中期計画を踏まえた道筋の検討を進めた。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前学期及び後学期終了時に実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

アンケート結果を教員にフィードバックすることにより、自主的な授業の改善を促しているほか、他の教員の参考となるように、アンケートの総合評価が高かった科目の中で、科目区分（講義、実験、体育、大学院）別に上位10%のものについて、大学教育センターの学内専用ウェブサイトで公開している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

設置計画に基づき、平成28年4月1日に開設した。「広い視野と倫理観を持ち、グローバル社会で活躍できる確かな専門知識と実践的な応用力を持ち、リーダーとして企画・開発をも担える高度専門技術者を育成する」という設置の趣旨・目的に沿った教育・研究体制のもと、現在まで順調に進んでいる。引き続き、当該趣旨・目的に沿った教育・研究活動を計画どおり実施していきたい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

平成29年7月公開予定

b 公表方法

「自己点検・評価報告書（年度計画の実施状況）」を作成し、大学ホームページにて公表する。

③ 認証評価を受ける計画

平成33年度に評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）の評価を受けるべく、学内で検討中

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (平成29年 6月 30日)